Gakken Mook
どきどき!プリキュア
DOKIDOKI! PRECURE
オフィシャルコンプリートブック
ドキドキがいっぱい!
キャラクターガイド
全49話&映画
ストーリーガイド
ほか
胸のキュンキュン
止まらない♥
イラスト&
インタビュー満載!

原画／高橋晃

contents

04-13 キャラクターデザイン・高橋晃イラストギャラリー
14-39 Character Collection
40-63 STORY GUIDE 第1話～第49話
50-51 OP・ED カット集
64-74 Cast Interview
75 Special Message
76-82 MOVIE GUIDE
83-93 Staff Interview
94-95 設定資料集
96-97 ジコチューカタログ

初出：『ドキドキ！プリキュア』スチール４

初出：番組宣伝ポスター

初出：『ドキドキ！プリキュア』スチール1

初出：『ドキドキ！プリキュア』スチール2

初出：『ドキドキ！プリキュア』スチール3

初出：『ドキドキ！プリキュア』スチール5

初出：月刊アニメディア2013年12月号

初出：月刊アニメージュ 2013年9月号（徳間書店刊）

初出：『ドキドキ！プリキュア』
カレンダー 2014年
（発売元：東映アニメーション）

初出：『ドキドキ！プリキュア』
カレンダー 2014年
（発売元：東映アニメーション）

初出：『ドキドキ！プリキュア』
カレンダー 2014年
（発売元：東映アニメーション）

初出：『ドキドキ！プリキュア』
カレンダー 2014年
（発売元：東映アニメーション）

初出：『ドキドキ！プリキュア』
カレンダー 2014年
（発売元：東映アニメーション）

初出：『ドキドキ！プリキュア』
カレンダー 2014年
（発売元：東映アニメーション）

初出：ドキドキ！プリキュア　等身大タペストリー（発売元：エンスカイ）

初出：『ドキドキ！プリキュア
オフィシャルコンプリートブック』
（学研パブリッシング刊）

初出：49話エンドカード

キュアハート
／相田マナ
1
プリキュアたちの
ドキドキの秘密を紹介するよ
Character
Collection
キャラクター
コレクション
みなぎる愛！
キュアハート!!
プリキュア！
ラブリンク！
初期設定のキュアハート
◀▲初期のラフデザイン画。髪形がボリューミーで、色のイメージはマナと同じピンクだった!?
愛をなくした
このキュアハートが
あなたのドキドキ
取り戻してみせる!!
▼胸のハートをやさしく両手でつつみこむように……！
◀両手でつくったハートに「愛」をこめて、ジコチューたちに放ちます！
キュアハート
（声／生天目仁美）
中学2年生の相田マナが変身したプリキュア。変身方法はラブリーコミューンにキュアラビーズをセットし、「プリキュア！ ラブリンク！」と唱えて「L・O・V・E」となぞる。すると金髪のキュアハートに変身！ キュアハートは「みなぎる愛」と笑顔の戦士。愛いっぱいの必殺技で、ジコチューを「浄化」する。イメージカラーはピンク。
14

キュアハートの決め技
▼弓矢型のアイテム・ラブハートアローに愛のエネルギーをセット、ハートの矢にして敵に放ち浄化する技
あなたに届け！マイスイートハート!!
ハートダイナマイト!!
▲タブレット型のアイテム・マジカルラブリーパッドから放つ愛のエネルギーで、敵を包み込み、浄化する技
プリキュア・ハートシュート!!
▲胸のハートから愛の光を放射し、敵に放って浄化する技
キュアハート表情集
基本モード
キュアハートの基本形。胸のアクセサリーや袖口、ブーツの飾りなどに、ハートの形が散りばめられている♥
エンドカード
またみてね！
http://asahi.co.jp/precure/
エンジェルモード
40話でパワーアップしたプリキュアたちの姿。背中にはエンジェルの羽根が！
合体技
プリキュア・ラブリーストレートフラッシュ!!
▲31話から登場したプリキュア５人の合体技。マジカルラブリーパッドに５人のエネルギーカードを集め、５枚のカードの力を合わせた強烈なエネルギーカードをキュアハートが飛ばして、敵を浄化する技
パルテノンモード
キュアハートの最終変身モード。49話で出現したプロトジコチューを、崇高な姿になったキュアハートが笑顔で浄化した♥
15
変身前のマナは次ページに登場！

相田マナ
（あいだまな）
大貝第一中学校２年生。生徒会長。誕生日は８月４日。星座はしし座。明るく前向きで、頼まれればなんでも引き受ける、やさしさと行動力の持ち主。誰にでも愛をふりまくマナを、親友の六花は童話の『幸せの王子』のようだという。スポーツ万能、学力優秀。でも、すごいオンチ。将来の夢は、「総理大臣」！「キュンキュンする」が口ぐせ。
マナの表情集
基本コスチューム
◀マナの欠点は……超オンチなの……
子どもの頃のマナ
マナ５歳
六花と出会った頃。
マナ６歳
ありすと出会った頃。
◀生徒会長として仕事は完璧！
▲生徒からの人気もバツグン！
超頼りになる生徒会長
制服
大貝第一中学校女子の制服はワンピース。背側の、丸いセーラーカラーがかわいい。コートは定番のダブル。
夏服
冬服
コート
マナのグッズ
バックステージパス
24話で真琴のコンサート会場に入った時の通行証。
PASS
学生カバンと上履き
大貝第一中学校のカバンと靴は男女兼用です。

マナの
ファッション
コレクション
訪問着
27話で亜久里に茶道を学ぶことに。慣れない正座で足がしびれて……。
浴衣
夏休みの28話でお祭りに着ていった浴衣。
夏の私服
ジーンズのショートパンツ
22話では海へ。ジーンズのショートパンツ姿。
ミニスカートとスパッツ
夏の私服もピンクのミニスカート！活発なマナらしくスパッツ付きだ。
パジャマ
レジーナを泊めた日の22話は半袖。ありすの家にみんなでお泊まりした33話は、上着を着用。43話は冬用のパジャマ。
夏用
冬用
運動着
体操着
ジャージは学校指定のもの。丸首のTシャツは28話のランニングで着用。
バレー部のユニフォーム
29話で助っ人に駆り出された。胸の「O」は大貝第一中学校の頭文字。
冬のコート
44話のクリスマスの雪の日に着たコート。
ダンスコスチューム
13話でローズレディコンテストに出場したマナたち。それぞれのイメージカラーのドレスで踊りました♪
マナの家族
家は洋食屋「ぶたのしっぽ亭」。パパの自慢料理はオムライスだ。パパと母方の祖父・宗吉とは料理で意見が対立することも。
23話のお祭りで、フリーマーケットの準備をするおじいちゃん。
祖父・板東宗吉（ばんどうそうきち）
（声／石住昭彦）
母・相田あゆみ（あいだ）
（声／上田晴美）
父・相田健太郎（あいだけんたろう）
（声／金光宣明）

キュアダイヤモンド／菱川六花

キュアダイヤモンド（声／寿美菜子）

マナの同級生・菱川六花が変身するプリキュア。プリキュアなんて無理と思っていた六花は、キュアハートとして頑張るマナの役に立ちたいと変身を決意。ラブリーコミューンにキュアラビーズをセットする変身方法はキュアハートと同じだ。決めゼリフのとき両手でダイヤの形をつくる。雪や氷の技で敵の「頭を冷やして」浄化する。イメージカラーはブルー。

◀両手でハートをつくり、そして……！

▲最後は両手でダイヤの形をつくる

初期設定のキュアダイヤモンド

◀初期のラフデザインの段階で、今のダイヤモンドのイメージはできあがっていたようだ

変身前の六花は次ページに登場！

菱川六花
（ひしかわりっか）
大貝第一中学校２年生。生徒会書記。誕生日は９月17日。星座は乙女座。マナの幼なじみで、マナが困ったときは力を貸す頼りになる相棒だ。ラケルからは「六花はマナのいい奥さん」といわれている。留守がちな両親に代わって家事いっさいをこなすしっかり者。真面目で勉強熱心、成績優秀。将来の目標はお母さんのようなお医者さんになること。
六花の表情集
メガネバージョン
◀勉強するときは赤い縁のメガネをかける
基本コスチューム
学校の制服はＰ16のマナと同じ。これは普段着のジャンパースカート。
▲お医者さんをめざして勉強、勉強！
◀マナの面倒もみてあげないと！
エプロン姿
六花は料理も得意♪　26話で、記憶喪失になったイーラのためにオムライスを！
マナの相棒はしっかり者の優等生
子どもの頃の六花
六花5歳
マナと出会った頃。
パパとママと六花
14話の回想シーンに登場した３人。ピクニックに行ったとき。
六花６歳
ありすと出会った頃。
六花のグッズ
カエルの目覚まし時計
朝の必需品もカエル型。六花の小物はカエル尽くし。その謎は……Ｐ91へＧＯ！
カエルのバッグ
37話で農園に行ったときのバッグはカエル型。
20

六花の
ファッション
コレクション
訪問着
27話で茶道を学んだとき。色も柄も落ちついた感じ。
浴衣
28話の夏祭にて。髪をアップにすると大人っぽい印象に。
夏の私服
遊び着
22話でレジーナを連れてみんなで海へ遊びに行ったとき着用。
サマードレス
ラケルとふたりで海に行った、26話で着用した。
パジャマ
長袖のパジャマとカーディガン。シンプルなデザイン。
帽子
夏のストローハットは2種類。左の帽子は22話、右は26話のイーラと出会った夏の海で着用。
防寒着
飛び去ったクリスタルを追って雪山へ。防寒着にも個性があります。六花、渋い……。
冬のコート
44話で着たトラディショナルなダッフルコート。
運動着
大貝第一中学校のジャージ。
六花のライバル
かるたクイーン
（声／鈴木真仁）
立花が「百人一首」にハマり、14話の大会で対戦した「かるたクイーン」。かるたも強いが、結婚願望も強い。強烈な存在感を残した。
六花の家族
父はフォトグラファーで世界を飛び回り、母は小児科医で夜勤も多い。六花がしっかり者なのは、両親から自立しているせいかも。
母・菱川亮子
（声／湯屋敦子）
父・菱川悠蔵
（声／前田剛）
21

キュアロゼッタ／四葉ありす
Character Collection
キャラクターコレクション
ひだまりポカポカ！キュアロゼッタ!!
プリキュア！ラブリンク！
キュアロゼッタ（声／渕上舞）
マナや六花の幼なじみ・四葉ありすが変身するプリキュア。プリキュアのプロデューサーになるつもりだったが、大切な友達を守るために変身を決意した。キュアロゼッタは、当初は盾で敵の攻撃をさえぎる防御型の戦士だったが、のちに攻撃にも積極的に参加するように。変身方法はキュアハートたちと同じ。決めゼリフのとき両手でクローバーの形をつくる。イメージカラーはイエロー。
世界を制するのは愛だけです。さあ、あなたも私と愛を育んでくださいな！
▶最初はハートの形。そしてクローバーの形へ！
初期設定のキュアロゼッタ
▶愛らしい印象はこの頃から。でも、初期デザインのロゼッタは、ツインテールが短い！

キュアロゼッタの基本形。ロゼッタとは放射状に花ビラがならぶ花のこと。植物がモチーフになっているプリキュアなので、髪のリボンやブーツの飾りなどにも花や蝶がデザインされている。

▶ラブハートアローで円を描き、ロゼッタウォールより巨大な盾をつくる。防御だけでなく、敵の攻撃をはね返して攻撃技に変えることもできる

▲両手からエネルギーを出して四葉型の盾を2枚つくり、敵の攻撃を防御する技

▶48話では、ランス型巨大人形が出たでラ～ンスゥ～!!

▲大きな風船を炸裂させ、中から無数の光の蝶を放って敵を包み込む技。蝶だけでなく、いろんなモノが出る。何が出るかは「毎回のお楽しみ」♪

▶30話で登場した4人の合体技。キュアハート、キュアダイヤモンド、キュアソードの力をキュアロゼッタに届け、ロゼッタリフレクションを強化する技

変身前のありすは次ページに登場!

四葉ありす（よつばありす）
誕生日は5月28日。星座は双子座。マナたちと同じ小学校に通っていた幼なじみ。四葉財閥のお嬢さまで、中学は私立七ツ橋学園へ。今も月1回のお茶会は欠かさない。世界中の人を笑顔にするのが目標で、四葉財閥の力があれば実現できると信じている。ひとりっ子と思われたが、実は兄がいるらしい。衝撃の真相はP88で明らかに！
四葉財閥の力で愛を守るお嬢さま
ありすの表情集
おっとりしてるお嬢様は、実は文武両道です♪
四葉財閥の経営にたずさわる超セレブ！
基本コスチューム
ワンピースもジャケットも、ふわふわのフリルで"お嬢さま"スタイル。
子どもの頃のありす
ありす5歳
病弱で、お家の庭でしか遊べなかった頃。
ありす6歳
マナや六花と出会い、ありすは笑顔になることができた。
執事セバスチャン（声／及川いぞう）
忠実で仕事は完璧。人工プリキュアに変身し、甲冑をまとい、ありすを守ろうとしたセバスチャンは最強の執事だ！
キュアセバスチャン
人工コミューン
カッチューセバスチャン
ありすのグッズ
ヘリコプター
20話に登場したありす専用ヘリ。
ティーセット
月1回、マナたちを呼ぶお茶会のティーセット。
ロイヤルイエロー
ありすが13話で獲得したコンテストの賞品のバラ。
リムジン
通勤通学に使うありす専用リムジン。

訪問着
27話で着用。帯留も「四葉」！
浴衣
28話の夏祭で着用。帯の蝶結びがかわいい♪
夏の私服
遊び着
22話で着た海辺の遊び着は軽快なミニスカート。
サマードレス
夏の普段着。サマードレスもフリル♪
ナイトウェア
マナたちはパジャマだけれど、ありすは「ネグリジェ」。
冬用
夏用
ありすのファッションコレクション
運動着
道着
ロゼッタの防御が破られ、25話で自らを鍛え直す！
テニスウェア
13話で「最高のレディ」を競うテニス対決で。
ジャージ
四葉のデザインは、ありすオリジナルらしい。
冬のコート
クリスマスに着たケープ付きコート。
ライバル（!?）
ありすを一方的にライバル視する五星財閥令嬢・麗奈。マナたちを「猿」と呼ぶ。
五星麗奈
（声／氷青）
麗奈のとりまき
子どもの頃
ありすの家族
父は四葉家の総帥として多忙、オペラ歌手の母も世界で活躍。ありすに影響を与えたのは今は亡き祖父・一郎。
祖父・四葉一郎
（声／麦人）
母
父・四葉星児
（声／中村秀利）

キュアソード／剣崎真琴

▲▶変身が決まったら、両手でスペードの形をつくって決めゼリフ！

キュアソード（声／宮本佳那子）

トランプ王国からマリー・アンジュ王女とともに地球に逃れてきたプリキュア。王女とはぐれ、剣崎真琴としてアイドル活動をしながら王女の行方を捜していた。キュアソードの攻撃はエネルギーを「剣」の形に変えて放つのが特徴。変身方法はキュアハートたちと同じだが、立ち姿は「うしろ向き」。決めゼリフで両手でスペードの形をつくる。イメージカラーはパープル。

初期設定のキュアソード

▼▶初期ラフの段階では、髪形はショートではなく、ロングヘアーだった

キュアソード表情集
キュアソードの決め技
ひらめけ！ホーリーソード!!
プリキュア・スパークルソード!!
ソードハリケーン!!
▼マジカルラブリーパッドを使い、無数の光の剣を含んだハリケーンを起こして敵を吹き飛ばす
▲ラブハートアローをなぞることで大量の光の剣を放出。敵に向けて連射する
▲無数の光の剣を、クナイ（棒手裏剣）のように敵に向けて放つ
基本モード
キュアソードの基本形。変身後も髪はショート。スカート丈のすっきりした短さや、ロングブーツなど、「剣（ソード）」を連想させるシャープなイメージだ。
マント姿
トランプ王国で王女様の前に出て歌うとき着けていたマント。
合体技
プリキュア・ラブリーフォースアロー!!
▶キュアハート、キュアダイヤモンド、キュアロゼッタ、キュアソードの合体技。４人のラブハートアローから放たれるエネルギーが、ひとつになって敵を圧倒する。キュアソードの呼びかけで、15話で初めて登場
エンドカード
またみてね！
http://asahi.co.jp/precure/
ドキドキ！プリキュア
変身前の真琴は次ページに登場！

剣崎真琴
（けんざきまこと）
誕生日は11月4日。星座はさそり座。トランプ王国の歌姫。ジコチューの侵略を逃れて王女とともに地球へ。行方不明の王女に歌声が届くように地球ではアイドルとして活動、ファンから「まこぴー」の愛称で親しまれている。マナたちと出会い笑顔を取り戻していくが、マナがキングジコチューの娘・レジーナにも愛情を注ぐ様子を複雑な思いで見ていた。
真琴の表情集
基本コスチューム
活動的なショートパンツと長いベスト。ベストの先も「剣（ソード）」のイメージ!?
トップアイドル・まこぴー!!
▶アイドルとして活躍するまこぴー♪
▲トランプ王国でも人気の歌姫だった！
ステージ衣装
まこぴーの衣装は、スカートのうしろもソード型。左下は、視聴者デザインコンテストの当選作をもとにした新衣装。
ファンとの交流
ファンを大切にするまこぴー。
『スノーホワイト』の衣装
15話で演じた「白雪姫」。
子どもの頃の真琴
真琴には身寄りがないらしい。トランプ王国の孤児院にいた頃。
真琴4歳
“まこぴー”のサイン
転入した学校で、答案用紙の氏名欄にもサイン。
インカム
ステージで装着。
真琴のグッズ
サングラス
有名人の必需品。
DBの車
マネージャー・DBが運転する。
ジュエリーポーチ
ロイヤルクリスタルを入れるポーチ。
変装用の帽子とメガネ
町に出るときの変装。メガネはレンズなし。

真琴の
ファッション
コレクション
訪問着
27話で着用。薄紫の落ちついた色合い。
浴衣
28話の夏祭で着た浴衣。真琴の帯も蝶結び。
夏の私服
遊び着
22話の海ではノースリーブのブラウスを着用。
ミニスカートとベスト
夏のベストは短め。
パジャマ
まこぴーは猫好き？　パジャマにもカップにも猫！
夏用
冬用
冬のコート
クリスマスに着用。後ろのすそはベストと同じソード風。
文化祭の衣装
"喫茶"をやった2年2組の女子はコレ！
おおとり環
(声／山像かおり)
15話で真琴を厳しく指導した大女優。
ライバル
森ハルナ
真琴と同じ事務所のアイドル。人気は……ちょっと残念。
事務所のスタッフ
社長
事務所の社員
芸能事務所「ヨツバミュージック」のみなさん。
マネージャー・DB
妖精ダビィが変身した姿。

▲両手で「A」をつくったら、ウインクで決め！

▲初期デザインのエース。完成形のほうがオトナっぽいかも!?

変身前の亜久里は次ページに登場!

円亜久里
（まどかあぐり）
誕生日は不明。円家の養女になって１年ほどしかたっておらず、それ以前の記憶がないという謎多き小学４年生。「誕生日がわからなければ、いつお祝いしてもいいということ」というマナの発案で、素敵なパーティを開いてもらった。性格はクールで自信家。常に成長したいと思う努力家で、言葉遣いはレディのようにていねいだ。スイーツには目がなく、ケーキやアイスを前にすると、メロメロに。
基本コスチューム
ミニスカートもブラウスも、かわいらしいフリル。体格もきゃしゃ。この子が「エース」に変身するとは！
亜久里の表情集
▶中学生にだって負けません！
小さなレディは謎の小学４年生
プリキュアたるもの一流のレディたるべし
▶自分自身にも厳しいのです！
亜久里のグッズ
バースデーケーキ
マナたちがこっそり準備したケーキ。小４なので、ろうそくは10本。
おたんじょうびおめでとう
▶スイーツには……ふにゃぁん♥
お茶の道具
おばあさまは茶道の先生。27話で亜久里もお点前を披露。
赤ちゃんの亜久里
43話のおばあ様の回想で明かされた、亜久里の秘密。
▲▶赤ちゃんが、一瞬にして少女に！
ニンジンのオバケ
亜久里の頭の中に現れるオバケ……。
リュックと帽子
37話でニンジン農場へ行ったときのスタイル。

訪問着
27話でお茶を立てたときに着用。こちらは蝶がモチーフ。
浴衣
バラの花をモチーフにした浴衣。髪留めもバラの花♪
夏の私服
ワンピースとシューズが真っ赤でおそろい。
パジャマ
33話のありすの家のお泊まり会で着たもの。
亜久里のファッションコレクション
運動着
トレーニングウェア
パワーアップするために走った！……ほっそ……。
ジャージ
大貝第一中学校のジャージ3人組とオリジナルのありす。亜久里のジャージは小学校指定!?
冬のコート
クリスマスに着用した赤いポンチョ。胸のボタンもバラの花。
マナから借りたパジャマ
43話で家を飛び出した亜久里は、マナの家に泊めてもらうことに。
亜久里の家族
出生が謎に包まれた亜久里。育ててくれた「おばあ様」を本当の祖母のように慕っている。
おばあ様・円茉莉
（声／唐沢潤）
亜久里のお友達
プリキュアは大切な仲間だけれど、小学4年生の亜久里には、同級生のエルちゃんが一番のお友達かも。
森本エル
（声／森谷里美）

妖精たち

妖精は、マナたちをプリキュアに変身させる大切なパートナー。シャルルたち三姉弟やアイちゃん、メランなど、さまざまな姿の妖精たちが登場！

Character Collection キャラクターコレクション 6 9

ランス（声／大橋彩香）

妖精三姉弟の末っ子の男の子。キュアロゼッタのパートナー。「〜でランス」とつけてしゃべる。虫歯の真琴に「アイドル失格でランス〜」と言うなど、幼いせいか思ったことをすぐ口にする。小さな男の子に変身できる。

シャルル（声／西原久美子）

人間バージョン

トランプ王国からやってきた妖精三姉弟の長女で、キュアハートのパートナー。熱い心をもったがんばり屋さんだ。しゃべるときは「〜シャル」で終わるのが特徴。中学1年生ぐらいの女の子に変身することもできる。

ダビィ（声／内山夕実）

キュアソードのパートナーで、一緒にトランプ王国から逃れてきた。語尾に「〜だビィ」とつけてしゃべる。冷静で理知的な大人の女性に変身し、アイドル・剣崎真琴のマネージャー「DB」としても活動する。

ラケル（声／寺崎裕香）

妖精三姉弟の真ん中の男の子。キュアダイヤモンドのパートナーで、しっかり者。語尾に「〜ケル」とつける。小学生ぐらいの男の子に変身し、マナたちのクラスメートの女の子にドキドキしたこともある。

アイテムコレクション

パワーアップアイテム

ラブハートアロー

より強力で多彩な技を可能にしたアイテム。形は4人のプリキュアとも同じだが、使う技によって構え方が異なる。

武器ラビーズ

ラブハートアローにセットし、決め技をくりだす。

ラブアイズパレット

キュアエース用

キュアエースの変身アイテム。アイちゃんの力で生み出される。5つのロイヤルクリスタルのほか、中央にキュアラビーズをセットする場所がある。

ラブキッスルージュ

キュアエースが決め技を出すときのアイテム。4色で4つの技が使える。

変身アイテム

ラブリーコミューン

キュアハート用　キュアダイヤモンド用　キュアロゼッタ用　キュアソード用

妖精たちが姿を変え、パートナーの変身アイテムに。

キュアラビーズ

ラビーズをラブリーコミューンやラブハートアローなどにセットすると、変身や技が可能になる。

変身＆技ラビーズ　お世話ラビーズ

ラブリーコミューンキャリー

プリキュア変身後はキャリーケースの中へ。

アイちゃんのゆりかご

アイちゃんのベッド。このまま運ぶことができる。

アイちゃん（声／今井由香）

卵から生まれた謎の赤ちゃん。「アイ、アイ」とだけ言えたので、ありすが名づけた。「きゅぴらっぱー！」と叫んでキュアエースを変身させるパートナー。キュアラビーズを作り出すなど、不思議な能力を持つ。

きゅぴらっぱ〜!!

人間バージョン

グレたアイちゃん

反抗期の「いやいや期」にジコチューのベールたちに育てられ、ちょっとだけグレた。

アイちゃんの卵

ジョー岡田のお店「ソリティア」にあった卵から、アイちゃんは生まれた。

人間バージョン

キュアエンプレス（声／飯塚雅弓）

1万年前に活躍したプリキュア。妖精メランのパートナーだった。

メラン（声／松岡洋子）

孤島で水晶の鏡を守り続けていた妖精。気難しい性格だが、マナたちの力を認め、鏡を託すことに。戦うときはドラゴンに変身できる。

ドラゴンバージョン

水晶の鏡

キュアエンプレスが持っていた武器。「三種の神器」のひとつ。

三種の神器

1万年前のプリキュアたちが使った武器。3つの武器を合わせることで、邪悪な「プロトジコチュー」を封じることができた。

ミラクルドラゴングレイブ

すべてを貫く光の槍。トランプ王国のマリー・アンジュ王女が持っていたが、39話でレジーナの手に。

マジカルラブリーハープ

キュアハートがキュアラビーズをラブリーコミューンにセットし、アイちゃんの力でマジカルラブリーパッドを変形させたもの。このハープを爪弾くとエンジェルモードに進化し、パワーアップした合体技も可能に。

マジカルラブリーパッド

三種の神器のひとつ「水晶の鏡」はジコチューに破壊されるが、プリキュア5つの誓いを胸に5人が強い決意をいだくと、タブレット型の新たなラブリーパッドに生まれかわった。

マジカルラブリーパッドのカード

マジカルラブリーパッドにキュアラビーズをセットしてカードを出現させると、4人の合体技「ラブリーストレートフラッシュ」を発動できる。

エターナルゴールデンクラウン

あらゆる知識がつまった黄金の冠。冠が認めた者がかぶると、知りたいことを何でも教えてくれる。

アン王女
Character Collection
キャラクターコレクション
7
2
アン表情集
マリー・アンジュ
トランプ王国の王女。ジコチューの侵略から国を守るため勇敢に戦い、キングジコチューを封印。キュアソードとともに地球に逃れる途中、行方不明になった。46話で、アン王女とレジーナ＆亜久里の関係、そしてアイちゃん誕生のいきさつが明らかになった。
基本コスチューム
高貴さが漂うロングドレスを着用する。
寝間着
46話の回想で着用。
子どもの頃の王女
46話の回想に登場したアン王女。誕生直後に母を失い、父親である王様の愛を一心に受けて育った。
生まれたばかりの王女
アン6歳
アン14歳
2分化
王女は自らプシュケーをふたつに割り、黒く染まったプシュケーはレジーナに、白いプシュケーは亜久里に受け継がれた。そして、プシュケーの抜けた王女自身は卵に生まれ変わり、アイちゃんが生まれた。
亜久里
生まれ変わる
アイちゃん
氷柱
20話で見つかった王女は氷の中に！
甲冑姿
神器ミラクルドラゴングレイブでジコチューと戦う！
ジョー岡田
<ジョナサン・クロンダイク>
（声／櫻井孝宏）
マナたちにキュアラビーズを渡し、プリキュアへと導いた謎の青年。その正体は王女の婚約者だった。アクセサリーのお店「ソリティア」をベースに、王女を捜していた。
王様
（声／大塚芳忠）
アン王女の父。病に侵された娘を愛するあまり……。
ジコチュー化
国よりも娘を選んだことで、究極のジコチュー・キングジコチューになってしまった。
トランプ王国の人々
46話で明かされた“トランプ王国の真実”の中で登場した人たち。
医者
侍従
侍女
甲冑姿
トランプ王国の戦士だった“ジョー”。
ソリティア店長
チューリップハットがトレードマーク。

レジーナ
Character Collection
キャラクターコレクション
8
レジーナ表情集
レジーナ
（声／渡辺久美子）
キングジコチューの娘で超わがまま。マナのことが大好きで本当の友達になりたいと願ったが、パパと別れられなかった。複雑な思いに揺れ動いたが、最後はマナたちの力を借りて、パパの「本当の心」をキングジコチューの肉体から切り離すことに成功した。
争奪戦のユニフォーム
19話で行われた、勝ったほうが５つのロイヤルクリスタルを総取りするゲームバトル。第１試合はサッカーのＰＫ戦。第２試合はボウリング！
サッカー
ボウリング
青い目のレジーナ
マナの友達でいる「いい子」のとき。
赤い目のレジーナ
17話でロイヤルクリスタルを見たレジーナの目は赤く染まった！
夏の私服
マナたちと海に行ったときの服。マナから借りた!?
キングジコチュー
レジーナの「パパ」はキングジコチュー。アン王女によって封印されていた。
初期設定
▶髪にボリュームがあった初期のラフ
パジャマ
22話でレジーナはマナたちと海で遊び、マナのパジャマを借りてお泊まり。
ジャネジーに染められたレジーナ
38話で悪のエネルギーに完全に染められてしまったレジーナ。

ジコチュー
ジコチューはキングジコチューを復活させるため、人間をジコチュー化することで生まれる悪のエネルギー「ジャネジー」を集めていた。イーラ、マーモ、ベールのトリオやリーヴァとグーラは、幹部としてプリキュアと戦った。
9
Character Collection
キャラクターコレクション
6
イーラ（声／田中真弓）
ジコチュートリオ最年少。性格は残酷。動きが機敏でナイフを使う。作戦に失敗すると「憤怒」の形相に。4話で六花と出会い、26話では記憶喪失状態で出会うなど、六花との関係が注目された。
初期設定
▲王子様風だった初期デザイン
イーラの表情集
記憶喪失のイーラ
26話で記憶を失ったときは、穏やかな表情を見せた。
学生服
44話でマナをおびき出すために変装。
プシュケーを飲み込み、怪物に！
イーラビースト
マーモの表情集
セーラー服
イーラと共にマナを連れ出すために変装した。
マーモ（声／田中敦子）
ジコチュートリオの紅一点。目的のためには手段を選ばない「強欲」さで仲間も裏切る。鞭を武器に風を操る。美貌に気を使い、レジーナにオバサン呼ばわりされると猛烈に怒る。
キューティマダム
25話ではセバスチャンの人工コミューンを使い、プリキュアもどきに変身！
初期設定
▶マーモは初期ラフでほぼ完成
マーモビースト
パワーアップしたマーモ。
お出かけスタイル
セバスチャンと同じ型のキャリーバッグを持っていたために……。

ダメージベール
身体能力も高いのにドジ……。
ベールの表情集
新ジコチューマーク
ブラッドリング
イーラとマーモを操るためベールがつけさせた指輪。
ベールが扮したニセ・ジョー
マナたちをトランプ王国に連れていくために変装。
ベールビースト
闇のプシュケーでパワーアップ！
ベール
（声／山路和弘）
ジコチュートリオのリーダー格で戦略家。アジトでは、キャンディーをなめながら「怠惰」な男に見えたが、実はキングジコチューにとって代わろうとした野心家だった。
初期設定
▶ベールはコスチュームが変化している
黒タイツボロボロ
アイちゃんに振り回され……。
黒タイツ
いやいや期のアイちゃんを「悪い子」にするため変装した３人。
リーヴァとグーラ
失敗続きのジコチュートリオに代わり、23話で現れたふたり組。自信満々だったが、キュアエースの登場もあり、あえなく敗退。
プロトジコチュー
（声／岩崎征実）
最終決戦で姿を現した邪悪な闇の本体。１万年前にキュアエンプレスたちに封印された。49話でベールの体をとりこみ、本来の姿となって蘇った。
合体リーヴァ・グーラ
ジコチュートリオとは違い、ナイスなコンビネーションだったが……。
謎の２幹部
ジコチュー幹部は実は７人いたらしい。残るふたりは46話に登場していた!? ふたりの真相はＰ89で明らかに！
グーラ
（声／天田益男）
いつも何かを食べている「暴食」の男。性格は凶暴。
リーヴァ
（声／飛田展男）
「嫉妬」深いオネエ系。ベールと因縁があるらしく「ちゃん」付けで呼ぶ。

IDE 第1話～第49話

▼男性客の「横入りできたらいいのに」という心の闇から生まれた怪物は、カニ1号ジコチュー

愛をなくした悲しいカニさん、
このキュアハートがあなたのドキドキ取り戻してみせる❤

▶闇の色に染まった人間の心（プシュケー）から生まれた怪物・ジコチューをイーラとマーモが操る！

▲「みなぎる愛、キュアハート！」。最初の浄化用の決め技は「マイスイートハート！」

▶シャルルをあっさり受け入れるマナ。そんなマナを救ってくれたキュアソードが捕まってしまう！

第1話 地球が大ピンチ! 残された最後のプリキュア!!

生徒会長・相田マナ変身して戦います！

相田マナは、大貝第一中学校の生徒会長。クローバータワーを見学する彼女は、アイドルの剣崎真琴が身につけていたアクセサリーに似たものをショップで発見する。店のお兄さんは、それを「キュアラビーズ」だと教え、マナに譲ってくれた。一方、イーラがエレベーターを待つ客の闇の心を解き放ち、ジコチューを生み出した。人々を助けるマナを、妖精・シャルルが「変身して戦うシャル」と誘うが、変身できない！　そこへ現れたキュアソードがジコチューを浄化するものの、イーラの仲間のマーモが操るジコチューに捕まってしまった。キュアソードを助けたいマナの心にキュアラビーズが反応し、キュアハートに変身！

◀マナは、ショップのお兄さんに、「キュアラビーズ」と呼ばれるアクセサリーをもらう

愛をなくした悲しい信号機さん、
このキュアハートがあなたのドキドキ取り戻してみせる❤

▲信号機ジコチューは、赤信号の光線で相手の動きを止めるが、青信号になると効果が消える

▶マナは、身を削って人を救う「幸せの王子」？

▼六花に隠しごとをしているのが心苦しいマナ

▼後ろからこっそり近づいた六花が、信号機ジコチューのお尻にある歩行者用ボタンをポチッ！

◀マナがキュアハートに変身するのを見た六花は「本当にありえないんだから！」と仰天

第2話 ガーン! キュアハートの正体がバレちゃった!!

正直者のマナは親友に隠しごとはできません！

ジコチューは本当は暴れたくないのだと気づいたキュアハートは、ジコチューの浄化に成功！　でも、キュアソードは心を開いてくれなかった。シャルルに「話せば戦いに巻きこむ」と注意されたマナは、幼なじみの菱川六花にもプリキュアの秘密を言わないことにする。ところが、ウソが苦手なマナは、普通の会話もうまくできない状態に……。同じ頃、イーラが遅刻しそうな生徒の心の闇から信号機ジコチューを生み出す。覚悟を決めたマナが六花の目の前でキュアハートに変身するが、動きを止められてしまう。六花が信号機ジコチューの青ボタンを押すことで動けるようになったキュアハートは、浄化に成功！

▶転落するキュアソードを救うキュアハートは、浄化することでジコチューにされた人も救う

【第2話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　キュアソード／宮本佳那子　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　坂東宗吉／石住昭彦　相田健太郎／金光宣明　相田あゆみ／上田晴美　城戸先生／前田一世　二階堂／佐藤拓也　百田／桜井翼　十条／白川周作　男子生徒／金本涼輔　イーラ／田中真弓　マーモ／田中敦子　ジコチュー／岩崎征実　●STAFF　脚本：山口亮太　原画：河野宏之　永島英樹　藤井孝博　比留間梢　矢ヶ崎美恵　増田誠治　田中伸昭　丸山匡彦　西村元秀　北田美弥子　森島浩一　冨木由美子　生水勇気　渡邉寛子　フランシス・カネダ　ノエル・アンニョヌエボ　レジー・マナバット　レム・バレンシア　デジタル彩色：Toei Phils.　かぐら　Ａ－ＬＩＮＥ　デジタル特殊効果：牛山裕美　色指定：板坂泰江　背景：増田竜太郎　行信三　佐藤美幸　田中里緑　佐藤千恵　飯野敏典　牟田いずみ　デザインオフィス・メカマン　石原信明　上原里香　とんぼスタジオ　山下千歌　デジタル撮影：三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　ＣＧデザイナー：川原祐介　佐々木嘉久　宮澤孝介　林春香　藤田匡　足立尚樹　副島貴大　森川万貴　渡辺ゆたか　峯沢琢也　編集：麻生芳弘　録音：林奈緒美　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：中村明博　製作進行：柏倉幸恵　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　ＣＧ進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：岸本拓磨（ＡＢＣ）　多田香奈子（ＡＢＣ）　美術：篝ミキ　作画監督：河野宏之　演出：古賀豪　岩井隆央

【第1話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　キュアソード／宮本佳那子　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　ジョー岡田／櫻井孝宏　セバスチャン／及川いぞう　城戸先生／前田一世　二階堂／佐藤拓也　百田／桜井翼　十条／白川周作　三村／大林洋平　八嶋／一木千洋　イーラ／田中真弓　マーモ／田中敦子　ジコチュー／岩崎征実　美智子／森谷里美　母親／慶長佑香　バスガイド／津川祝子　不良／松本忍　女子生徒／種﨑敦美　協力／東映東京撮影所　●STAFF　脚本：山口亮太　原画：原田節子　完甘美也子　星川信芳　松田千織　高橋任治　松浦仁美　松本和志　河村信道　北田美弥子　渡邉寛子　小松こずえ　美馬健二　大田謙治　生水勇気　竹内広幸　古市佳祐　石川てつや　赤田信人　清水隆正　藤井孝博　大内智美　比留間梢　増田誠治　板岡錦　中村純子　渡辺浩二　馬越嘉彦　羽田浩二　中村真由美　若野哲也　大野泰江　神谷智大　上野ケン　デジタル彩色：Toei Phils.　かぐら　Ａ－ＬＩＮＥ　デジタル特殊効果：牛山裕美　色指定：佐久間ヨシ子　背景：篝ミキ　飯野敏典　行信三　牟田いずみ　田中里緑　佐藤千恵　西田渚　デジタル撮影：三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　ＣＧデザイナー：川原祐介　宮本浩史　笹岡晃子　宮原洋平　中谷純也　向後佳祐　森山美里　小林真理　林沙樹　米澤真一　編集：麻生芳弘　録音：川崎公敬　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：鈴木裕介　製作進行：澤守洸　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　ＣＧ進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：岸本拓磨（ＡＢＣ）　多田香奈子（ＡＢＣ）　美術：増田竜太郎　作画監督：小松こずえ　演出：古賀豪

STORY GU

▶もてない男性の「手紙なんて届かなければいい」というひがみから生まれたヤギジコチュー

◀受け取りをしぶる六花に対して、ジョーは「このキュアラビーズが君を選んだ」と説得する

▲「英知の光、キュアダイヤモンド！」。最初に放つ決め技は「トゥインクルダイヤモンド」

◀氷を操る技を使うキュアダイヤモンド。その決めゼリフは、「あなたの頭を冷やしてあげる！」

第3話 最高の相棒登場！キュアダイヤモンド!!

幼なじみの大親友がプリキュアの仲間に！

六花とマナは、キュアラビーズをマナにくれたお兄さん・ジョー岡田と再会。六花から「キュアラビーズの力でマナが変身した」と聞いたジョーは、彼女にもキュアラビーズをプレゼント。同じ頃イーラが、ポストの手紙を食べるヤギジコチューを生み出す。キュアハートが駆けつけると、六花が海外にいる父親に宛てたエアメールを発見。それを守るキュアハートを見て、マナを助けたいと願う六花。キュアラビーズが輝き、ラケルの協力で六花がキュアダイヤモンドに変身！　氷を操る技でジコチューを浄化した。戦いの後、妖精・ランスがいないことに気づいてあわてるマナと六花。そこへ四葉ありすがやってきて……。

▶六花は、マナと出会ったときからこれまでの日々を思い出す。ふたりは、何をするのも一緒だった！

第4話 お断りしますわ！私、プリキュアになりません!!

大財閥のお嬢様は仲間を守る防御技がお得意!?

マナと六花の親友のありすは、防犯カメラの映像からプリキュアのことを知っていて、迷子のランスを預かっていた。しかも、彼女もジョーからキュアラビーズをもらっていた。ランスは、ありすもプリキュアとして戦ってほしいと願うが、彼女はそれを断ってしまう。ありすは、小学生の頃にいじめっ子を武術で倒した苦い経験から、自分を見失って誰かを傷つけるのを恐れているのだ。だが「力は愛する者を守るためのもの」という祖父の言葉を思い出したありすのキュアラビーズが輝いて、ランスの協力でキュアロゼッタに変身！　ラジカセジコチューの騒音攻撃をバリアで防ぎ、キュアハートの浄化をサポートした。

◀マナの名乗りの途中で攻撃する短気なラジカセジコチュー。テープなどで攻撃してくる

愛を忘れた
悲しいラジカセさん、
このキュアハートが……うわっ！
ちょっと、最後まで言わせてよ！

◀ありすは、財閥の情報網を生かしてプリキュアの秘密を守るなどのサポート役を買って出る

▲ありすの執事・セバスチャンが猛スピードで運転する車で急行したふたりは車酔いに！

▲「ひだまりぽかぽか、キュアロゼッタ！あなたも私と愛を育んでくださいな！」

◀防御技「ロゼッタウォール」は、両手のクローバー型のバリアであらゆる攻撃を食い止める

▶マナを泣かせたいじめっ子を叩きのめした小学生時代の思い出は、ありすの心の傷になった

【第4話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　四葉一郎／麦人　セバスチャン／及川いぞう　男の子／森谷里美　男の子／神田みか　男の子の兄／大林洋平　イーラ／田中真弓　マーモ／田中敦子　ベール／山路和弘　ジコチュー／岩崎征実　協力／東映東京撮影所　●STAFF　脚本：山口亮太　原画：小林慶輝　川口幸治　阿尻隆司　岸祐弥　伊藤智子　野津美智子　大谷房代　池田志乃　下村こず恵　白井奈緒子　島崎望　松田千織　永澤謙一　大内智美　山本実　板岡錦　山岡直子　デジタル彩色：Toei Phils.　Ａ－ＬＩＮＥ　デジタル特殊効果：牛山裕美　色指定：板坂泰江　背景：デザインオフィス・メカマン　中村嘉博　上原里香　石原信明　鈴木祥太　邱文美　デジタル撮影：三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　ＣＧデザイナー：川原祐介　宮本浩史　笹岡晃子　宮原洋平　林沙樹　中谷純也　向後佳祐　森山美里　編集：麻生芳弘　録音：林奈緒美　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　製作進行：澤守洸　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　ＣＧ進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：岸本拓磨（ＡＢＣ）　多田香奈子（ＡＢＣ）　美術：田中美紀　作画監督：伊藤智子　演出：田中裕太

【第3話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ジョー岡田／櫻井孝宏　坂東宗吉／石住昭彦　相田健太郎／金光宣明　相田あゆみ／上田晴美　菱川悠蔵／前田剛　城戸先生／前田一世　二階堂／佐藤拓也　百田／桜井翼　女子生徒／一木千洋　イーラ／田中真弓　マーモ／田中敦子　ベール／山路和弘　ジコチュー／岩崎征実　協力／東映東京撮影所　●STAFF　脚本：山口亮太　原画：和田喜彰　藤井芳徳　田中希果　斎藤佑　榎本勝紀　稲上晃　大田謙治　高橋晃　比留間梢　デジタル彩色：阿部千春　伊藤元子　山田喜子　柴﨑佳子　高橋千鶴　柳谷有紀　アーク・クリエイション サイゴン　Toei Phils.　デジタル特殊効果：牛山裕美　色指定：穂積恵梨香　背景レイアウト：本間薫　鷲崎博　背景：斉藤優　篝ミキ　アテネアートスタジオ　杦浦正一郎　斉藤信二　木下千春　Toei Phils.　エルウィン・サディア　デジタル撮影：三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　ＣＧデザイナー：川原祐介　小林真理　竹中佑城　宮澤孝介　村田則子　牧野快　藤澤菜月　峯沢琢也　編集：麻生芳弘　録音：川崎公敬　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：鈴木裕介　製作進行：太田有紀　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　ＣＧ進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：岸本拓磨（ＡＢＣ）　多田香奈子（ＡＢＣ）　美術：猿谷勝己　作画監督：高橋晃　演出：いなばちあき

第5話 うそ! キュアソードってあの子なの??

マナの失礼な態度でアイドル真琴が激怒!

ありすは、キュアソードの正体はスーパーアイドルの剣崎真琴だという。真琴の大ファンのマナは大喜びでテレビ局の控え室に押しかけるが、そんなマナの態度に真琴は激怒してしまう。真琴の歌を収録中のスタジオに、マーモが操るジコチューが出現。真琴をライバル視するアイドルの心の闇から生まれたスタージコチューだ。真琴を救ったキュアハートが逆襲されてピンチに。そのときスタジオの照明が消えて、スポットライトを浴びてキュアソードが登場! ジコチューを浄化したキュアソードは、そっけない態度で去っていった……。後日、握手会で真琴と対面したマナは、控え室での失礼な態度を謝るのだった。

◀「まこぴー」の愛称で呼ばれる剣崎真琴は、いま一番人気のあるスーパーアイドルなのだ

◀アイドルの心の闇から生まれたジコチュー。スターの輝きで目をくらませて体当たり!

愛をなくした悲しい星さん、
このキュアハートがあなたのドキドキ取り戻してみせる♥

◀真琴にとってテレビ局はプロとしての仕事場。そこへ勝手に踏み込んできたマナに激怒する真琴

▲真琴に「やりたいことって何?」と問われて「みんなの笑顔を守ること」と答えるマナが差し出す手を、真琴はしっかりと握り返す

▲スタージコチューの目くらまし攻撃は、戦いに慣れているキュアソードにはまったく効果がなかった

第6話 ビックリ! 私のお家にまこぴーがくる!?

キュアソードの正体は料理初体験のアイドル

テレビ番組の企画で、真琴がマナの家のレストランにやってきて料理に挑戦することに。しかし、料理初体験の真琴は、失敗の連続。マナの祖父に怒られて落ち込んでしまった。その後、マナたちから料理の練習に誘われた真琴はメキメキ上達。本番では見事にオムライスを完成させる。ところが、そこへイーラの操るブタジコチューが! マナたちが変身して立ち向かうと、なんと真琴がマネージャーのDBことダビィの協力で変身した。やはり真琴がキュアソードだったのだ。ジコチューを浄化したキュアソードと握手をしようとするキュアハート。そこにジコチュートリオのベールが現れて、プリキュアたちを異世界の闇へ落とした!

▼お腹を空かせたTVカメラマンの心の闇から生まれた。フライパンや壁まで食べてしまう!

愛をなくした悲しいブタさん、
このキュアハートがあなたのドキドキ取り戻してみせる♥

▶料理初体験の真琴は、ベーコンをまな板ごと斬ってしまう。マネージャーのDBは平謝り

▶キュアハートが「仲間になりたい」と差し出す手をキュアソードが握ろうとするが……

◀マナたちに教えられながらも練習することで、真琴もひとりでおいしいオムライスを作れるようになった

▲「勇気の刃、キュアソード!」。最初に見せるジコチュー浄化用の技は「ホーリーソード」

第7話 ギリギリの戦い! さらば、プリキュア!!

ジコチューに滅ぼされたトランプ王国の真実!

ベールに異世界・トランプ王国へ飛ばされたマナたち。真琴が、そこで起きた悲劇の真相を語る。彼女はトランプ王国の戦士で、王女様に歌を届ける歌姫だった。だが、トランプ王国はキングジコチューたちに襲われ、真琴は避難中に王女様とはぐれた。人間界にたどりついた真琴は、歌声を頼りに王女様を捜していたのだ。マナたちは、異世界へつながる魔法の鏡がある宮殿へ向かう。鏡はベールに割られたが、シャルルたちと合流して変身したプリキュアたちは、鏡の破片を通って人間界へ戻ることに成功! 4人は、住人がジコチューに変えられて荒廃したトランプ王国に平和を取り戻す決意を新たにするのだった。

▶荒廃したトランプ王国には、石化した巨大なキングジコチューが不気味にそびえ立っている

◀真琴は、キングジコチューに滅ぼされた日に、トランプ王国で何が起きたのかをマナたちに語る

【第5話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ/生天目仁美　菱川六花/寿美菜子　四葉ありす/渕上舞　キュアソード/宮本佳那子　シャルル/西原久美子　ラケル/寺崎裕香　ランス/大橋彩香　ダビィ/内山夕実　セバスチャン/及川いぞう　ガードマン/白川周作　AD/金本涼輔　イーラ/田中真弓　マーモ/田中敦子　ベール/山路和弘　ジコチュー/岩崎征実　協力/東映東京撮影所　●STAFF　脚本:田中仁　原画:なまためやすひろ　本吉悟　郡司智一　飯島秀一　稲葉仁　完甘美也子　高橋任治　松田千織　丸山匡彦　松浦仁美　赤田信人　生水勇気　大内智美　比留間梢　渡邉寛子　北田美弥子　松永絵美　太田晃博　鈴木理沙　竹内広幸　古市佳祐　紅野華奈　安田陽子　古家陽子　多嘉良敢　デジタル彩色:Toei Phils.　かぐら　A－LINE　武遊　デジタル特殊効果:牛山裕美　色指定:板坂泰江　背景:田中里緑　篝ミキ　飯野敏典　増田竜太郎　Toei Phils.　グレース・トーラー　デジタル撮影:三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　CGデザイナー:川原祐介　小林真理　竹中佑城　宮澤孝介　村田則子　牧野快　藤澤菜月　峯沢琢也　編集:麻生芳弘　録音:川崎公敬　音響効果:石野貴久　選曲:水野さやか　記録:沢井尚子　録音スタジオ:タバック　オンライン編集:東映デジタルラボ　音楽協力:東映アニメーション音楽出版　演出助手:中村明博　製作進行:太田有紀　澤守洸　美術進行:西牧正人　仕上進行:村上昌裕　CG進行:高橋裕哉　演技事務:小浜匠　宣伝:岸本拓磨(ABC)　多田香奈子(ABC)　美術:佐藤千恵　作画監督:なまためやすひろ　演出:芝田浩樹

【第6話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ/生天目仁美　菱川六花/寿美菜子　四葉ありす/渕上舞　剣崎真琴/宮本佳那子　シャルル/西原久美子　ラケル/寺崎裕香　ランス/大橋彩香　ダビィ/内山夕実　板東宗吉/石住昭彦　相田健太郎/金光宣明　相田あゆみ/上田晴美　セバスチャン/及川いぞう　ディレクター/菊本平　プロデューサー/金本涼輔　イーラ/田中真弓　マーモ/田中敦子　ベール/山路和弘　ジコチュー/岩崎征実　協力/東映東京撮影所　●STAFF　脚本:高橋ナツコ　原画:星川信芳　田中伸昭　北野幸宏　福島史士　永澤謙一　永島英樹　原田節子　比留間梢　清水隆正　大内智美　北田美弥子　増田誠治　上野ケン　高木さくら　竹内広幸　古市佳祐　多嘉良敢　古家陽子　小松英司　松田千織　小松こずえ　フランシス・カネダ　ノエル・アンニョヌエボ　レジー・マナバット　レム・バレンシア　デジタル彩色:Toei Phils.　かぐら　A－LINE　デジタル特殊効果:牛山裕美　色指定:板坂泰江　背景レイアウト:本間薫　鷲崎博　背景:猿谷勝己　宮本里香　Toei Phils.　ネリート・アクーニャ　デジタル撮影:三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　CGデザイナー:川原祐介　宮本浩史　笹岡晃子　宮原洋平　林沙樹　中谷純也　向後佳祐　森山美里　編集:麻生芳弘　録音:林奈緒美　音響効果:石野貴久　選曲:水野さやか　記録:沢井尚子　録音スタジオ:タバック　オンライン編集:東映デジタルラボ　音楽協力:東映アニメーション音楽出版　演出助手:鈴木裕介　製作進行:太田有紀　美術進行:西牧正人　仕上進行:村上昌裕　CG進行:高橋裕哉　演技事務:小浜匠　宣伝:岸本拓磨(ABC)　多田香奈子(ABC)　美術:斉藤優　作画監督:上野ケン　演出:佐々木憲世　岩井隆央

↘鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　CGデザイナー:川原祐介　小林真理　竹中佑城　宮澤孝介　村田則子　牧野快　藤澤菜月　峯沢琢也　編集:麻生芳弘　録音:川崎公敬　音響効果:石野貴久　選曲:水野さやか　記録:沢井尚子　録音スタジオ:タバック　オンライン編集:東映デジタルラボ　音楽協力:東映アニメーション音楽出版　製作進行:澤守洸　美術進行:西牧正人　仕上進行:村上昌裕　CG進行:高橋裕哉　演技事務:小浜匠　宣伝:岸本拓磨(ABC)　多田香奈子(ABC)　美術:飯野敏典　作画監督:山岡直子　高橋晃　演出:三塚雅人

愛をなくした悲しい羊さん、
このキュアハートがあなたのドキドキ取り戻してみせる♥

▶昼寝から起こされた男性の心の闇から生まれた。羊ジコチューが柵を跳ぶと、猛烈な眠気が襲う

▶マナたちは、眠気をこらえて羊ジコチューが飛び越える柵を破壊。動きを止めた隙に浄化！

▼真琴の子守歌で眠るアイちゃん。ちなみにマナがひどいオンチであることが発覚した

◀ジョーの雑貨店の中で、大きなたまごを発見！　マナが指でつつくと表面にヒビが入って……

◀アイちゃんの名付け親はありす。名前の由来は「アイ、アイと言っているから」だった

きゅぴらっぱ～！　ふしぎ赤ちゃん誕生!!

大きなたまごから、背中に羽根のある赤ちゃんが!?

マナたちが、キュアラビーズをくれたジョーの店・ソリティアを訪れると、そこには大きなたまごが！　それが割れると、天使のような羽根で空を飛ぶ赤ちゃん・アイちゃんが生まれた。真琴にアン王女の手掛かりをたずねられたジョーは、答えをはぐらかし、アイちゃんの世話を４人に任せて外出してしまう。アイちゃんを連れて散歩に出かけた４人の前に、マーモが操る羊ジコチューが出現。眠気を誘う羊ジコチューの攻撃に苦戦する４人。しかし、アイちゃんを守るという強い気持ちで反撃開始。キュアソードとキュアハートの連携プレーで浄化に成功して、ようやく真琴もマナたちの友達になれた。

第9話

ハチャメチャ！　アイちゃん学校にいく!!

アイちゃんのイタズラでマナたちの学校は大騒ぎ

登校中のマナと六花が、ジョーからアイちゃんを預けられる。シャルルたちがお世話をするというので、ふたりはアイちゃんを学校に連れて行くことに。授業中は誰もいない生徒会室で、アイちゃんの面倒をみるシャルルたち。ところが、はしゃいだアイちゃんは校舎の中をフワフワ飛び回り、物を動かす不思議な力を発揮。学校中が大騒ぎに！

一方、グランドをめぐってもめる野球部とサッカー部のキャプテンの心の闇をイーラがキャッチ。ジコチューが現れるが、ありすと真琴も駆けつけて、４人のチームワークでジコチューを浄化。下校時には、頑張ったシャルルたちがアイちゃんと一緒に眠っていた。

▼アイちゃんのお世話は大変。アイちゃんは、この回からランスの耳をくわえるようになった

▶前向きなマナは、異世界を行き来できるベールに勝って、彼に送り返してもらうと言う

▶ベールは、彼を言いなりにできることを前提にして考えている能天気なマナにあきれ顔

▲この回から、各自の名乗りを上げた最後に、４人全員が声をそろえる決めゼリフと映像が登場！

◀人間界に戻った４人は、トランプ王国を取り戻すために、一緒に頑張る誓いを立てた

愛をなくした悲しいボールさんたち、
このキュアハートがあなたのドキドキ取り戻してみせる♥

▼不思議な力で、プリキュアたちは猛スピードで動けるようになった！

▶グランドの使い方でもめるふたりから生まれたので、ジコチュー同士も仲が悪い

▲ジコチューに攻撃されるプリキュアを見て悲しむアイちゃんが「きゅぴらっぱー！」と叫ぶと……!?

【第９話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　アイちゃん／今井由香　ジョー岡田／櫻井孝宏　二階堂／佐藤拓也　百田／桜井翼　十条／白川周作　三村／大林洋平　八嶋／一木千洋　野球部主将／高橋英則　女子生徒／森谷里美　イーラ／田中真弓　ジコチュー／岩崎征実　協力／東映東京撮影所　●STAFF　脚本：田中仁　原画：青山充　完甘美也子　赤田信人　飯島秀一　原田節子　北野幸広　清水隆正　杉藤さゆり　福島史士　安田陽子　永澤謙一　大内智美　紅野華奈　兼高里圭　高橋任治　熊岡利治　高木さくら　生水勇気　多嘉良敢　古屋陽子　阿藤久美子　デジタル彩色：Toei Phils.　かぐら　武遊　色指定：板坂泰江　背景レイアウト：本間薫　鷲崎博　背景：斉藤優　戸杉奈津子　宮本里香　Toei Phils.　グレース・トーラー　デジタル撮影：三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　ＣＧデザイナー：川原祐介　小林真理　竹中佑城　宮澤孝介　村田則子　牧野快　藤澤菜月　峯沢琢也　編集：麻生芳弘　録音：川崎公敬　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：中村明博　製作進行：太田有紀　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　ＣＧ進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：岸本拓磨（ＡＢＣ）　多田香奈子（ＡＢＣ）　美術：猿谷勝己　作画監督：小松こずえ　演出：いなばちあき　上田芳裕

【第８話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　アイちゃん／今井由香　ジョー岡田／櫻井孝宏　サラリーマン／菊本平　イーラ／田中真弓　マーモ／田中敦子　ジコチュー／岩崎征実　協力／東映東京撮影所　●STAFF　脚本：成田良美　原画：星川信芳　田中伸昭　板岡錦　松田千織　ひのたかふみ　冨木由美子　野澤隆　稲葉仁　河野宏之　比留間梢　渡邉寛子　生水勇気　古屋陽子　多嘉良敢　山岡直子　北田美弥子　完甘美也子　大内智美　阿藤久美子　川口準之祐　山本実　矢ヶ崎美恵　デジタル彩色：Toei Phils.　かぐら　デジタル特殊効果：牛山裕美　色指定：板坂泰江　背景：増田竜太郎　佐藤千恵　田中里緑　飯野敏典　Toei Phils.　エルウィン・サディア　デジタル撮影：三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　ＣＧデザイナー：川原祐介　宮本浩史　笹岡晃子　宮原洋平　林沙樹　中谷純也　向後佳祐　森山美里　編集：麻生芳弘　録音：林奈緒美　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　製作進行：山口暁生　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　ＣＧ進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：岸本拓磨（ＡＢＣ）　多田香奈子（ＡＢＣ）　美術：篝ミキ　作画監督：稲上晃　演出：門由利子　黒田成美

【第７話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　兵士／金本涼輔　マーモ／田中敦子　ベール／山路和弘　ジコチュー／岩崎征実　協力／東映東京撮影所　●STAFF　脚本：山口亮太　原画：美馬健二　藤井孝博　芹田明雄　高橋任治　兼高里圭　安田陽子　三輪幸彦　西村元秀　古家陽子　多嘉良敢　完甘美也子　和田喜彰　藤井芳徳　田中希果　川島太郎　榎本勝紀　羽山淳一　濱野裕一　デジタル彩色：Toei Phils.　かぐら　Ａ－ＬＩＮＥ　デジタル特殊効果：牛山裕美　色指定：板坂泰江　背景：田中里緑　牟田いずみ　増田竜太郎　デザインオフィス・メカマン　田中美紀　上原里香　とんぼスタジオ　山下千歌　Toei Phils.　ルーベン・オレンセ　デジタル撮影：三晃プロダクション　白↗

第10話 転校生は、国民的スーパーアイドル!!

急接近するマナと真琴に幼なじみの六花が嫉妬!?

真琴がマナたちの学校へ転校してきた。下校時には真琴の応援団や週刊誌の記者が押し寄せて、校門前は大混乱。その夜、真琴がマナの家に泊まると知ったとき、そして翌朝マナと真琴が仲よくアイちゃんの世話をする様子を見たとき、六花は胸にチクチクしたものを感じる。そこに真琴の応援団長の心の闇から生まれたジコチューが現れた。そのジコチューがヤキモチをやいていると知り、自分もマナと真琴に嫉妬していたと気づく六花だが、ありすの「それは誰もが持っている気持ち」という助言で心が晴れ、キュアダイヤモンドに変身！キュアハートとのコンビネーションで浄化に成功。誰もがみんなと仲よくなりたいと思っていることを知り、4人の絆はより深まった。

▲応援団長にあるまじき「まこぴーと仲よくなりたい」という心の闇がジコチューに！

愛をなくした悲しい応援団長さん、
このキュアハートがあなたのドキドキ取り戻してみせる♥

▲いつもマナの世話をやく六花は、自分がいないところで仲よくするマナと真琴に嫉妬！

▲キュアソードも、キュアハートとキュアダイヤモンドの仲をうらやましく思っていた

◀アイちゃんの世話をするマナと真琴。この様子を六花とありす、応援団長がのぞき見

◀家庭科の授業で、雑巾を机のクロスに縫いつけてしまう真琴。家事全般が苦手？

第11話 めざめよ！プリキュアの新たなる力！

4人の新たな武器は弓 ラブハートアロー登場

ソフトボール部の助っ人を引き受けたマナが、帰り道でアイちゃんを連れたジョーと出会った。そこにベールが現れて、アイちゃんをさらっていく。アイちゃんを取り戻すために、キュアハートに変身してベールと戦っていたマナは、ソフトボールの試合に参加できずにいた。キュアダイヤモンドたちが合流して形勢が逆転すると、ベールは闇のプシュケーを飲み込んでベールビーストに変身！　苦戦するプリキュアだったがアイちゃんが力を発動！　ジョーが胸につけてあげた新たなキュアラビーズが4つにわかれ、4人の新たな武器・ラブハートアローが出現し、闇のプシュケーを浄化！ソフトボール部の試合は、マナが励ました1年生部員が頑張って勝利したのだった。

ジコチュー極まりないそこのオジさん、
このキュアハートがあなたからアイちゃんを取り戻してみせる♥

▲ジコチューの能力を吸収してパワーアップしたビーストモード。見かけは……ビミョー

▲アイちゃんを人質にしたベールは「ひとりで決着の場へ来い」と、マナを脅迫していた

▶ジョーがアイちゃんの胸のハートマークにつけた新たなキュアラビーズが4つに分裂！

▲4人の手に届いたキュアラビーズは、華麗なハートに彩られた弓・ラブハートアローに

▶キュアハートの新たな決め技「プリキュアハートシュート」でベールビーストを撃破

◀チームを強くするには1年生もレギュラーを目指して技を磨くのが大切と助言するマナ

▲1年生部員は「力を合わせればどんな困難も乗り越えられる」と、マナから学んだ

【第11話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　アイちゃん／今井由香　ジョー岡田／櫻井孝宏　セバスチャン／及川いぞう　京田／藤村歩　十条／白川周作　千葉／森谷里美　部員／種﨑敦美　アンパイア／松本忍　イーラ／田中真弓　マーモ／田中敦子　ベール／山路和弘　協力／東映東京撮影所　●STAFF　脚本：山口亮太　原画：和田喜彰　藤井芳徳　田中希果　斎藤佑　榎本勝紀　志田直俊　森田岳士　板岡錦　上野ケン　山岡直子　完甘美也子　福本泰子　デジタル彩色：阿部千春　伊藤元子　山田喜子　柴﨑佳子　高橋千鶴　柳谷有紀　アーク・クリエイション サイゴン　Toei Phils.　デジタル特殊効果：牛山裕美　色指定：穂積恵梨香　背景：増田竜太郎　篝ミキ　田中里緑　Toei Phils.　ネリート・アクーニャ　デジタル撮影：三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　ＣＧデザイナー：川原祐介　小林真理　竹中佑城　宮澤孝介　村田則子　牧野快　藤澤菜月　峯沢琢也　編集：麻生芳弘　録音：川崎公敬　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：中村明博　製作進行：山口暁生　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　ＣＧ進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：岸本拓磨（ＡＢＣ）　多田香奈子（ＡＢＣ）　美術：佐藤千恵　作画監督：高橋晃　演出：芝田浩樹

【第10話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　アイちゃん／今井由香　ジョー岡田／櫻井孝宏　菱川亮子／湯屋敦子　城戸先生／前田一世　二階堂／佐藤拓也　百田／櫻井翼　十条／白川周作　三村／大林洋平　八嶋／一木千洋　郷田／松本忍　イーラ／田中真弓　マーモ／田中敦子　ベール／山路和弘　ジコチュー／岩崎征実　協力／東映東京撮影所　●STAFF　脚本：高橋ナツコ　原画：河野宏之　永島英樹　藤井孝博　デジタル彩色：Toei Phils.　かぐら　Ａ－ＬＩＮＥ　色指定：板坂泰江　背景：デザインオフィス・メカマン　中村嘉博　上原里香　石原信明　鈴木祥太　ミキミチヨ　デジタル撮影：三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　ＣＧデザイナー：川原祐介　宮本浩史　笹岡晃子　宮原洋平　林沙樹　中谷純也　向後佳祐　森山美里　編集：麻生芳弘　録音：林奈緒美　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：鈴木裕介　製作進行：澤守洸　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　ＣＧ進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：岸本拓磨（ＡＢＣ）　多田香奈子（ＡＢＣ）　美術：田中美紀　作画監督：河野宏之　演出：佐々木憲世　岩井隆央

マナの決意! あたし弟子をとります!

休む間もなく人助けするマナの弟子はヘトヘト!?

マナの頼れる姿に憧れる1年生の男子・早乙女純が、マナに弟子入り。マナに付いて歩く純は、次々にトラブルを解決するマナの行動力を目の当たりにして驚くばかり。マナとの差を痛感して落ち込む純の「強く、大きくなりたい」という思いをキャッチしたイーラが、純の闇に染まったプシュケーを飲み込んでビーストモードに！　だが、キュアハートの「私も失敗したり、落ち込んだりしてる。純くんと同じだよ」という呼びかけで、プリキュアたちにとどめを刺そうとしたイーラビーストの動きを、純の心が止めた。プリキュア4人も力を合わせてイーラビーストの撃退に成功。純は、マナの弟子をあきらめ、趣味の園芸で誰かを元気づけることにした。

◀純のジコチューの能力を吸収したイーラビーストは、ちょっぴりかわいいゾウさんに？

▲純のプシュケーを飲み込んでビーストモードに変身するイーラ。今回は本気の戦い！

愛をなくした悲しいゾウさん、
このキュアハートがあなたのドキドキ取り戻してみせる♥

▼純のハートを取り戻すために、イーラビーストの足を４人で受け止めて、ぶん投げる！

◀校内や通学路で繰り広げる様々な人助けや生徒会長の仕事で、マナはいつでも大忙し！

◀「僕の花を見て笑顔に元気になってくれたらいいな」という純自身に笑顔が戻った

ついに発見!? 王女様の手がかり!

バラの花から不思議な黄色いクリスタルが!?

バラを愛するレディを決める「ローズレディコンテスト」の優勝賞品は、ロイヤルイエローというバラ。真琴は、そのバラがトランプ王国に咲くものだと語る。アン王女の手がかりかも!?　と思った4人は、バラを手に入れるためにコンテストに参加。ありすの幼なじみ・麗奈の妨害をはねのけて、ありすが優勝した。しかし麗奈の闇のプシュケーを飲んだマーモがビーストモードで登場し、キュアロゼッタ以外の3人がとらわれてしまう。ところが、防御担当だったキュアロゼッタが攻撃に転じたのをきっかけに、マーモビーストを撃退！

アイちゃんが優勝賞品のバラに手を触れると、黄色いクリスタルが生まれる。その頃ジコチュートリオのアジトに、キングジコチューの娘・レジーナが現れた。

◀「美しく残酷に」プリキュアを倒すと張り切るマーモが、ビーストモードに変身！

▲マーモビーストは、攻撃を担当するプリキュア３人をとらえる作戦を展開したが……!?

愛をなくした悲しいバラさん、
このキュアハートがあなたのドキドキ取り戻してみせる♥

▲「ロゼッタリフレクション」のバリアは、相手にぶつける攻撃もできる

▲アイちゃんが触れたバラから生まれた黄色いクリスタル。何のためのアイテムなのか？

▲ありすをライバル視する五星麗奈と取り巻きたちの妨害をクリアして、ありすが優勝♪

▲マナがバラ園で出会ったわがままな少女は、キングジコチューの娘・レジーナだった！

【第13話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　アイちゃん／今井由香　セバスチャン／及川いぞう　五星麗奈／氷青　司会者／菊本平　審査員／高橋英則　イーラ／田中真弓　マーモ／田中敦子　ベール／山路和弘　レジーナ／渡辺久美子　協力／東映東京撮影所　●STAFF　脚本：米村正二　原画：稲葉仁　原田節子　松田千織　北野幸広　鈴木勇　安田陽子　永澤謙一　山岡直子　赤田信人　河村信道　大内智美　清水空翔　飯島秀一　永島英樹　高木さくら　西田美弥子　古池崇　柴崎雄輔　山本実　阿藤久美子　生水勇気　島崎望　渡辺優哉　工藤雅人　デジタル彩色：Toei Phils.　かぐら　A－LINE　色指定：板坂泰江　背景：田中里緑　本間禎章　神戸あや恵　山下千歌　デジタル撮影：三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　ＣＧデザイナー：川原祐介　小林真理　竹中佑城　宮澤孝介　村田則子　牧野快　藤澤菜月　峯沢琢也　編集：麻生芳弘　録音：川崎公敬　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　製作進行：澤守洸　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　ＣＧ進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：岸本拓磨（ＡＢＣ）　多田香奈子（ＡＢＣ）　美術：飯野敏典　作画監督：山岡直子　演出：入好さとる　三塚雅人

【第12話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　アイちゃん／今井由香　ジョー岡田／櫻井孝宏　早乙女純／鈴木千尋　三村／大林洋平　八嶋／一木千洋　購買部のおばさん／神田みか　保健の先生／慶長佑香　男子／菊本平　男子／高橋英則　男子／金本涼輔　イーラ／田中真弓　マーモ／田中敦子　ベール／山路和弘　レジーナ／渡辺久美子／協力／東映東京撮影所　●STAFF　脚本：成田良美　原画：星川信芳　高橋任治　田中信昭　芹田明雄　北田美弥子　比留間梢　増田誠治　清水隆正　冨木由美子　西村元秀　ひのたかふみ　福本泰子　美馬健二　飯島秀一　野澤隆　鈴木理沙　佐藤麻紀子　阿藤久美子　デジタル彩色：Toei Phils.　かぐら　A－LINE　色指定：板坂泰江　背景レイアウト：本間薫　鷲崎博　背景：猿谷勝己　板井理英子　王明月　チャン・ヤンフェイ　Toei Phils.　ルーベン・オレンセ　デジタル撮影：三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　ＣＧデザイナー：川原祐介　宮本浩史　笹岡晃子　宮原洋平　林沙樹　中谷純也　向後佳祐　森山美里　編集：麻生芳弘　録音：林奈緒美　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　製作進行：太田有紀　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　ＣＧ進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：岸本拓磨（ＡＢＣ）　多田香奈子（ＡＢＣ）　美術：斉藤優　作画監督：上野ケン　演出：田中裕太

第14話 夢か約束か! 六花おおいに悩む!

王女様もよく遊んでいた!? 競技かるたにチャレンジ!

バラから生まれたクリスタルは、トランプ王国の伝説の宝石・ロイヤルクリスタル。全部で5個あり、すべてそろうとすごいことが起きるらしい。一方、医者を目指している六花は、テストの順位が学年2位に落ちて大ショック。その原因は、六花が競技かるたに夢中になっているから。かるたクイーンとの手合わせ会が1週間後に迫っていたのだ。手合わせ会当日、クイーンの心の闇をキャッチしたイーラがビーストモードに。しかし、キュアダイヤモンドの活躍で見事に撃退! その後、手合わせをした六花にクイーンはかるたをプレゼント。それにアイちゃんが触れると、青のロイヤルクリスタルが出現した!

愛をなくした悲しいかるたさん、このキュアハートがあなたのドキドキ取り戻してみせる♥

▲母親に医者になると約束した六花には、成績が下がるのは約束を破ることと同じなのだ

▲かるたの練習に励む六花。競技かるたは、知力と瞬発力を武器に札を奪い合うスポーツだ

◀かるた勝負を挑んでくるイーラビーストは、クイーンの能力でプリキュアを苦しめた

◀クイーンは「久しぶりに楽しい試合だった」と言って、お気に入りのかるたをくれた♪

◀六花の両親は、かるたを怒るどころか、打ち込めるものを見つけたことを喜んでくれた

第15話 大いそがし! 真琴のアイドルな日々!

歌で王女様を捜す真琴が映画のヒロインに挑戦!

真琴が、映画のヒロインに大抜擢。だが、王女様を思って演技に集中できない真琴は、共演する女優・おおとり環に注意される。マナたちは、真琴に代わって王女様の捜索をすることに。真琴は演技に集中し、撮影は佳境を迎えた。そこへレジーナが現れる。意地悪な演技をする環をわがままな人間と思ったレジーナは、彼女のプシュケーを闇に染めてジコチューにしてしまう。苦戦する4人だが、アイちゃんが新たなキュアラビーズを放出し、合体技「プリキュア・ラブリーフォースアロー」で浄化に成功。映画が完成して、真琴の演技を認めてくれた環と交換した台本から、紫色のロイヤルクリスタルが出現した!

◀鏡なので、キュアハートの決め技「プリキュア・ハートシュート」を反射してしまう!

愛をなくした悲しい鏡さん、このキュアハートがあなたのドキドキ取り戻してみせる♥

◀4人の初の合体技「プリキュア・ラブリーフォースアロー」は、この回から登場した

▲◀映画「スノーホワイト」の意地悪な女王役・おおとり環とヒロイン・白雪姫役の真琴

◀真琴が環と交換した台本が輝き、紫色のロイヤルクリスタルがこぼれ出た!

第16話 レジーナ猛アタック! マナはあたしのモノ!

ジコチューなレジーナのせいでマナと真琴が絶交状態!?

マナを気に入ったレジーナが「友達にしてあげる!」と言ってきた。マナはレジーナを受け入れ、怒った真琴はマナと絶交状態に。レジーナのジコチューな振る舞いに困惑するマナだが、付き合いはやめなかった。ところが、レジーナがジコチューに真琴たちを襲わせて「この子たちの友達をやめて」と迫ると、マナは断り、「本当の友達になりたいから、本音をぶつけるし、間違ってることは全力で止める」と説得。ジコチューを倒されたレジーナはすねて姿を消した。レジーナと友達を続けるというマナに、真琴は「レジーナは許せないが、それでもいい?」と本音をぶつける。その言葉にマナは納得し、友情がさらに深まった。

◀登校中のマナたちの前にレジーナが現れて、上から目線で「友達にしてあげる!」

◀トランプ王国を滅ぼしたキングジコチューの娘と友達になるマナが理解できない真琴

【第14話】CAST&STAFF

●CAST 相田マナ/生天目仁美 菱川六花/寿美菜子 四葉ありす/渕上舞 剣崎真琴/宮本佳那子 シャルル/西原久美子 ラケル/寺崎裕香 ランス/大橋彩香 ダビィ/内山夕実 アイちゃん/今井由香 相田あゆみ/上田晴美 菱川悠蔵/前田剛 菱川亮子/湯屋敦子 セバスチャン/及川いぞう かるたクイーン/鈴木真仁 かるた協会員/松本忍 イーラ/田中真弓 マーモ/田中敦子 ベール/山路和弘 レジーナ/渡辺久美子 ジコチュー/岩崎征実 協力/東映東京撮影所 ●STAFF 脚本：田中仁 原画：完甘美也子 星川信芳 高橋任治 森田岳士 飯島秀一 福島史士 森島浩一 比留間梢 河野宏之 永島英樹 藤井孝博 北田美弥子 兼高里圭 松田千織 村俊太朗 太田晃博 生水勇気 阿藤久美子 渡辺優哉 工藤雅人 古家陽子 古俣拓磨 山本実 上田由希子 永澤謙一 デジタル彩色：Toei Phils. かぐら Ａ－ＬＩＮＥ 武遊 色指定：板坂泰江 背景レイアウト：下川忠海 背景：佐藤千恵 増田竜太郎 本間禎章 田中里緑 飯野敏典 デザインオフィス・メカマン アテネアートスタジオ Toei Phils. エルウィン・サディア デジタル撮影：三晃プロダクション 白鳥友和 緒方美佐子 福井道子 則友邦仁 清水正道 佐伯英範 吉野和宏 金子直広 石川晴彦 山口博睦 花見早苗 寺崎光喜 夏原弘成 ＣＧデザイナー：川原祐介 宮本浩史 笹岡晃子 宮原洋平 林沙樹 中谷純也 向後佳祐 森山美里 編集：麻生芳弘 録音：林奈緒美 音響効果：石野貴久 選曲：水野さやか 記録：沢井尚子 録音スタジオ：タバック オンライン編集：東映デジタルラボ 音楽協力：東映アニメーション音楽出版 製作進行：山口暁生 美術進行：西牧正人 仕上進行：村上昌裕 ＣＧ進行：高橋裕哉 演技事務：小浜匠 宣伝：岸本拓磨（ＡＢＣ） 多田香奈子（ＡＢＣ） 美術：篝ミキ 作画監督：稲上晃 演出：黒田成美

【第15話】CAST&STAFF

●CAST 相田マナ/生天目仁美 菱川六花/寿美菜子 四葉ありす/渕上舞 剣崎真琴/宮本佳那子 シャルル/西原久美子 ラケル/寺崎裕香 ランス/大橋彩香 ダビィ/内山夕実 アイちゃん/今井由香 ジョー岡田/櫻井孝宏 セバスチャン/及川いぞう おおとり環/山像かおり 鏡の声/松本忍 監督/菊本平 助監督/金本涼輔 イーラ/田中真弓 マーモ/田中敦子 ベール/山路和弘 レジーナ/渡辺久美子 ジコチュー/岩崎征実 協力/東映東京撮影所 ●STAFF 脚本：高橋ナツコ 原画：青山充 濱野裕一 神谷智大 デジタル彩色：Toei Phils. かぐら デジタル特殊効果：牛山裕美 色指定：板坂泰江 背景レイアウト：本間薫 鷲崎博 背景：斉藤優 王明月 チェン・ヤンフェイ Toei Phils. グレース・トーラー デジタル撮影：三晃プロダクション 白鳥友和 緒方美佐子 福井道子 則友邦仁 清水正道 佐伯英範 吉野和宏 金子直広 石川晴彦 山口博睦 花見早苗 寺崎光喜 夏原弘成 ＣＧデザイナー：川原祐介 小林真理 竹中佑城 宮澤孝介 村田則子 牧野快 藤澤菜月 峯沢琢也 編集：麻生芳弘 録音：川崎公敬 音響効果：石野貴久 選曲：水野さやか 記録：沢井尚子 録音スタジオ：タバック オンライン編集：東映デジタルラボ 音楽協力：東映アニメーション音楽出版 演出助手：鈴木裕介 製作進行：太田有紀 美術進行：西牧正人 仕上進行：村上昌裕 ＣＧ進行：高橋裕哉 演技事務：小浜匠 宣伝：岸本拓磨（ＡＢＣ） 多田香奈子（ＡＢＣ） 美術：猿谷勝己 作画監督：青山充 演出：門由利子 岩井隆央

↘水正道 佐伯英範 吉野和宏 金子直広 石川晴彦 山口博睦 花見早苗 寺崎光喜 夏原弘成 ＣＧデザイナー：川原祐介 宮本浩史 笹岡晃子 宮原洋平 林沙樹 中谷純也 向後佳祐 森山美里 編集：麻生芳弘 録音：林奈緒美 音響効果：石野貴久 選曲：水野さやか 記録：沢井尚子 録音スタジオ：タバック オンライン編集：東映デジタルラボ 音楽協力：東映アニメーション音楽出版 演出助手：中村明博 製作進行：澤守洸 美術進行：西牧正人 仕上進行：村上昌裕 ＣＧ進行：高橋裕哉 演技事務：小浜匠 宣伝：岸本拓磨（ＡＢＣ） 多田香奈子（ＡＢＣ） 美術：田中美紀 作画監督：高橋晃 演出：いなばちあき 小川孝治

▲ジョーは、最近飾られた王女様にそっくりな彫刻にひとめ惚れして、ここへ来たと言う

愛をなくした悲しい彫刻さん、
このキュアハートがあなたのドキドキ取り戻してみせる♥

▶瞳が赤く変わったレジーナが、彫刻家のプシュケーを闇に染めてジコチューを生み出す

▲トランプ王国の戦士の証である鎧に身を包んだジョー。彼の正体は、なんと王女様の……!?

◀彫刻に変えられた仲間たちを「プリキュア・ハートシュート!」で元に戻すキュアハート

第17話 ショック! 奪われたクリスタル!

ロイヤルクリスタルを見たレジーナが豹変!

マナたちは、王女様の手がかりを求めて森の彫刻美術館へ。そこへレジーナ、アイちゃんを連れたジョーも現れた。王女様にそっくりな彫刻の胸に、ロイヤルクリスタルらしき赤いガラス玉が。それをマナに取ってあげるためにレジーナは彫刻を破壊! そんな彼女でもマナは友達と言ってくれた。喜ぶレジーナが持つガラス玉が赤いロイヤルクリスタルに!! それを見た途端にレジーナが豹変。ロイヤルクリスタルを独り占めするために、ジコチューを生み出した。プリキュアのピンチを救ったのは、鎧姿のジョー。ジコチューは浄化したものの、赤いロイヤルクリスタルはレジーナに奪われてしまった。

愛をなくした
悲しい汽車さん、
このキュアハートがあなたのドキドキ取り戻してみせる♥

第18話 出現!さいごのロイヤルクリスタル!

ジョーは王女様の婚約者 恋の思い出の場所は花畑

ジョーは自らの正体を、トランプ王国の戦士・ジョナサンであり、王女様の婚約者だと明かした。そんな彼がマナたちを旅行に誘う。そこは一面の菜の花畑の間をＳＬが走る観光地。ジョーと王女様の思い出の場所に似たところだ。ジョーは、マナたちに王女様との思い出を語る。王女様とジョーは互いに惹かれ合っていた。だが、トランプ王国が滅ぼされたときにジョーは任務で辺境の地にいて、王女様を追って人間界へ来たのだった。その頃、駅では、レジーナが生み出したジコチューが花畑をメチャメチャに。花畑を守るためにジコチューを浄化すると、ＳＬから5個目のロイヤルクリスタルが出現した!

▲ＳＬを運転したい少年の心から生まれたジコチュー。汽車を連結して花畑を荒らし回る

◀キュアハートが突進するジコチューを正面から受け止めて、反撃のきっかけを作る!

▲アイちゃんのイタズラで緊急停止したＳＬの待ち時間に王女様との思い出を語るジョー

◀トランプ王国のＳＬで旅行するジョーと王女様は、広大な菜の花畑で口付けを交わした

▲無事だったＳＬから、ピンク色のロイヤルクリスタルが出現した

◀ふたりでいるときにマナが六花たちの話をしたことで、レジーナがヤキモチをやいた!

愛をなくした
悲しい差し入れさん、
このキュアハートがあなたのドキドキ取り戻してみせる♥

▲スポンサーの差し入れを運ぶＡＤから生まれたジコチュー。小型の缶を大量に発射する

▲レジーナに「本当の友達になろう」と笑顔で語りかけるマナだったが……

▶真琴は、本当の友達として「レジーナは許せない」という本音をマナにぶつけてくる

▶都合のいい相手を「友達」と思っているレジーナは、マナの言葉の意味がわからなかった

【第18話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　アイちゃん／今井由香　ジョー岡田／櫻井孝宏　運転手／松本忍　少年／神田みか　イーラ／田中真弓　マーモ／田中敦子　ベール／山路和弘　レジーナ／渡辺久美子　ジコチュー／岩崎征実　協力／東映東京撮影所　●STAFF　脚本：田中仁　原画：河野宏之　永島英樹　藤井孝博　デジタル彩色：Toei Phils.　かぐら　色指定：板坂泰江　背景レイアウト：鷲崎博　本間薫　背景：猿谷勝己　戸杉奈津子　宮本里香　チェン・ヤンフェイ　王明月　Toei Phils.　ネリート・アクーニャ　デジタル撮影：三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　ＣＧデザイナー：川原祐介　宮本浩史　笹岡晃子　宮原洋平　林沙樹　中谷純也　向後佳祐　森山美里　編集：麻生芳弘　録音：林奈緒美　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　製作進行：太田有紀　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　ＣＧ進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：岸本拓磨（ＡＢＣ）　多田香奈子（ＡＢＣ）　美術：斉藤優　作画監督：河野宏之　演出：三塚雅人

【第17話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　アイちゃん／今井由香　ジョー岡田／櫻井孝宏　人見／原康義　館長／高橋英則　レジーナ／渡辺久美子　ジコチュー／岩崎征実　協力／東映東京撮影所　●STAFF　脚本：米村正二　原画：星川信芳　田中伸昭　芹田明雄　原田節子　松田千織　小松こずえ　高橋任治　飯島秀一　稲葉仁　冨木由美子　比留間梢　福本泰子　大内智美　北田美弥子　西村元秀　生水勇気　阿藤久美子　山本実　柴崎雄輔　デジタル彩色：Toei Phils.　かぐら　Ａ－ＬＩＮＥ　色指定：板坂泰江　背景：篝ミキ　飯野敏典　田中里緑　デジタル撮影：三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　ＣＧデザイナー：川原祐介　小林真理　竹中佑城　宮澤孝介　村田則子　牧野快　藤澤菜月　峯沢琢也　編集：麻生芳弘　録音：川崎公敬　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：鈴木裕介　製作進行：山口暁生　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　ＣＧ進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：岸本拓磨（ＡＢＣ）　多田香奈子（ＡＢＣ）　美術：佐藤千恵　作画監督：小松こずえ　演出：池畠博史　田中裕太

【第16話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　アイちゃん／今井由香　城戸先生／前田一世　イーラ／田中真弓　マーモ／田中敦子　ベール／山路和弘　レジーナ／渡辺久美子　ジコチュー／岩崎征実　協力／東映東京撮影所　●STAFF　脚本：成田良美　原画：和田喜彰　藤井芳徳　田中希果　中澤あこ　榎本勝紀　デジタル彩色：阿部千春　伊藤元子　山田喜子　柴崎佳子　高橋千鶴　柳谷有紀　アーク・クリエイション　サイゴン　Toei Phils.　色指定：穂積恵梨香　背景：デザインオフィス・メカマン　中村嘉博　上原里香　石原信明　菅野克也　鈴木祥太　邱文美　デジタル撮影：三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清↗

第19話 クリスタルをかけて！ジコチューのゲーム！

不公平なルールと妨害にプリキュアチーム大苦戦

マナたちのもとへレジーナが現れて、ロイヤルクリスタルをかけたゲームを持ちかける。ワナを承知で申し出を受けるマナたちは、ジコチューに吸い込まれてゲーム世界へ飛ばされた。変身したプリキュアチームとレジーナ&ジコチュートリオチームは、3つのゲームで対戦することに。レジーナたちに有利なルールや、あからさまな妨害に苦しめられながらも2勝したプリキュアチームが勝利！　ところが、レジーナはロイヤルクリスタルを渡そうとせず、ジコチューをけしかける。ジコチューを浄化すると、ゲーム世界にいた全員が人間界に戻された。レジーナの手に落ちたかに見えた5つのロイヤルクリスタルは、突然光り輝くと、どこかへ飛び去ってしまった！

レジーナ＆ジコチュートリオさん、このキュアハートがあなたたちのドキドキ取り戻してみせるわ♥

▶アジトでボウリングをしているので、ボウリングは得意

第1ゲーム サッカーPK勝負

▶ボールとゴールのジコチューが勝手に動く卑怯な妨害工作で、プリキュアチームの負け

第2ゲーム ボウリング

第3ゲーム ドッジボール

▲レジーナとジコチュートリオがケンカになって試合放棄。2勝したプリキュアの勝利！

▶レジーナが5つすべてを手にした途端、ロイヤルクリスタルは空の彼方へ飛んで行った！

▲アイちゃんが増やしたボールで無数のピンを全部倒してストライク！　プリキュア1勝

▼イーラたちにそそのかされたレジーナは、マナからロイヤルクリスタルを奪うつもりだ

▲「勝った者にロイヤルクリスタルを渡す」ことをゆびきりで約束するふたりだが……？

第20話 クリスタルの導き！王女様のもとへ！

雪山のクレバスの底でついに王女様を発見！

セバスチャンの情報解析では、ロイヤルクリスタルは氷河地帯で消えた。急行したマナたちはプリキュアに変身し、鎧姿のジョーとともに雪山を駆け上る。目的地は雪原だった。そこにプリキュアを追ってきたレジーナたちも現れて、両者は激突。雪原の崩落にレジーナが巻き込まれ、救おうとしたキュアハートも一緒に転落。ふたりは、クレバスの底で氷漬けになった王女様を発見した！　王女様の姿を見たレジーナの瞳は赤色から青色に戻り、ロイヤルクリスタルをマナに返すと「約束やぶってごめん」と謝った。キュアダイヤモンドたちが駆けつけると、そこにジコチューも出現。ジコチューの浄化に成功したものの、レジーナと王女様をジコチュートリオにさらわれた！

▼ロイヤルクリスタルが輝いて壁の一部が崩れると、そこに氷漬けになったアン王女が！

▲クレバスの底で目を覚ましたレジーナの前に、5つのロイヤルクリスタルが飛んできた

▶素直に謝るレジーナ。「私の知っているレジーナに戻った！」と感激するマナ

▼レジーナは、彼女を「友達」と言ってくれるマナのことを裏切ってしまったと、自分を責める

▲ジコチュートリオの役目は、王女様をトランプ王国へ連れ帰ること。これで彼らも目的達成か!?

▼雪だるまジコチューを浄化して氷漬けの王女様に駆け寄るプリキュアたち。しかし……

◀崩落に飲み込まれるレジーナの手をつかんだキュアハートだったが、手元が崩れて転落してしまう

【第20話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　アイちゃん／今井由香　ジョー岡田／櫻井孝宏　セバスチャン／及川いぞう　登山客の男／高橋英則　イーラ／田中真弓　マーモ／田中敦子　ベール／山路和弘　レジーナ／渡辺久美子　ジコチュー／岩崎征実　協力／東映東京撮影所　●STAFF　脚本：高橋ナツコ　原画：星川信芳　飯島秀一　原田節子　丸山匡彦　叶内孝行　山岡直子　稲葉仁　美馬健二　谷口健太　福島史士　北田美弥子　大内智美　松田千織　比留間梢　生水勇気　阿藤久美子　小山直子　デジタル彩色：Toei Phils.　かぐら　A－LINE　武遊　色指定：板坂泰江　背景レイアウト：下川忠海　背景：本間禎章　飯野敏典　山下千歌　Toei Phils.　ルーベン・オレンセ　デジタル撮影：三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　CGデザイナー：川原祐介　宮本浩史　笹岡晃子　宮原洋平　林沙樹　中谷純也　向後佳祐　森山美里　編集：麻生芳弘　録音：林奈緒美　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：鈴木裕介　製作進行：山口暁生　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　CG進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：岸本拓磨（ABC）　多田香奈子（ABC）　美術：田中里緑　作画監督：山岡直子　演出：芝田浩樹

【第19話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　アイちゃん／今井由香　ジョー岡田／櫻井孝宏　イーラ／田中真弓　マーモ／田中敦子　ベール／山路和弘　レジーナ／渡辺久美子　ジコチュー／岩崎征実　協力／東映東京撮影所　●STAFF　脚本：成田良美　原画：清水隆正　完甘美也子　北野幸広　丸山匡彦　鈴木理沙　兼高里圭　安田陽子　高橋任治　赤田信人　増田誠治　ひのたかふみ　西口智也　増田伸孝　手塚江美　野澤隆　冨木由美子　永澤謙一　生水勇気　福本泰子　デジタル彩色：Toei Phils.　かぐら　A－LINE　色指定：板坂泰江　背景：篝ミキ　山下千歌　アテネアートスタジオ　枚浦正一郎　大谷正信　木下千春　デジタル撮影：三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　CGデザイナー：川原祐介　小林真理　竹中佑城　宮澤孝介　村田則子　牧野快　藤澤菜月　峯沢琢也　編集：麻生芳弘　録音：川崎公敬　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：中村明博　製作進行：澤守洸　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　CG進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：岸本拓磨（ABC）　多田香奈子（ABC）　美術：飯野敏典　作画監督：上野ケン　演出：越智一裕　岩井隆央

▶ロイヤルクリスタルが開けたトランプ王国への扉を通って、ジョーとプリキュアが参上

第21話 トランプ王国へ! 王女様を救え!

レジーナとキングジコチューが親子ゲンカ!

氷漬けの王女様は、トランプ王国へ運ばれた。キングジコチューが全宇宙のジャネジーを欲しがっていると知ったレジーナは「人間界に手を出さないで!」と懇願。それに怒ったキングジコチューは、レジーナを攻撃して魔力を封印してしまう。そこへプリキュアとジョーが到着! レジーナに駆け寄るキュアハート。だが、クモジコチューの攻撃で床が崩れ、ふたりはマグマがたぎる大穴へ転落。クモの糸につかまるふたりだが、レジーナは自分を犠牲にしてマナを助けようとする。しかし、決してあきらめないマナの笑顔を見て、レジーナに魔力が戻った。ピンチを切り抜けたふたりはお互いの手をしっかり握り、王女様を奪還した仲間とともに人間界へ帰っていったのだった。

▲レジーナが身を投げた瞬間、キュアハートは「蟹挟み」でレジーナの体をキャッチ

◀▲魔力が戻ったレジーナは、キュアハートを抱えて穴から脱出。一緒に人間界へ帰った

▼キングジコチューに逆らったレジーナは、闇の雷撃を浴びて失神。魔力を封じられた!

▲全宇宙のジャネジーを狙うキングジコチューにとって、トランプ王国や人間界は前菜!?

第22話 ピンチに登場! 新たな戦士キュアエース!

レジーナの胸の痛みは心に愛が芽生えた証?

ジョーは、目覚めさせる方法がわからない王女様を秘密の場所に隠す。一方、レジーナはマナの家で預かることに。キングジコチューを怒らせたことで落ち込むレジーナに、マナは「落ち着いたら一緒に会いにいこう」と言ってくれた。レジーナがマナたちと海で遊んでいると、彼女を連れ戻そうとするイーラたちが現れた。プリキュアのピンチに胸の苦しさを覚えるレジーナ。「心に愛が芽生えてしまった」とキングジコチューの声がとどろき、レジーナに強力なジャネジーを注入。再び闇の心に侵食されたレジーナをラブリーフォースアローで浄化しようとするプリキュア。ところが、キュアハートはレジーナを撃てない。そこに新たなプリキュア・キュアエースが!

愛をなくした悲しいジコチューさん、
このキュアハートがあなたのドキドキ取り戻してみせる♥

◀今回はジコチューの怪物は登場せず、ジコチュートリオが直々にプリキュアと対決する

▲瞳だけでなくリボンや服の色まで闇に染まったレジーナ。攻撃力も格段にパワーアップ

▲◀胸に苦しみを覚えるレジーナに、キングジコチューの幻がジャネジーをプレゼント

◀新たなプリキュアが登場! レジーナがマナたちへ放ったとどめの一撃を打ち消した!!

▲キュアハートは、レジーナに向けてラブリーフォースアローを放つことができなかった

◀マナたちと楽しく過ごすレジーナは、胸のぽかぽかと同時に、痛みを感じていた

【第22話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　キュアエース／釘宮理恵　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　アイちゃん／今井由香　ジョー岡田／櫻井孝宏　坂東宗吉／石住昭彦　相田健太郎／金光宣明　相田あゆみ／上田晴美　セバスチャン／及川いぞう　イーラ／田中真弓　マーモ／田中敦子　ベール／山路和弘　レジーナ／渡辺久美子　キングジコチュー／大塚芳忠　協力／東映東京撮影所　●STAFF　脚本：米村正二　原画：青山充　デジタル彩色：Toei Phils.　かぐら　色指定：板坂泰江　背景：デザインオフィス・メカマン　中村嘉博　上原里香　石原信明　菅野克也　鈴木祥太　邱文美　デジタル撮影：三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　ＣＧデザイナー：川原祐介　宮本浩史　笹岡晃子　宮原洋平　林沙樹　中谷純也　向後佳祐　森山美里　編集：麻生芳弘　録音：林奈緒美　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　製作進行：澤守洸　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　ＣＧ進行：髙橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：岸本拓磨（ＡＢＣ）　多田香奈子（ＡＢＣ）　美術：田中美紀　作画監督：青山充　演出：門由利子　黒田成美

【第21話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　アイちゃん／今井由香　ジョー岡田／櫻井孝宏　セバスチャン／及川いぞう　イーラ／田中真弓　マーモ／田中敦子　ベール／山路和弘　レジーナ／渡辺久美子　ジコチュー／岩崎征実　キングジコチュー／大塚芳忠　協力／東映東京撮影所　●STAFF　脚本：田中仁　原画：和田喜彰　藤井芳徳　田中希果　中澤あこ　榎本勝紀　デジタル彩色：阿部千春　伊藤元子　山田喜子　柴崎佳子　高橋千鶴　柳谷有紀　アーク・クリエイション サイゴン　色指定：穂積恵梨香　背景レイアウト：本間薫　鷲崎博　背景：王明月　チェン・ヤンフェイ　斉藤優　戸杉奈津子　Toei Phils.　エルウィン・サディア　デジタル撮影：三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　ＣＧデザイナー：川原祐介　小林真理　竹中佑城　宮澤孝介　村田則子　牧野快　藤澤菜月　峯沢琢也　編集：麻生芳弘　録音：川崎公敬　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　製作進行：太田有紀　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　ＣＧ進行：髙橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：岸本拓磨（ＡＢＣ）　多田香奈子（ＡＢＣ）　美術：猿谷勝己　作画監督：髙橋晃　演出：小川孝治

OP

マナたちの普通の中学生としての日常と、変身してプリキュアになった彼女たちの戦いを見せるOP。マナを中心に、プリキュアたちの弾ける笑顔が超キュート♪

1 第1話～第26話

『Happy Go Lucky! ドキドキ！プリキュア』

2 第27話～第49話

バージョンアップポイント

▶物語が後半に入った27話からは、OPもバージョンアップ！ Aのシーンが亜久里&キュアエース、レジーナに差し替えられ、戦いがハードになっていく雰囲気が感じられる。Bのシーンやクライマックスのシーンのシーンはプリキュア5人全員集合バージョンに！

主題歌（OP）
『Happy Go Lucky! ドキドキ！プリキュア』
作詞：藤林聖子
作曲：清岡千穂
編曲：池田大介
うた：黒沢ともよ

主題歌（ED）
『この空の向こう』
作詞：利根川貴之
作曲：Dr.Usui
編曲：Dr.Usui, 利根川貴之
うた：吉田仁美

主題歌（ED）
『ラブリング』
作詞：利根川貴之
作曲：Dr.Usui
編曲：Dr.Usui & Wicky. Recordings
うた：吉田仁美

マーベラス AQL

ED
EDは、前半と後半の２種類。どちらも全編CGを使って描かれていて、プリキュアたちのおしゃれなダンスが見られる。後半の映像には、OPと同様にキュアエースも参加しているぞ。
エンディングテーマ振り付け
MIKIKO
1 第1話～第26話
『この空の向こう』
2 第27話～第49話
『ラブリンク』

愛を取り戻せ！プリキュア5つの誓い！

マナはプリキュア失格!? エース登場で試される力

突如現れたキュアエースがレジーナを圧倒。傷ついたレジーナは、マナにプリキュアへの怒りをぶつけて消え、マナは失意で泣き崩れてしまう。そんなマナにエースは「プリキュア5つの誓い」を伝え、厳しく突き放す。マナがひとりで落ち込んでいると、なんと魔法でマナの妹ということになったアイちゃんが登場。アイちゃんのおかげでマナは元気を取り戻す。一方、キュアダイヤモンドたちはリーヴァとグーラが出したジコチューを相手に苦戦していた。そこに変身できないマナが現れ、生身のまま果敢に戦い始める。マナの決意を認めた亜久里がラビーズを返し、ふたり揃ってキュアハート&エースに変身。ジコチューを浄化した。

▲今のマナにはプリキュアの資格なし。ラビーズを取り上げてしまうキュアエース

▲ジコチュートリオよりも手強い新たな敵、リーヴァとグーラ。プリキュア3人では苦戦

▲部屋にこもり、食事もとらずに落ち込み続けるマナ

▲プリキュアの使命感を取り戻したキュアハートは強い！

▲魔法によってアイちゃんをマナの妹だと思い込んでいるマナのママ

▲マナが自分の愛を取り戻したと認め、ラビーズを返すキュアエースこと亜久里

▲▶キュアエースに倒され、ベールたちに連れて行かれるレジーナにすがるマナ。悲しい別れ……

衝撃！まこぴーアイドル引退宣言！

歌も戦いも中途半端 真琴が出した結論とは!?

アイドルとして順調な真琴だが、王女様を捜すという目的を終えたことから、このまま活動を続けるべきか悩んでいた。さらに亜久里に、歌に迷いを感じると指摘され、プリキュアとしても未熟だとも言われたため、アイドル引退を考え始める。コンサート当日、引退を決意したものの会場に足が向かない真琴に、氷の中の王女様から鏡を通して交信が入る。王女様は真琴の歌に勇気づけられてきたと感謝し、これからは自分のために歌ってほしいと真琴に語る。自分のコンサートを守るために戦っているキュアハートたちを目にした真琴は、これからは歌うプリキュアとして、歌で世界に愛を与えていくと決意する。

▲歌手もプリキュアも半人前と、真琴に厳しい言葉をぶつける亜久里。真琴も言い返す

▲真琴のコンサート会場で暴れるジコチュー。キュアソードを欠いたプリキュアは苦戦気味

▲真琴が次のコンサートで引退を発表すると宣言！

▲歌で世界を救う。自分なりの大きな愛に目覚めたソード

▲真琴はアイちゃんの力で真琴に交信してきた王女様から、歌を聴きたいと言われる

▲歌うことが大好きだから歌う。満員のファンの前で本心を語る真琴は自信に満ちている

▲流されてアイドルを続けているような気がして悩む真琴

【第24話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　円亜久里／釘宮理恵　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　アイちゃん／今井由香　セバスチャン／及川いぞう　イーラ／田中真弓　マーモ／田中敦子　ベール／山路和弘　リーヴァ／飛田展男　グーラ／天田益男　ジコチュー／岩崎征実　協力／東映東京撮影所　●STAFF　脚本：成田良美　原画：松田千織　西口智也　福島史士　永澤謙一　芹田明雄　赤田信人　星川信芳　山口光紀　北田美弥子　福本泰子　冨木由美子　阿藤久美子　紅野華奈　上田由希子　柴崎雄輔　デジタル彩色：Toei Phils.　かぐら　A－LINE　色指定：板坂泰江　背景レイアウト：本間薫　鷲崎博　背景：猿谷勝己　Toei Phils.　ネリート・アクーニャ　デジタル撮影：三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　ＣＧデザイナー：川原祐介　宮本浩史　笹岡晃子　宮原洋平　林沙樹　中谷純也　向後佳祐　森山美里　編集：麻生芳弘　録音：林奈緒美　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：鈴木裕介　製作進行：太田有紀　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　ＣＧ進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：岸本拓磨（ＡＢＣ）　多田香奈子（ＡＢＣ）　美術：斉藤優　作画監督：赤田信人　演出：池田洋子

【第23話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　キュアエース／釘宮理恵　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　アイちゃん／今井由香　坂東宗吉／石住昭彦　相田健太郎／金光宣明　相田あゆみ／上田晴美　セバスチャン／及川いぞう　イーラ／田中真弓　マーモ／田中敦子　ベール／山路和弘　リーヴァ／飛田展男　グーラ／天田益男　レジーナ／渡辺久美子　ジコチュー／岩崎征実　キングジコチュー／大塚芳忠　協力／東映東京撮影所　●STAFF　脚本：山口亮太　原画：星川信芳　田中伸昭　高橋任治　清水隆正　完甘美也子　大内智美　谷口健太　中川理恵　山本実　美馬健二　増田誠治　森田岳士　中村純子　森島浩一　野澤隆　西村元秀　ひのたかふみ　福本泰子　生水勇気　阿藤久美子　上田由希子　島崎望　川口悌徳　山岡直子　稲上晃　志田直俊　デジタル彩色：Toei Phils.　かぐら　A－LINE　デジタル特殊効果：牛山裕美　色指定：板坂泰江　背景：本間禎章　神戸あや恵　篝ミキ　田中里緑　増田竜太郎　Toei Phils.　グレース・トーラー　デジタル撮影：三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　ＣＧデザイナー：川原祐介　小林真理　竹中佑城　宮澤孝介　村田則子　牧野快　藤澤菜月　峯沢琢也　編集：麻生芳弘　録音：川崎公敬　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：中村明博　製作進行：山口暁生　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　ＣＧ進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：岸本拓磨（ＡＢＣ）　多田香奈子（ＡＢＣ）　美術：佐藤千恵　作画監督：稲上晃　演出：古賀豪　三塚雅人

みなぎる美しさ、キューティーマダムよ！

▲偶然が重なり、変身してしまうマーモ

第25話 華麗な変身！ニューヒロイン登場!?

衝撃の〝マダム〟出現!? セバスチャン大奮闘！

マナと真琴の相次ぐパワーアップを目にし、力不足を実感するありすは特訓を開始。そんなありすの様子を見ていられない執事のセバスチャンは、自分も変身してありすの力になろうとする。セバスチャンの人工コミューンは本物並みの出来栄えだったが、ひょんなことからそれがマーモの手に。そして変身したマーモは自ら「キューティーマダム」と名乗り、変身ヒロインという立場を悪用してやりたい放題。人工コミューンを取り返しに来たセバスチャンも簡単に倒してしまう。セバスチャンに代わって人工コミューンを取り返そうとするありすは、守り合うことの大切さに目覚め、新たな力を獲得。マーモを撃退する。

▶ありすを幼い頃からずっと見守ってきたセバスチャン。そこには親子以上の愛情が

▲人工コミューンを取り返そうとするも、あっけなく返り討ちにされるセバスチャン

▲今度は自分があなたを守る番だとありすに言われ、セバスチャンの内心は複雑……

▲お互いを思い合う気持ちの強さを再確認し、絆が一層深まる結果に

▲▶密かに開発していた人工コミューンを使い、変身するセバスチャン。ノリノリ♪

プリキュア5つの誓い、ひとつ！ 愛することは守り合うこと！

▲誰かを守りたい。それがキュアロゼッタの強さの源

愛をなくした悲しいジコチューさん、このキュアハートがあなたのドキドキ取り戻してみせる♥

◀イーラことプリキュアを攻撃するグーラ。イーラが一瞬プリキュアに味方したのも納得

◀敵に厳しいキュアエースは、イーラが記憶喪失だろうとお構いなしに倒そうとする

お行儀の悪い食いしん坊さん、このキュアダイヤモンドがあなたの頭を冷やしてあげる！

第26話 ホントの気持ちは？ 六花またまた悩む！

六花とイーラがいい感じ!? 傷ついた者には愛の手を

医者になることが自分の本当の夢なのか、改めて聞かれてわからなくなった六花。海に気晴らしに来た六花は、そこで傷ついたイーラを発見する。イーラは雷に打たれたショックで記憶を失っていた。六花に助けられたイーラは、六花のやさしさに触れて、素直に感謝を述べる。だが、亜久里がイーラをあくまで敵と見なし、彼の負傷も構わず倒そうとしたため、思わず六花はイーラをかばってしまう。たとえ敵でも、傷ついた者は見捨てない。そんな六花の信念に、マナたちも共感。襲ってきたグーラとの戦闘中にイーラは記憶を取り戻すが、回復したことを素直に喜ぶキュアダイヤモンドを見て、その心にも変化の兆しが現れる。

プリキュア5つの誓い、ひとつ！ プリキュアたる者、自分を信じ、決して後悔しない！

▲敵でも守る！　慈愛の心がキュアダイヤモンドの強さ！

▲敵を守ることに納得はできないけれど、六花を信じる。信頼こそプリキュアの強さ！

▲戦いの中で記憶が甦ったイーラは、六花のやさしさに触れ、気持ちが揺れ動く

▼腕を怪我したイーラにオムライスを「あ～ん」と食べさせてあげる六花。いい雰囲気

▲医者になりたいという夢は、母親の背中を追っているだけ？　改めて自分の夢を考える六花

【第26話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　円亜久里／釘宮理恵　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　アイちゃん／今井由香　菱川悠蔵／前田剛　菱川亮子／湯屋敦子　城戸先生／前田一世　三村／大林洋平　イーラ／田中真弓　リーヴァ／飛田展男　グーラ／天田益男　協力／東映東京撮影所　●STAFF　脚本：米村正二　原画：星川信芳　原田節子　北野幸広　丸山匡彦　飯島秀一　稲葉仁　小松こずえ　安田陽子　大内智美　谷口健太　河村信道　高橋任治　生水勇気　阿藤久美子　デジタル彩色：Toei Phils.　かぐら　Ａ－ＬＩＮＥ　色指定：板坂泰江　背景レイアウト：下川忠海　背景：増田竜太郎　田中里緑　飯野敏典　佐藤千恵　皆川真紀　Toei Phils.　ルーベン・オレンセ　デジタル撮影：三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　ＣＧデザイナー：川原祐介　宮本浩史　笹岡晃子　宮原洋平　林沙樹　中谷純也　向後佳祐　森山美里　編集：麻生芳弘　録音：林奈緒美　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　製作進行：山口暁生　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　ＣＧ進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：岸本拓磨（ＡＢＣ）　多田香奈子（ＡＢＣ）　美術：篝ミキ　作画監督：小松こずえ　演出：田中裕太

【第25話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　円亜久里／釘宮理恵　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　アイちゃん／今井由香　セバスチャン／及川いぞう　ヒーロージャー／佐藤拓也　作業員／菊本平　イーラ／田中真弓　マーモ／田中敦子　リーヴァ／飛田展男　グーラ／天田益男　ジコチュー／岩崎征実　協力／東映東京撮影所　●STAFF　脚本：高橋ナツコ　原画：河野宏之　永島英樹　藤井孝博　デジタル彩色：Toei Phils.　かぐら　色指定：板坂泰江　背景：田中里緑　山下千歌　増田竜太郎　牟田いずみ　アテネアートスタジオ　枕浦正一郎　大谷正信　斉藤信二　デジタル撮影：三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　ＣＧデザイナー：川原祐介　小林真理　竹中佑城　宮澤孝介　村田則子　牧野快　藤澤菜月　峯沢琢也　編集：麻生芳弘　録音：川崎公敬　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：中村明博　製作進行：澤守洸　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　ＣＧ進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：岸本拓磨（ＡＢＣ）　多田香奈子（ＡＢＣ）　美術：飯野敏典　作画監督：河野宏之　演出：入好さとる　岩井隆央

第27話 バレちゃった!? キュアエースの弱点!

変身時間は5分! エースの弱点をみんなでカバー

プリキュアを導き、颯爽と飛び去るキュアエース。その正体の亜久里も含めて謎が多かったが、マナが和菓子を届けた茶道の先生の家こそ、亜久里の実家だった。亜久里は野点の席にマナたちを招き、交流を深める。その後、リーヴァとグーラが現れ、合体ジコチューを使って野点の会場を荒らし始める。亜久里はキュアエースに変身して戦うが、実は変身時間が5分間しかないため、肝心なところで変身が解けてしまう。亜久里の目の前でおばあ様が絶体絶命となったところへ、キュアハートたちが到着し、ジコチューを浄化する。キュアハートたちとキュアエースは、お互いに助け合うことを誓うのだった。

▼キュアエースこと亜久里はマナたちのご近所さんだった

▲戦いにもたつくキュアハートたちにキュアエースはじれ気味

▲巨大化し、手強くなった合体ジコチュー

▲成長したプリキュアの合体技で、合体ジコチューを撃破!

▲5分経ち、変身が解けてしまうキュアエース

第28話 胸がドキドキ! 亜久里の夏休み!

みんなで楽しむことの素晴らしさを知った夏祭り

プリキュアの強化にあせる亜久里は、特訓のやり過ぎで倒れてしまう。その様子を心配そうに見ていた森本エルから亜久里の日常を聞いたマナは、みんなで夏祭りに行くことを提案。屋台で遊び、みんなでかき氷を食べるのも初めてという亜久里は、みんなでやると楽しさが倍増することに気付く。そこに合体ジコチューが現れ、攻撃のあおりを受けて亜久里が崖から落ちそうになってしまう。それを必死で支えるエルから、かつて亜久里にくせ毛を誉められたことを大切な思い出にしていると聞き、亜久里は友情が強さを生むことを実感。キュアエースとしてパワーアップを果たし、改めてエルと友達になる。

▼お祭り騒ぎをしながら夏祭りを荒らす合体ジコチュー

愛をなくした
悲しい夏祭りさん、
このキュアハートがあなたの
ドキドキ取り戻してみせる♥

▶初めての金魚すくいに大興奮の亜久里。いざ挑んだ結果! 力み過ぎて一発でポイが破れちゃった……

▼崖から落ちそうな亜久里を必死に引っ張り上げようとするエル。頑張る理由は亜久里と友達になりたいから!

私の大切なお友達に手を出したら、ただではおきません!

▲これまで精神的にひとりで戦ってきたキュアエースが、友情が持つ力に気付いたとき、真のエースに覚醒する!

▲亜久里と同級生の森本エル。以前から亜久里と仲よしになりたいと願っていた

第29話 マナのために! シャルル大変身!

妖精たちが人間に変身! でも調子に乗り過ぎご用心

生徒会長の仕事をはじめ、多忙を極めるマナの様子を見たシャルルは、マナをお手伝いしたいと思うものの、ホチキスひとつ押せない自分の身体を情けなく感じる。そこで人間に変身できるダビィに頼み込み、人間に変身する方法を教わる。そこにラケルとランスもやってきて、みんなで人間への変身に挑戦。見事に成功し、さっそくシャルルはマナをお手伝い。だが、マナの代わりにお使いを頼まれたシャルルが戻る前に、ジコチューが出現。シャルルがいないと変身できないマナを欠いたプリキュアは苦戦してしまう。しかしギリギリのタイミングでキュアハートが間に合い、浄化。マナとシャルルの絆も深まる。

▲念願の人間化に成功したラケル、シャルル、ランス

【第27話】CAST&STAFF

●CAST 相田マナ／生天目仁美 菱川六花／寿美菜子 四葉ありす／渕上舞 剣崎真琴／宮本佳那子 円亜久里／釘宮理恵 シャルル／西原久美子 ラケル／寺崎裕香 ランス／大橋彩香 ダビィ／内山夕実 アイちゃん／今井由香 円茉莉／唐沢潤 リーヴァ／飛田展男 グーラ／天田益男 ジコチュー／岩崎征実 協力／東映東京撮影所 ●STAFF 脚本：田中仁 原画：小林慶輝 川口幸治 阿尻隆司 伊藤智子 野津美智子 大谷房代 池田志乃 下村こず恵 志田直俊 濱野裕一 山岡直子 デジタル彩色：Toei Phils. かぐら A－LINE 色指定：板坂泰江 背景レイアウト：本間薫 鷲崎博 背景：斉藤優 宮本里香 チェン・ヤンフェイ Toei Phils. エルウィン・サディア デジタル撮影：三晃プロダクション 白鳥友和 緒方美佐子 福井道子 則友邦仁 清水正道 佐伯英範 吉野和宏 金子直広 石川晴彦 山口博睦 花見早苗 寺崎光喜 夏原弘成 ＣＧデザイナー：日向学 峯沢琢也 米澤真一 小林真理 藤澤菜月 宮澤孝介 小泉正行 梶玲子 野平幸寿 赤瀬平 関祖輝 足立尚樹 編集：麻生芳弘 録音：川崎公敬 音響効果：石野貴久 選曲：水野さやか 記録：沢井尚子 録音スタジオ：タバック オンライン編集：東映デジタルラボ 音楽協力：東映アニメーション音楽出版 演出助手：鈴木裕介 製作進行：太田有紀 美術進行：西牧正人 仕上進行：村上昌裕 ＣＧ進行：高橋裕哉 演技事務：小浜匠 宣伝：岸本拓磨（ＡＢＣ） 多田香奈子（ＡＢＣ） 美術：猿谷勝己 作画監督：伊藤智子 演出：芝田浩樹

【第28話】CAST&STAFF

●CAST 相田マナ／生天目仁美 菱川六花／寿美菜子 四葉ありす／渕上舞 剣崎真琴／宮本佳那子 円亜久里／釘宮理恵 シャルル／西原久美子 ラケル／寺崎裕香 ランス／大橋彩香 ダビィ／内山夕実 アイちゃん／今井由香 森本エル／森谷里美 リーヴァ／飛田展男 グーラ／天田益男 ジコチュー／岩崎征実 協力／東映東京撮影所
●STAFF 脚本：米村正二 原画：和田喜彰 藤井芳徳 田中希果 榎本勝紀 デジタル彩色：阿部千春 伊藤元子 山田喜子 柴崎佳子 高橋千鶴 柳谷有紀 アーク・クリエイション サイゴン Toei Phils. 色指定：穂積恵梨香 背景：デザインオフィス・メカマン 中村嘉博 石原信明 菅野克也 鈴木祥太 ミキミチヨ デジタル撮影：三晃プロダクション 白鳥友和 緒方美佐子 福井道子 則友邦仁 清水正道 佐伯英範 吉野和宏 金子直広 石川晴彦 山口博睦 花見早苗 寺崎光喜 夏原弘成 ＣＧデザイナー：日向学 峯沢琢也 宮本浩史 中谷純也 佐々木嘉久 林春香 岩本千尋 森山美里 笹岡晃子 宮原洋平 向後佳祐 林沙樹 編集：麻生芳弘 録音：林奈緒美 音響効果：石野貴久 選曲：水野さやか 記録：沢井尚子 録音スタジオ：タバック オンライン編集：東映デジタルラボ 音楽協力：東映アニメーション音楽出版 製作進行：澤守洸 美術進行：西牧正人 仕上進行：村上昌裕 ＣＧ進行：高橋裕哉 演技事務：小浜匠 宣伝：岸本拓磨（ＡＢＣ） 多田香奈子（ＡＢＣ） 美術：田中美紀 作画監督：高橋晃 演出：越智一裕 黒田成美

↘弘成 ＣＧデザイナー：日向学 峯沢琢也 米澤真一 小林真理 藤澤菜月 宮澤孝介 小泉正行 梶玲子 編集：麻生芳弘 録音：川崎公敬 音響効果：石野貴久 選曲：水野さやか 記録：沢井尚子 録音スタジオ：タバック オンライン編集：東映デジタルラボ 音楽協力：東映アニメーション音楽出版 演出助手：中村明博 製作進行：山口暁生 美術進行：西牧正人 仕上進行：村上昌裕 ＣＧ進行：高橋裕哉 演技事務：小浜匠 宣伝：岸本拓磨（ＡＢＣ） 多田香奈子（ＡＢＣ） 美術：佐藤千恵 作画監督：青山充 演出：門由利子 岩井隆央

第30話 最後の試練!伝説のプリキュア!

最強のドラゴンを相手に燃える闘志が奇跡を起こす

亜久里の猛特訓の総仕上げは、1万年前のプリキュアが手にしたという三種の神器を手に入れることだった。神器のひとつ、水晶の鏡を手に入れるため孤島に向かった一行は、島の手前でドラゴンに襲われ、飛行機が不時着。ドラゴンの正体は、孤島で水晶の鏡を守る妖精メランだった。メランはプリキュアの実力を試すため、ドラゴンの姿で襲いかかる。メランの力は圧倒的で、全員の合体技ですら歯が立たないほど。それでも全員があきらめず、知恵とチームワークで挑みかかる。そしてキュアハートの不屈の闘志にかつてのパートナー・キュアエンプレスの面影を見たメランは、水晶の鏡と世界の未来を託す。

◀▲1万年前から水晶の鏡を守り続けている妖精メラン

▶キュアロゼッタに力を集め、メランのバリアを一点突破!

▲メランから水晶の鏡を渡されるマナ。メランに同行も頼むが、それは断られる

▶水晶の鏡に宿ったキュアエンプレスはキュアハートを後継者と認めた様子

◀キュアハートの戦いぶりが、メランの心を突き動かす

第31話 大貝町大ピンチ!誕生!ラブリーパッド

破壊される水晶の鏡!最大のピンチに希望の輝き

失敗続きのリーヴァとグーラは、ついに最後の手であるジコチュー植物を使った作戦を決行する。ばらまかれた大量のジコチューの種は、町中の人々を眠らせ、やがて一斉にジコチュー化させ、キングジコチューを復活させるジャネジーを生み出すという。作戦を阻止するため、合体したリーヴァとグーラに挑むプリキュアだが、技が通用しない上になんと水晶の鏡まで割られてしまう。それでも立ち上がるキュアハートの不屈の心がプリキュアに勇気を与え、割れた水晶の鏡も反応。その欠片がラブリーパッドとなって、全員に力を与える。敗れて逃げ帰ったリーヴァとグーラは、ベールにジャネジーを吸い取られ消滅。

▶リーヴァとグーラが合体した怪物にプリキュア大ピンチ!

▲新たな力、ラブリーパッドが5人の手に渡る

▲ダメージを受けてもコートチェンジで受け流してしまうジコチューにプリキュア大苦戦!

◀お使いの途中でも、困っている人を見たら見過ごせないシャルル。おかげで大遅刻

▶シャルルのおかげで参戦が遅れたキュアハートだが、仲間のミスは全員でカバー。プリキュアの結束は強い!

私たちがこの町のドキドキ取り戻してみせる♥

◀戦いで弱った隙をベールに突かれ、消滅させられるふたり

▲どん底状態からでも立ち上がる。それがキュアハートの強さ!

◀お使いの間に人助けをしていたことを知り、マナは改めてシャルルを最高の仲間としてたたえる

【第31話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　円亜久里／釘宮理恵　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　アイちゃん／今井由香　セバスチャン／及川いぞう　坂東宗吉／石住昭彦　相田健太郎／金光宣明　相田あゆみ／上田晴美　菱川亮子／湯屋敦子　円茉莉／唐沢潤　ベール／山路和弘　リーヴァ／飛田展男　グーラ／天田益男　ジコチュー／岩崎征実　協力／東映東京撮影所　●STAFF　脚本：成田良美　原画：松田千織　田中伸昭　星川信芳　清水隆正　福本泰子　安田陽子　冨木由美子　完甘美也子　増田誠治　美馬健二　ひのたかふみ　高木さくら　島田望　古矢好二　志田直俊　野津美智子　藤原舞　デジタル彩色：Toei Phils.　かぐら　Ａ－ＬＩＮＥ　デジタル特殊効果：牛山裕美　色指定：板坂泰江　背景レイアウト：下川忠海　背景：篝ミキ　皆川真紀　増田竜太郎　田中美紀　Toei Phils.　ルーベン・オレンセ　デザインオフィス・メカマン　デジタル撮影：三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　ＣＧデザイナー：日向学　峯沢琢也　米澤真一　小林真理　藤澤菜月　宮澤孝介　小泉正行　梶玲子　編集：麻生芳弘　録音：川崎公敬　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：鈴木裕介　製作進行：澤守洸　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　ＣＧ進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：岸本拓磨（ＡＢＣ）多田香奈子（ＡＢＣ）　美術：田中里緑　作画監督：山岡直子　演出：三塚雅人

【第30話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　円亜久里／釘宮理恵　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　アイちゃん／今井由香　セバスチャン／及川いぞう　メラン／松岡洋子　キュアエンプレス／飯塚雅弓　協力／東映東京撮影所　●STAFF　脚本：山口亮太　原画：完甘美也子　高橋任治　永澤謙一　北田美弥子　野澤隆　叶内孝行　清水博明　上野泰寛　濱野裕一　板岡錦　永島英樹　山口光紀　森下勇輝　杉江敏治　生水勇気　上田由希子　島崎望　デジタル彩色：Toei Phils.　かぐら　色指定：板坂泰江　背景レイアウト：鷲崎博　本間薫　背景：猿谷勝己　戸杉奈津子　王明月　チェン・ヤンフェイ　Toei Phils.　ネリート・アクーニャ　デジタル撮影：三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　ＣＧデザイナー：日向学　峯沢琢也　宮本浩史　中谷純也　笹岡晃子　宮原洋平　岩本千尋　森山美里　編集：麻生芳弘　録音：林奈緒美　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　製作進行：太田有紀　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　ＣＧ進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：岸本拓磨（ＡＢＣ）多田香奈子（ＡＢＣ）　美術：斉藤優　作画監督：濱野裕一　演出：小川孝治

【第29話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　円亜久里／釘宮理恵　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　アイちゃん／今井由香　セバスチャン／及川いぞう　城戸先生／前田一世　十条／白川周作　リーヴァ／飛田展男　グーラ／天田益男　ジコチュー／岩崎征実　母親／慶長佑香　男の子／一木千洋　協力／東映東京撮影所　●STAFF　脚本：高橋ナツコ　原画：青山充　デジタル彩色：Toei Phils.　かぐら　色指定：板坂泰江　背景：篝ミキ　飯野敏典　増田竜太郎　Toei Phils.　グレース・トーラー　デジタル撮影：三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原↗

マナ倒れる！ 嵐の文化祭

文化祭準備で亜久里がみんなを一刀両断!?

文化祭の準備で多忙を極めたマナは、過労で倒れてしまう。代わりに副会長や実行委員たちが相次ぐトラブルに対応しようとするも、お手上げ状態。マナがいなければ何もできないのかと亜久里は一喝して回る。さらに亜久里はマナにも、みんなを甘やかしていると指摘する。苦笑いのマナは、別に一方的にやさしくしているわけではなく、みんなと助け合っているのだと語る。その言葉通り、実行委員たちが知恵を絞って文化祭を成功させたのを見て、亜久里もマナが『幸せの王子』の結末のような悲しいことにはならないと思い、周りの人たちを信じることで生まれる力があることを学ぶ。

▲文化祭の準備で頑張りすぎたマナは、明日が本番というところでついにダウン

▲マナに頼りきっていた実行委員の不甲斐なさを亜久里が一刀両断

◀▲ブラッドリングでベールに従わされるイーラは、本心では六花と戦いたくない様子

▶みんなで組んだやぐらを守れ！ 生徒もジコチューに立ち向かう

◀無事に後夜祭を迎え、キャンプファイヤーの周りに笑顔があふれる

第33話 ありすパパ登場！ 四葉家お泊まり会！

ありすを変えたマナと六花 少女たちの友情は無敵！

ありすの家でお泊まり会をしていると、3か月ぶりにありすパパが帰ってきて、思い出話に花が咲く。6歳の頃、身体が弱かったありすはマナ＆六花と友達になり、一緒に野山を駆け回るうちに次第に元気になっていった。しかしありすが風邪をひき、屋敷を抜け出していたことがありすパパに知れたため、ありすは引っ越すことに。それを阻止すべく、マナはありすを連れてありすパパの部下を相手に壮絶な追いかけっこを開始した。そんな思い出話の最中、ジコチューが現れる。ジコチューと戦いながらキュアロゼッタは、「マナのようになりたい」と思ったことを思い出し、新技でジコチューを浄化する。

▼仕事で世界中を飛び回っているありすパパが突然帰宅。マナや六花とも久々の対面になる

▲初めて友達ができたありすはマナたちと一緒にたくさんの初体験をして、本当に楽しそう

◀▶ありすパパが乗ったヘリを、マーモとジコチューが襲う！

世界中を笑顔で、
愛がいっぱいにしたいから、
だから、　さあ、
あなたも私と愛を
育んでくださいな

▲キュアロゼッタがありすパパを救出！ パパもキュアロゼッタの正体がありすと気づく

第34話 ママはチョーたいへん！ ふきげんアイちゃん！

アイちゃんの笑顔のためにプリキュアたちが大奮闘！

アイちゃんが泣くと、ジャネジーがみなぎることにイーラとマーモが気付く。一方、なかなか泣きやまないアイちゃんに、マナたちはお手上げ気味。六花ママは、赤ちゃんにはぐずる時期があり、自分も六花の夜泣きに悩まされたと話す。そこでマナたちもとことんアイちゃんに付き合うが、一晩中続く夜泣きにマナと六花はヘトヘト。そこをイーラが襲い、アイちゃんを泣かせてパワーアップしたジコチューがプリキュアを窮地に陥れる。それでも泣きやんでくれないアイちゃんに、キュアダイヤモンドの涙の訴えが届いたとき、アイちゃんに笑顔が戻り、プリキュアは逆転勝利を収める。

▶戦闘中に突如大泣きし始めたアイちゃん。すると、イーラとマーモのジャネジーが急上昇！

◀パワーが格段に上がったイーラとマーモはプリキュアを圧倒！ だがなぜかベールに呼び戻される

↘水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　**CGデザイナー：**日向学　峯沢琢也　宮本浩史　中谷純也　笹岡晃子　宮原洋平　岩本千尋　森山美里　**編集：**麻生芳弘　**録音：**林奈緒美　**音響効果：**石野貴久　**選曲：**水野さやか　**記録：**沢井尚子　**録音スタジオ：**タバック　**オンライン編集：**東映デジタルラボ　**音楽協力：**東映アニメーション音楽出版　**演出助手：**鈴木裕介　**製作進行：**澤守洸　**美術進行：**西牧正人　**仕上進行：**村上昌裕　**CG進行：**高橋裕哉　**演技事務：**小浜匠　**宣伝：**岸本拓磨（ABC）　多田香奈子（ABC）　**美術：**田中美紀　**作画監督：**河野宏之　**演出：**入好さとる　小川孝治

【第33話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　円亜久里／釘宮理恵　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　アイちゃん／今井由香　四葉星児／中村秀利　セバスチャン／及川いぞう　マーモ／田中敦子　ジコチュー／岩崎征実　協力／東映東京撮影所　**●STAFF**　**脚本：**米村正二　**原画：**赤田信人　飯島秀一　野津美智子　鈴木理沙　藤原舞　谷口健太　柴崎雄輔　山木実　上田恵未　紅野華奈　森島浩一　高橋任治　兼高里圭　北田美弥子　菅藤剛　古矢好二　福澤由貴　飯嶋友里恵　安斉佳恵　桑島望　永井泰平　寿夢龍　古俣拓磨　島崎望　板岡錦　**デジタル彩色：**Toei Phils.　かぐら　**デジタル特殊効果：**牛山裕美　**色指定：**板坂泰江　**背景レイアウト：**本間薫　鷲崎博　**背景：**斉藤優　Toei Phils.　グレース・トーラー　**デジタル撮影：**三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　**CGデザイナー：**日向学　峯沢琢也　米澤真一　小林真理　藤澤菜月　宮澤孝介　小泉正行　梶玲子　**編集：**麻生芳弘　**録音：**川崎公敬　**音響効果：**石野貴久　**選曲：**水野さやか　**記録：**沢井尚子　**録音スタジオ：**タバック　**オンライン編集：**東映デジタルラボ　**音楽協力：**東映アニメーション音楽出版　**製作進行：**太田有紀　**美術進行：**西牧正人　**仕上進行：**村上昌裕　**CG進行：**高橋裕哉　**演技事務：**小浜匠　**宣伝：**岸本拓磨（ABC）　多田香奈子（ABC）　**美術：**猿谷勝己　**作画監督：**赤田信人　**演出：**田中裕太

【第32話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　円亜久里／釘宮理恵　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　アイちゃん／今井由香　二階堂／佐藤拓也　百田／桜井翼　十条／白川周作　京田／藤村歩　八嶋／一木千洋　他校の生徒／大林洋平　男子生徒／金本涼輔　イーラ／田中真弓　マーモ／田中敦子　ベール／山路和弘　ジコチュー／岩崎征実　協力／東映東京撮影所　**●STAFF**　**脚本：**田中仁　**原画：**原田節子　星川信芳　完甘美也子　芹田明雄　丸山匡彦　福島史士　永澤謙一　大内智美　稲上晃　清水隆正　河村信道　谷口健太　西村元秀　野澤隆　松田千織　島崎望　古俣拓磨　中村真由美　**デジタル彩色：**Toei Phils.　かぐら　**デジタル特殊効果：**牛山裕美　**色指定：**板坂泰江　**背景レイアウト：**下川忠海　**背景：**山下千歌　渡部葉　佐藤千恵　牟田いずみ　増田竜太郎　田中美紀　Toei Phils.　エルウィン・サデーア　デザインオフィス・メカマン　**デジタル撮影：**三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　**CGデザイナー：**日向学　峯沢琢也　宮本浩史　中谷純也　笹岡晃子　宮原洋平　岩本千尋　森山美里　**編集：**麻生芳弘　**録音：**林奈緒美　**音響効果：**石野貴久　**選曲：**水野さやか　**記録：**沢井尚子　**録音スタジオ：**タバック　**オンライン編集：**東映デジタルラボ　**音楽協力：**東映アニメーション音楽出版　**演出助手：**中村明博　**製作進行：**山口暁生　**美術進行：**西牧正人　**仕上進行：**村上昌裕　**CG進行：**高橋裕哉　**演技事務：**小浜匠　**宣伝：**岸本拓磨（ABC）　多田香奈子（ABC）　**美術：**飯野敏典　**作画監督：**稲上晃　**演出：**牧野次郎　岩井隆央

残る力を振り絞った王女の交信により、アイちゃんの秘密が伝えられる

▲アイちゃんに歯が！ 歯磨きを教えたいが……

いやいやアイちゃん！ 歯みがき大作戦！

真琴が虫歯に！ 歯医者さんが怖くて大惨事!?

アイちゃんが急に泣き出すようになったのは、いやいや期に入ったからだった。王女様から、アイちゃんがジコチューな子に育ったら、力が失われると聞いたマナたちは、アイちゃんのお手本になろうとする。ところが、真琴が虫歯に！ トランプ王国には虫歯がないため、正しい歯磨きをしてこなかったのだ。歯が生え始めたアイちゃんへの教育も兼ねて、歯医者に行った真琴だったが、治療が怖くて逃げ出してしまう。しかもジコチューまで出現して大ピンチ！ キュアエースに叱られた真琴は頑張って変身し、新技でジコチューを浄化。その後、真琴は虫歯を治し、アイちゃんも歯磨きをするようになった。

▲虫歯がないトランプ王国出身の真琴は、初めて味わう虫歯の痛さがこたえる

◀真琴を諭すキュアエースの姿に王女が重なり、真琴復活！

◀虫歯治療の怖さのせい!? 意外に強い虫歯ジコチュー

▶なにをやっても泣きやまないアイちゃん。言葉が話せない赤ちゃんを理解するのは大変だ

◀赤ちゃんの前では笑顔でいること。マナのママのアドバイスは経験者の重み

▼六花とスキンシップをはかる六花ママ。何よりも強いものは愛

▼ジコチューの爆音がとどろくなか、キュアダイヤモンドの心からの叫びがアイちゃんに通じ、笑顔に！

何があっても私たちが絶対にアイちゃんを守りぬいてみせる！

愛をなくした悲しいバイクさん、
このキュアハートがあなたのドキドキ取り戻してみせる♥

第36話

ラケルはりきる！ 初恋パワー全開！

愛をなくした悲しいアヒルさん、
このキュアハートがあなたのドキドキ取り戻してみせる♥

ラケルが少女に恋をした 愛のパワーは最強無敵！

再び人間に変身し、六花のお手伝いをしようとしていたラケルは、飼育係の八嶋さんの頼みで、逃げたうさぎを保護。八嶋さんに笑顔で「ラケルくんは私のヒーロー！」と感謝されたラケルは、不思議な気持ちになる。それが恋だと知ったラケルは、ますます八嶋さんを好きになっていく。八嶋さんが大切にしている公園で、一緒にボートをこぐラケルは幸せの絶頂へ。ところがジコチューが現れ、公園と池を汚し始めた！ 怒ったラケルはプリキュアに率先して戦い出し、体当たりでジコチューをひるませ浄化。公園を守れた満足感で八嶋さんのもとへ向かったラケルを、八嶋さんは笑顔で迎えてくれた。……彼氏とともに。

◀新技ラケル体当たりは強力だが、キュアダイヤモンドも腰が痛い

▲◀八嶋さんの素敵な笑顔の横に、マッチョメン。ラケルの初恋、砕け散る……

▼▶八嶋さんのことを思うと胸がキュンキュンする。ラケルの初恋相手は人間の少女。妖精と人間の恋は実るのか？

▲六花に慰めてもらい、やはり六花が一番と思い直すラケル

【第36話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　円亜久里／釘宮理恵　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　アイちゃん／今井由香　八嶋／一木千洋　原田／金本涼輔　イーラ／田中真弓　マーモ／田中敦子　ベール／山路和弘　ジコチュー／岩崎征実　協力／東映東京撮影所　●STAFF　脚本：高橋ナツコ　原画：和田喜彰　藤井芳徳　田中希果　斎藤佑　榎本勝紀　デジタル彩色：阿部千春　伊藤元子　山田喜子　柴崎佳子　高橋千鶴　柳谷有紀　アーク・クリエイション サイゴン　色指定：穂積恵梨香　背景レイアウト：本間薫　鷲崎博　背景：猿谷勝己　王明月　Toei Phils.　ルーベン・オレンセ　デジタル撮影：三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　ＣＧデザイナー：日向学　峯沢琢也　宮本浩史　中谷純也　笹岡晃子　宮原洋平　岩本千尋　森山美里　編集：麻生芳弘　録音：林奈緒美　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：鈴木裕介　製作進行：太田有紀　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　ＣＧ進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：岸本拓磨（ＡＢＣ）　多田香奈子（ＡＢＣ）　美術：斉藤優　作画監督：高橋晃　演出：池田洋子

【第35話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　円亜久里／釘宮理恵　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　アイちゃん／今井由香　歯医者／松本忍　イーラ／田中真弓　マーモ／田中敦子　ジコチュー／岩崎征実　協力／東映東京撮影所　●STAFF　脚本：山口亮太　原画：星川信芳　小松こずえ　田中伸昭　完甘美也子　松田千織　冨木由美子　清水隆正　北田美弥子　福本泰子　安田陽子　西村元秀　増田誠治　デジタル彩色：Toei Phils.　かぐら　Ａ－ＬＩＮＥ　武遊　デジタル特殊効果：牛山裕美　色指定：板坂泰江　背景：佐藤千恵　皆川真紀　アテネアートスタジオ　枕浦正一郎　斉藤信二　大谷正信　Toei Phils.　ネリット・アクーニャ　デジタル撮影：三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　ＣＧデザイナー：日向学　峯沢琢也　米澤真一　小林真理　藤澤菜月　宮澤孝介　小泉正行　梶玲子　編集：麻生芳弘　録音：川崎公敬　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：中村明博　製作進行：山口暁生　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　ＣＧ進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：岸本拓磨（ＡＢＣ）　多田香奈子（ＡＢＣ）　美術：篝ミキ　作画監督：小松こずえ　演出：芝田浩樹

【第34話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　円亜久里／釘宮理恵　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　アイちゃん／今井由香　相田あゆみ／上田晴美　菱川亮子／湯屋敦子　高校生／高橋英則　イーラ／田中真弓　マーモ／田中敦子　ベール／山路和弘　ジコチュー／岩崎征実　協力／東映東京撮影所　●STAFF　脚本：成田良美　原画：河野宏之　永島英樹　藤井孝博　森田岳士　デジタル彩色：Toei Phils.　かぐら　デジタル特殊効果：牛山裕美　色指定：板坂泰江　背景：デザインオフィス・メカマン　上原里香　石原信明　鈴木祥太　邱文美　デジタル撮影：三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清↗

◀みんなで畑仕事。野菜を育てるのって本当に大変!

ニンジンは最強の敵!? 亜久里かつてない大苦戦

ニンジンのおかゆをひと口食べ、吐き出したアイちゃん。そんなアイちゃんを諭す亜久里も、実はニンジンが嫌いだった。しかしこのままではアイちゃんまで亜久里のようなニンジン嫌いに育ってしまう。マナは亜久里に好き嫌いを克服させるため、ニンジン農家の1日体験に連れて行く。畑仕事を通じて、ニンジンを育てることの大変さは理解したものの、どうしても食べることができない亜久里。むしろ、現れたお菓子の家ジコチューを食べたがる始末。だが、ニンジンを育てる人や、料理を作る人がニンジンに注ぐ愛の大きさに気づいたことで、ニンジン嫌いを乗り越える。そんな亜久里を見て、アイちゃんもニンジンを食べ始める。

▲1本のニンジンに注がれる、込められた愛情に気付くキュアエース

▲ジコチューの口に飛び込み、ニンジンの群れに囲まれるキュアエースたち。かつてない恐怖が襲う

▲戦いを経て、ニンジンが大好きになった亜久里とアイちゃん

▲乳歯が生えたアイちゃんに、マナが用意した離乳食は、ニンジンのおかゆ。しかしアイちゃんはお気に召さず

◀ニンジン農家のオーナーは、生のニンジンを丸かじりするほどニンジン大好き! でもちょっと暑苦しい

ジコチュートリオ タイツ姿で子守りに奮闘!?

アイちゃんが泣くとジャネジーが増大することに着目したベールたちは、アイちゃんを夜な夜な外へ連れ出し、わがまま放題にさせる。作戦は功を奏し、アイちゃんは次第に言うことを聞かなくなってしまう。さらに、アイちゃんを人質にしてプリキュアを誘い出し、すっかりジコチューになったアイちゃんの力を使ってプリキュアを圧倒。だが、戦いの最中でもアイちゃんを気遣うキュアハートたちの姿に、心を動かされたアイちゃんは元に戻り、プリキュアもパワーアップ! イーラとマーモが着けていたブラッドリングを使い、スーパーベールとなったベールも撃退する。だがその頃、トランプ王国ではレジーナが復活していた。

◀▲ジコチュートリオの作戦が実り、ジコチューな子に変わってしまったアイちゃん。もうマナたちの声も届かないのか……?

▲▶キュアハートの相手を信じる心がアイちゃんの心に響き、アイちゃんは愛を取り戻す

▼失敗続きでトランプ王国に呼び出されたジコチュートリオの前に、復活したレジーナが登場

▲▶アイちゃんをジコチューに育てるため、どんなわがままにも対応するイーラとマーモ

【第38話】CAST&STAFF

●CAST 相田マナ／生天目仁美 菱川六花／寿美菜子 四葉ありす／渕上舞 剣崎真琴／宮本佳那子 円亜久里／釘宮理恵 シャルル／西原久美子 ラケル／寺崎裕香 ランス／大橋彩香 ダビィ／内山夕実 アイちゃん／今井由香 イーラ／田中真弓 マーモ／田中敦子 ベール／山路和弘 レジーナ／渡辺久美子 協力／東映東京撮影所 ●STAFF 脚本：米村正二 原画：高橋任治 田中伸昭 荻野美希 摺木沙織 丸山匡彦 志田直俊 河野宏之 飯島秀一 清水隆正 兼高里圭 古俣拓磨 古矢好二 平田賢一 デジタル彩色：Toei Phils. かぐら 武遊 色指定：板坂泰江 背景レイアウト：下川忠海 背景：山下千歌 牟田いずみ 増田竜太郎 Toei Phils. グレース・トーラー デジタル撮影：三晃プロダクション 白鳥友和 緒方美佐子 福井道子 則友邦仁 清水正道 佐伯英範 吉野和宏 金子直広 石川晴彦 山口博睦 花見早苗 寺崎光喜 夏原弘成 ＣＧデザイナー：日向学 峯沢琢也 宮本浩史 中谷純也 笹岡晃子 宮原洋平 岩本千尋 森山美里 編集：麻生芳弘 録音：林奈緒美 音響効果：石野貴久 選曲：水野さやか 記録：沢井尚子 録音スタジオ：タバック オンライン編集：東映デジタルラボ 音楽協力：東映アニメーション音楽出版 演出助手：鈴木裕介 製作進行：山口暁生 美術進行：西牧正人 仕上進行：村上昌裕 ＣＧ進行：高橋裕哉 演技事務：小浜匠 宣伝：岸本拓磨（ＡＢＣ） 多田香奈子（ＡＢＣ） 美術：飯野敏典 作画監督：山岡直子 演出：小川孝治

【第37話】CAST&STAFF

●CAST 相田マナ／生天目仁美 菱川六花／寿美菜子 四葉ありす／渕上舞 剣崎真琴／宮本佳那子 円亜久里／釘宮理恵 シャルル／西原久美子 ラケル／寺崎裕香 ランス／大橋彩香 ダビィ／内山夕実 アイちゃん／今井由香 坂東宗吉／石住昭彦 円茉莉／唐沢潤 角野秋／菊本平 イーラ／田中真弓 マーモ／田中敦子 ベール／山路和弘 ジコチュー／岩崎征実 協力／東映東京撮影所 ●STAFF 脚本：田中仁 原画：原田節子 芹田明雄 永島英樹 藤井孝博 福島史士 永澤謙一 大内智美 河村信道 谷口健太 鈴木勇 森島浩一 野澤隆 野津美智子 高木さくら 安田陽子 古俣拓磨 工藤雅人 渡辺優哉 杉浦涼子 上田由希子 島崎望 阿藤久美子 生水勇気 完甘美也子 松田千織 デジタル彩色：Toei Phils. かぐら 色指定：板坂泰江 背景：渡部葉 佐藤千恵 皆川真紀 山下千歌 Toei Phils. エルウィン・サデーア デジタル撮影：三晃プロダクション 白鳥友和 緒方美佐子 福井道子 則友邦仁 清水正道 佐伯英範 吉野和宏 金子直広 石川晴彦 山口博睦 花見早苗 寺崎光喜 夏原弘成 ＣＧデザイナー：日向学 峯沢琢也 米澤真一 小林真理 藤澤菜月 宮澤孝介 小泉正行 梶玲子 編集：麻生芳弘 録音：川崎公敬 音響効果：石野貴久 選曲：水野さやか 記録：沢井尚子 録音スタジオ：タバック オンライン編集：東映デジタルラボ 音楽協力：東映アニメーション音楽出版 演出助手：中村明博 製作進行：澤守洸 美術進行：西牧正人 仕上進行：村上昌裕 ＣＧ進行：高橋裕哉 演技事務：小浜匠 宣伝：岸本拓磨（ＡＢＣ） 多田香奈子（ＡＢＣ） 美術：田中里緑 作画監督：美馬健二 演出：門由利子 岩井隆央

▲マナたちに槍の回収を勧めたジョー岡田は、ベールの変装だった

会いに来たよ！レジーナふたたび！

光の槍を求めて王国へ！だが槍はレジーナの手に！

レジーナの復活で自分の立場が危うくなったベールは、トランプ王国の王宮に眠る光の槍を手に入れようと考える。一方、パワーアップしたマナたちは、トランプ王国に乗り込もうとしていた。そこにジョーが現れ、みんなを空間移動でトランプ王国まで連れて行くと言う。提案に乗って王国に来たマナたちは、地下迷宮を抜けて光の前へ。そこでマナは突然ジョーを「ベールさん」と呼ぶ。ジョーをニセモノだと見破っていたのだ。作戦が失敗し、ベールが悔しがっていると、なんとレジーナが現れる。レジーナは抱きつくキュアハートを迷惑そうに振り払い、プリキュアも抜けなかった光の槍を引き抜いて、強力な一撃を放つ！

◀片隅でキュアエースに倒されていたタコジコチュー

愛をなくした悲しいタコさん、
このキュアハートがあなたのドキドキ取り戻してみせる♥

▲ようやく再会できたレジーナにキュアハートが抱きつくが、レジーナは攻撃をしかけてくる

プリキュアは私の敵！
パパを苦しめる敵なのよ

▲プリキュアでも抜けなかった光の槍・ミラクルドラゴングレイブを抜くレジーナ。強大な力が奪われた

▲プリキュアが三種の神器を手に入れてパワーアップしたなら、こちらもそうしようと提案するレジーナ

▼王宮の奥深くに眠る三種の神器のひとつ、光の槍にはジコチューが触ると感電する魔法が

第40話 とどけたい思い！まこぴー新曲発表！

みんなで作った歌はレジーナの心に届くか!?

レジーナを倒して光の槍を取り戻そうと主張する亜久里に対し、マナはあくまでレジーナを信じると宣言。真琴も自分にできることとして、歌でレジーナに思いを伝えようと考え、新曲作りに取りかかる。だが作詞がうまくいかず、徹夜続きで授業中に居眠りも。そこでマナたちも加わり、レジーナに贈る歌をみんなで作り上げる。その新曲発表会会場をレジーナに襲撃されたため、真琴はその場でレジーナに歌いかける。歌はレジーナの心に響いた。だが、わけがわからないレジーナは光の槍で強烈な一撃を放つ。だがプリキュアはそれを正面から受け止め、レジーナを信じ抜く心がラブリーパッドの真の力を解放させる！

▲レジーナの槍は歌いながら変身するキュアソードに止められる

▲真琴に直接歌いかけられたレジーナの心が、自分でも理解できないほど震え上がる。真琴の歌の力はジコチューを打ち破る！

▼レジーナを信じる証として、彼女の攻撃から逃げずに受け止めるプリキュア

▼攻撃されてもレジーナを信じ抜いた結果、ラブリーパッドの真の力が解放！

これがラブリーパッドの真の力……？

▲マジカルラブリーハープによって、プリキュアがエンジェルモードに進化！

◀真琴の歌でレジーナの心が震えるのを見た亜久里は、彼女の心にも愛があると認める

このキュアソードが、
愛の剣であなたの野望を断ち切ってみせる！

▲みんなで作った新曲「こころをこめて」がついに完成！　社長も一発で気に入り、CD発売も決定する

【第40話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　円亜久里／釘宮理恵　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ダビィ／内山夕実　アイちゃん／今井由香　城戸先生／前田一世　社長／菊本平　イーラ／田中真弓　マーモ／田中敦子　ベール／山路和弘　レジーナ／渡辺久美子　ジコチュー／岩崎征実　キングジコチュー／大塚芳忠　協力／東映東京撮影所　●STAFF　脚本：山口亮太　原画：板岡錦　北野幸広　稲葉仁　東海林真一　福本泰子　野津美智子　冨木由美子　原田節子　古矢好二　平田賢一　山岡直子　大田謙治　赤田信人　阿藤久美子　生水勇気　工藤雅人　渡辺優哉　島崎望　小山直子　杉浦涼子　上田由希子　安田陽子　高木さくら　大田和寛　松田千織　大内智美　北田美弥子　デジタル彩色：Toei Phils.　かぐら　武遊　デジタル特殊効果：牛山裕美　色指定：板坂泰江　背景：デザインオフィス・メカマン　高橋英次　上原里香　石原信明　鈴木祥太　邱文美　ミキミチヨ　デジタル撮影：三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　ＣＧデザイナー：日向学　峯沢琢也　宮本浩史　中谷純也　笹岡晃子　宮原洋平　岩本千尋　森山美里　編集：麻生芳弘　録音：林奈緒美　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：鈴木裕介　製作進行：澤守洸　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　ＣＧ進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：岸本拓磨（ＡＢＣ）　多田香奈子（ＡＢＣ）　美術：田中美紀　作画監督：赤田信人　演出：田中裕太

【第39話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　円亜久里／釘宮理恵　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　アイちゃん／今井由香　ジョー岡田／櫻井孝宏　イーラ／田中真弓　マーモ／田中敦子　ベール／山路和弘　レジーナ／渡辺久美子　ジコチュー／岩崎征実　協力／東映東京撮影所　●STAFF　脚本：高橋ナツコ　原画：星川信芳　松田千織　東海林真一　完甘美也子　西村元秀　大内智美　山口光紀　渡邉元子　藤原舞　古矢好二　平田賢一　阿藤久美子　渡辺優哉　高木さくら　稲上晃　木曽勇太　デジタル彩色：Toei Phils.　かぐら　デジタル特殊効果：牛山裕美　色指定：板坂泰江　背景レイアウト：本間薫　鷲崎博　背景：斉藤優　宮本里香　板井理英子　Toei Phils.　ネリット・アクーニャ　デジタル撮影：三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　ＣＧデザイナー：日向学　峯沢琢也　米澤真一　小林真理　藤澤菜月　宮澤孝介　小泉正行　梶玲子　編集：麻生芳弘　録音：川崎公敬　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：中村明博　製作進行：太田有紀　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　ＣＧ進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：岸本拓磨（ＡＢＣ）　多田香奈子（ＡＢＣ）　美術：猿谷勝己　作画監督：稲上晃　演出：三塚雅人

ありすの夢! 花がつないだともだち

世界中の花を守るためプリキュア宇宙へ行く!

幼い頃の夢であるお花屋さんになることを、四葉財閥を継ぐためにあきらめていたありす。それを知ったマナのアイデアで、ありすはフリーマーケットに花屋を出店する。そこにありすをライバル視している五星麗奈が現れ、隣に豪華な花屋を構える。お客さんも麗奈のお店に行ってしまうが、ありすは花屋ができてうれしそう。だが突然花が枯れ始め、その原因が成層圏にいるジコチューと判明したため、ありすは宇宙へ。レジーナの激しい攻撃のなか、遅れてきたキュアハートたちとともに、仲間の大切さを語るキュアロゼッタ。レジーナの心が揺れ動く隙に、ジコチューを浄化。地球に戻ったありすは、麗奈とも仲よくなった。

▲なんと飛行機の操縦までできるありすが単身ジコチューのもとへ

▲さすがのプリキュアも、成層圏にいるジコチューには攻撃できない

▲高価な花を激安で売る麗奈の店にお客さんが集まり、ありすの店に人がいなくなる

▲そこにあるだけで人々を笑顔にする花を、全力で守り抜く。それがキュアロゼッタの意地!

▶キュアロゼッタの説得にアカンベーで応えるレジーナ

▶キュアロゼッタの言葉が胸の奥に突き刺さり、闇に染まったハートに輝きが現れ始める

▲麗奈の飛行機で宇宙に運んでもらったあと、エンジェルモードで飛ぶプリキュア

みんなで祝おう! はじめての誕生日!

サプライズのお誕生会に亜久里も大感激!

みんなで星占いを楽しんでいたところ、マナたちは亜久里が自分の誕生日を知らず、バースデーケーキにあこがれていることを知る。そこでマナは明日、亜久里の誕生パーティーを開こうと決め、亜久里に内緒で準備を進めるようみんなに釘を刺す。亜久里はみんなが急にコソコソし始めたことを不審に思い、調べてみたところ、みんなが自分のためにパーティーを企画していたとわかる。おいしいバースデーケーキとともに、最高の誕生日を過ごす亜久里。だがそこにレジーナが現れ、誕生日なんかくだらないと切り捨てる。しかしキュアハートは、命の誕生は奇跡だと主張。レジーナの心は揺れる。

▼いつか誰かのお誕生会で、バースデーケーキを食べてみたい。亜久里の夢はささやかなもの

▲サプライズの誕生パーティーに亜久里は感激。真琴の手作りのバースデーケーキも最高!

▶ケーキに群がるアリジコチュー。さくっと退治

愛をなくした悲しいアリさん、
このキュアハートがあなたのドキドキ取り戻してみせる♥

▶キュアハートの言葉が、レジーナの闇の心に突き刺さる。純粋な思いにレジーナは対抗できない

▲バースデーケーキをやっかみ、誕生日をバカにするレジーナを、キュアハートが諭す

たいせつな人へ! 亜久里の授業参観! 第43話

亜久里出生の秘密 おばあ様との絆はより強く!

ジコチューとの戦闘のあと、変身を解いたところをおばあ様に見られた亜久里。秘密を知られた亜久里はおばあ様を避けるが、おばあ様は話すべきときが来たと、亜久里に出生の様子を伝える。1年前、亜久里は赤ん坊の姿で竹やぶから発見され、みるみる10歳の少女に成長したという。その事実にショックを受けた亜久里は家を飛び出すが、マナたちに励まされたことで立ち直り、翌日の授業参観でおばあ様の絵を描く。そこにジコチューが出現し、亜久里が描いた大切な絵を消してしまうが、「込められた愛が色あせたりはしません」とのおばあ様の言葉で力づけられたキュアエースがジコチューを浄化する。

◀◀不思議な赤ん坊を保護し、育ててきたおばあ様は、亜久里がキュアエースであることに気づいていた

↘伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　**CGデザイナー：**日向学　峯沢琢也　米澤真一　小林真理　藤澤菜月　宮澤孝介　小泉正行　梶玲子　**編集：**麻生芳弘　**録音：**川崎公敬　**音響効果：**石野貴久　**選曲：**水野さやか　**記録：**沢井尚子　**録音スタジオ：**タバック　**オンライン編集：**東映デジタルラボ　**音楽協力：**東映アニメーション音楽出版　**演出助手：**中村明博　鎌谷悠　**製作進行：**澤守洸　**美術進行：**西牧正人　**仕上進行：**村上昌裕　**CG進行：**高橋裕哉　**演技事務：**小浜匠　**宣伝：**多田香奈子（ＡＢＣ）　遠山雄大（ＡＢＣ）　**美術：**篝ミキ　**作画監督：**小松こずえ　**演出：**芝田浩樹

【第42話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　円亜久里／釘宮理恵　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　アイちゃん／今井由香　坂東宗吉／石住昭彦　相田健太郎／金光宣明　相田あゆみ／上田晴美　円茉莉／唐沢潤　セバスチャン／及川いぞう　イーラ／田中真弓　マーモ／田中敦子　レジーナ／渡辺久美子　ジコチュー／岩崎征実　キングジコチュー／大塚芳忠　協力／東映東京撮影所　**●STAFF**　**脚本：**山口亮太　**原画：**河野宏之　永島英樹　藤井孝博　**デジタル彩色：**Toei Phils.　かぐら　**色指定：**板坂泰江　**背景レイアウト：**鷲崎博　本間薫　**背景：**猿谷勝己　板井理英子　王明月　チェン・ヤンフェイ　Toei Phils.　グレース・トーラー　**デジタル撮影：**三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　**CGデザイナー：**日向学　峯沢琢也　宮本浩史　中谷純也　笹岡晃子　宮原洋平　岩本千尋　森山美里　**編集：**麻生芳弘　**録音：**林奈緒美　**音響効果：**石野貴久　**選曲：**水野さやか　**記録：**沢井尚子　**録音スタジオ：**タバック　**オンライン編集：**東映デジタルラボ　**音楽協力：**東映アニメーション音楽出版　**演出助手：**鈴木裕介　**製作進行：**太田有紀　**美術進行：**西牧正人　**仕上進行：**村上昌裕　**CG進行：**高橋裕哉　**演技事務：**小浜匠　**宣伝：**多田香奈子（ＡＢＣ）　遠山雄大（ＡＢＣ）　**美術：**斉藤優　**作画監督：**河野宏之　**演出：**入好さとる　岩井隆央

【第41話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　円亜久里／釘宮理恵　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　アイちゃん／今井由香　セバスチャン／及川いぞう　レジーナ／渡辺久美子　ジコチュー／岩崎征実　五星麗奈／氷青　中学生男子／白川周作　中年男性／大林洋平　協力／東映東京撮影所　**●STAFF**　**脚本：**米村正二　**原画：**杉本幸子　高木恵湖　小松英司　土岐由紀　平野絵美　山本祐子　鵜池一馬　中尾香奈美　荒川絵里花　伊藤真奈美　岩崎亮　武田駿　小原広志　橋本宣夫　杉田葉子　宇津野奈緒美　鈴鹿陽子　山川拓巳　小川未帆　佐々木まり子　仁井学　**デジタル彩色：**Toei Phils.　かぐら　武遊　**色指定：**板坂泰江　**背景：**篝ミキ　田中里緑　飯野敏典　増田竜太郎　Toei Phils.　ルーベン・オレンセ　**デジタル撮影：**三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　**CGデザイナー：**日向学　峯沢琢也　米澤真一　小林真理　藤澤菜月　宮澤孝介　小泉正行　梶玲子　**編集：**麻生芳弘　**録音：**川崎公敬　**音響効果：**石野貴久　**選曲：**水野さやか　**記録：**沢井尚子　**録音スタジオ：**タバック　**オンライン編集：**東映デジタルラボ　**音楽協力：**東映アニメーション音楽出版　**演出助手：**中村明博　**製作進行：**山口暁生　**美術進行：**西牧正人　**仕上進行：**村上昌裕　**CG進行：**高橋裕哉　**演技事務：**小浜匠　**宣伝：**岸本拓磨（ＡＢＣ）　多田香奈子（ＡＢＣ）　**美術：**佐藤千恵　**作画監督：**仁井学　北條直明　杉本幸子　**演出：**越智一裕　上田芳裕

▲マナを誘いに来た学生の正体は、イーラとマーモだった！ ワナにかかるマナ

ジコチューの罠！マナのいないクリスマス！

心はいつも全員一緒！信頼で敵のワナを打ち破れ!!

チームの要であるマナを取り除けば、プリキュアも崩壊すると考えたレジーナは、マナにワナを仕掛け、生徒会長スピーチコンテストに誘う。コンテストに行くマナに代わり、生徒会の仕事を切り盛りする六花は大忙し。一方、まんまとマナをワナにかけたレジーナは、マナがいない隙にプリキュアを倒そうとする。しかし、マナがいなくても心はつながっているプリキュアの結束は強く、逆にレジーナを追い詰める。ついにレジーナは、本当はマナが好きだと告白。それだけに、父・キングジコチューとの間で苦しいのだと胸の内を明かして去って行く。落ち込むマナの前に、ジョーが現れて……。

▲マナとキングジコチューのどちらも好きなレジーナは、板挟みで心が苦しい。心の闇も浄化しかけている

◀マナをレジーナのワナから助け出してくれたジョー。久々に現れた理由とは？

▲作戦通りにマナを閉じ込めたレジーナは、プリキュアを前に自信満々

▲好きと言ったことをキュアハートに再確認され、レジーナは真っ赤になって否定

宿命の対決！エースVSレジーナ！

第45話

亜久里とレジーナは王女の心の光と影だった!?

ジョーはマナたちと別れたあと、独自に三種の神器のひとつ・エターナルゴールデンクラウンを手に入れていた。それに触った亜久里は、自分の運命を理解する。亜久里は真琴とジョーだけに秘密を打ち明け、レジーナと決着をつけるためトランプ王国に向かう。クラウンと光の槍を賭けての一騎討ちを申し込まれたレジーナはこれを受け、戦いは熾烈を極める。両者譲らず、双方倒れたところを、神器を手に入れようとしたベールが襲う！

そこにキュアハートたちが現れ、ピンチを脱出。そしてキュアエースはレジーナとキュアハートたちに向かって、自分とレジーナが王女様から生まれた光と影だと告げる。

▼亜久里が触ったとたん、激しく輝いたクラウンが亜久里に過去の記憶を伝える

◀亜久里に呼び出され、秘密を告げられる真琴とジョー

◀クラウンによって、5分という変身時間の制約が外れたキュアエース

元はひとつの命、アン王女から生まれた光と影なのです！

▲ついに明かされたキュアエースとレジーナの関係は衝撃的

▲窮地に追い込まれたキュアソードの「助けて」の声が、キュアハートたちを召喚する

▲キュアエースとレジーナの間に立ち、戦いをやめさせようとするキュアハート

▲愛情が込められた絵を不快に感じるレジーナは、ジコチューを使って学校中の絵を消しまくる

▶大切なおばあ様の似顔絵がジコチューに消されてしまい、キュアエースはショックを受ける

▲血は繋がっていなくとも、祖母と孫の絆は強い！ おばあ様の愛でキュアエース復活！

◀愛の力に心を打たれたレジーナ。心の闇が浄化されつつあるためとても苦しい様子

【第45話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　円亜久里／釘宮理恵　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　アイちゃん／今井由香　ジョー岡田／櫻井孝宏　円茉莉／唐沢潤　森本エル／森谷里美　イーラ／田中真弓　マーモ／田中敦子　ベール／山路和弘　レジーナ／渡辺久美子　ジコチュー／岩崎征実　協力／東映東京撮影所
●STAFF　脚本：田中仁　原画：稲葉仁　松田千織　高橋任治　藤原舞　板岡錦　野澤隆　西村元秀　増田誠治　山口光紀　山岡直子　河野宏之　永島英樹　斉藤拓也　森田岳士　兼高里圭　生水勇気　冨士池圭恵　永澤謙一　並木祐一　安田陽子　デジタル彩色：Toei Phils.　かぐら　色指定：板坂泰江　背景レイアウト：本間薫　鷲崎博　背景：斉藤優　Toei Phils.　ルーベン・オレンセ　デジタル撮影：三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　ＣＧデザイナー：日向学　峯沢琢也　米澤真一　小林真理　藤澤菜月　宮澤孝介　小泉正行　梶玲子　編集：麻生芳弘　録音：川崎公敬　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：中村明博　鎌谷悠　製作進行：太田有紀　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　ＣＧ進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：多田香奈子（ＡＢＣ）　遠山雄大（ＡＢＣ）　美術：猿谷勝己　作画監督：山岡直子　演出：池田洋子

【第44話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　円亜久里／釘宮理恵　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　アイちゃん／今井由香　ジョー岡田／櫻井孝宏　十条／白川周作　イーラ／田中真弓　マーモ／田中敦子　ベール／山路和弘　レジーナ／渡辺久美子　ジコチュー／岩崎征実　キングジコチュー／大塚芳忠　協力／東映東京撮影所　●STAFF　脚本：高橋ナツコ　原画：和田喜彰　藤井芳德　田中希果　榎本勝紀　デジタル彩色：阿部千春　伊藤元子　山田喜子　柴崎佳子　高橋千鶴　柳谷有紀　アーク・クリエイション サイゴン　色指定：穂積恵梨香　背景レイアウト：下川忠海　背景：飯野敏典　山下千歌　皆川真紀　佐藤千恵　篝ミキ　Toei Phils.　ネリット・アクーニャ　デジタル撮影：三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　ＣＧデザイナー：日向学　峯沢琢也　宮本浩史　中谷純也　笹岡晃子　宮原洋平　岩本千尋　森山美里　編集：麻生芳弘　録音：林奈緒美　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　製作進行：山口暁生　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　ＣＧ進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：多田香奈子（ＡＢＣ）　遠山雄大（ＡＢＣ）　美術：田中里緑　作画監督：高橋晃　演出：薮木凛　鈴木裕介

【第43話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　円亜久里／釘宮理恵　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　アイちゃん／今井由香　坂東宗吉／石住昭彦　相田あゆみ／上田晴美　円茉莉／唐沢潤　マーモ／田中敦子　レジーナ／渡辺久美子　ジコチュー／岩崎征実　協力／東映東京撮影所
●STAFF　脚本：田中仁　原画：完甘美也子　星川信芳　清水隆正　飯島秀一　田中伸昭　ひのたかふみ　高橋任治　稲葉仁　小松こずえ　芹田明雄　河村信道　松田千織　安田陽子　北田美弥子　大内智美　阿藤久美子　生水勇気　島崎望　神田岳　デジタル彩色：Toei Phils.　かぐら　色指定：板坂泰江　背景：飯野敏典　皆川真紀　増田竜太郎　Toei Phils.　エルウィン・サデーア　デジタル撮影：三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐↗

エースとレジーナ！誕生の真実！ 第46話

父娘の愛の深さが王国を滅亡へと導いていった……

真実を知りたいと望むマナたちは、エターナルゴールデンクラウンに刻まれたトランプ王国の記憶を辿る。ある日、アン王女は闇に取り憑かれて眠りについてしまう。かつてプリキュアが倒した闇をクラウンが封印していると知りながら、娘を助けたい王様は封印を破壊。その結果、王様はキングジコチューに変えられ、トランプ王国は滅びてしまった。王女様はキングジコチューを石化させたがとどめを刺せず、心が半分闇に染まる。そこで自らプシュケーを割り、心は亜久里とレジーナに、身体はアイちゃんに生まれ変わったのだった。その事実をみんなが知ったとき、キングジコチューが完全復活し、人間界へと進撃を始めた！

▲正しい答えなんてわからない。ならば突き進んでみるのみ！

レジーナ、キングジコチュー、
このキュアハートがあなたの
ドキドキ取り戻してみせる♥

▲復活したキングジコチューが人間界へ！ 世界が破滅してしまう!?

▼半分闇に染まった心を自らふたつに割る王女様。やがて光は亜久里に、闇はレジーナになる

▲娘の命と世界の平和。悩み抜いた王様は、世界よりも娘を救うことを選び、闇を解き放つ

キュアハートの決意！まもりたい約束！ 第47話

キングジコチューの攻撃を愛の力で跳ね返せ！

人間界に現れたキングジコチューが、ジコチュー軍団を使って侵攻を開始する。「頑張ればきっと道が開ける気がする」という理由でジコチュー軍団と戦うプリキュアたちに、ベールはトランプ王国が国民のジコチューなふるまいによって自滅したことを告げる。しかし人間界では助け合う心がジコチューに勝り、プリキュアに力を与える。キングジコチューの攻撃をしのぎ続けるプリキュアたちにレジーナも襲いかかるが、キュアハートの説得でついにレジーナの心から闇が消える。キュアエースもキングジコチューが敵ではなく、愛する父であることに気づき、レジーナとともに愛情を向けるが、キングジコチューはそれを拒む。

◀自分にできることを頑張り、助け合う人々の愛の鼓動がプリキュアの背中を押す

▲プリキュアたちが伝える愛が、キングジコチューの胸に刺さる

▲キングジコチューに本当の気持ちを打ち明けるレジーナの心は、いまや澄みきっていた

▼キングジコチューの踏みつけ攻撃を受け止め、跳ね返すキュアハート＆エースは力持ち!?

▲キングジコチューに大声で話しかけるキュアハート。返答は「やかましいわ！」

【第47話】CAST&STAFF

●CAST 相田マナ／生天目仁美 菱川六花／寿美菜子 四葉ありす／渕上舞 剣崎真琴／宮本佳那子 円亜久里／釘宮理恵 相田健太郎／金光宣明 相田あゆみ／上田晴美 菱川亮子／湯屋敦子 セバスチャン／及川いぞう 城戸先生／前田一世 二階堂／佐藤拓也 百田／桜井翼 十条／白川周作 八嶋／一木千洋 五星麗奈／氷青 早乙女純／鈴木千尋 イーラ／田中真弓 マーモ／田中敦子 ベール／山路和弘 レジーナ／渡辺久美子 ジコチュー／岩崎征実 キングジコチュー／大塚芳忠 協力／東映東京撮影所 ●STAFF 脚本：高橋ナツコ 原画：杉本幸子 岩崎亮 小松英司 武田駿 平野絵美 佐々木まり子 荒川絵里花 中尾香奈美 小原広志 伊藤真奈美 土岐由紀 宇津野奈緒美 高木恵湖 鈴鹿陽子 橋本宣夫 小野木三斉 小川未帆 仁井学 河野宏之 永島英樹 藤井孝博 デジタル彩色：Toei Phils. かぐら 武遊 色指定：板坂泰江 背景：篝ミキ 田中里緑 猿谷勝己 斎藤優 Toei Phils. グレース・トーラー デジタル撮影：三晃プロダクション 白鳥友和 緒方美佐子 福井道子 則友邦仁 清水正道 佐伯英範 吉野和宏 金子直広 石川晴彦 山口博睦 花見早苗 寺崎光喜 夏原弘成 ＣＧデザイナー：日向学 峯沢琢也 米澤真一 小林真理 藤澤菜月 宮澤孝介 小泉正行 梶玲子 編集：麻生芳弘 録音：川崎公敬 音響効果：石野貴久 選曲：水野さやか 記録：沢井尚子 録音スタジオ：タバック オンライン編集：東映デジタルラボ 音楽協力：東映アニメーション音楽出版 製作進行：山口暁生 美術進行：西牧正人 仕上進行：村上昌裕 ＣＧ進行：高橋裕哉 演技事務：小浜匠 宣伝：多田香奈子（ＡＢＣ） 遠山雄大（ＡＢＣ） 美術：佐藤千恵 作画監督：仁井学 北條直明 杉本幸子 河野宏之 演出：田中裕太

【第46話】CAST&STAFF

●CAST 相田マナ／生天目仁美 菱川六花／寿美菜子 四葉ありす／渕上舞 剣崎真琴／宮本佳那子 円亜久里／釘宮理恵 シャルル／西原久美子 ラケル／寺崎裕香 ランス／大橋彩香 ダビィ／内山夕実 アイちゃん／今井由香 ジョー岡田／櫻井孝宏 医者／大林洋平 イーラ／田中真弓 マーモ／田中敦子 ベール／山路和弘 レジーナ／渡辺久美子 ジコチュー／岩崎征実 キングジコチュー／大塚芳忠 協力／東映東京撮影所 ●STAFF 脚本：米村正二 原画：原田節子 北野幸広 星川信芳 野津美智子 福本泰子 美馬健二 大内智美 清水隆正 北田美弥子 冨木由美子 河村信道 谷口健太 渡辺優哉 完甘美也子 永澤謙一 生水勇気 島崎望 安田陽子 デジタル彩色：Toei Phils. かぐら 武遊 色指定：板坂泰江 背景：デザインオフィス・メカマン 高橋英次 石原信明 鈴木祥太 邱文美 デジタル撮影：三晃プロダクション 白鳥友和 緒方美佐子 福井道子 則友邦仁 清水正道 佐伯英範 吉野和宏 金子直広 石川晴彦 山口博睦 花見早苗 寺崎光喜 夏原弘成 ＣＧデザイナー：日向学 峯沢琢也 宮本浩史 中谷純也 笹岡晃子 宮原洋平 岩本千尋 森山美里 編集：麻生芳弘 録音：林奈緒美 音響効果：石野貴久 選曲：水野さやか 記録：沢井尚子 録音スタジオ：タバック オンライン編集：東映デジタルラボ 音楽協力：東映アニメーション音楽出版 演出助手：鈴木裕介 製作進行：澤守洸 美術進行：西牧正人 仕上進行：村上昌裕 ＣＧ進行：高橋裕哉 演技事務：小浜匠 宣伝：多田香奈子（ＡＢＣ） 遠山雄大（ＡＢＣ） 美術：田中美紀 作画監督：上野ケン 演出：門由利子 岩井隆央

第48話 ドキドキ全開！プリキュアVSキングジコチュー！

キングジコチューとの決戦 家族の愛が王様を救う！

キングジコチューが攻撃をためらったことから、その心に良心が残っていると確信したキュアエースは、キングジコチューの心臓に捕らわれている王様を助けに行くという。しかしジャネジーの塊であるキングジコチューの体内では、ジコチューの強さも数も増大し、プリキュアはひとり、またひとりと倒れていく。心臓に到達したキュアハートたちもジコチュー細胞の総攻撃を受けるが、撃破することに成功。アン王女の生まれ変わりであるキュアエース、レジーナ、アイちゃんが王様を救いだし、キングジコチューを消滅させる。ところが、キングジコチューのかけらを手にしたベールが、それをのみ込み……。

▲キングジコチュー対巨大ランスの怪獣決戦!?

▲仲間を先に行かせるため、敵の食い止め役を担うキュアダイヤモンドたち。しかし敵はきりがなく……

▲3人にわかれたアン王女が心を合わせて王様を助ける

▲キュアハートの愛が、キングジコチューの中に満ちあふれる

▲キュアハートがマナであるとわかり、応援する仲間たち

▶キングジコチューの心臓に取り込まれている王様の良心

愛を見失った
悲しい王様、
このキュアハートがあなたのドキドキ取り戻してみせる♥

第49話 あなたに届け！マイスイートハート！

愛は不滅！ 闇を打ち破り新たな世界の扉が開かれる

キングジコチューのかけらをのみ込んだベールは、逆に取り込まれ、プロトジコチューに変貌する。プリキュアの決め技も効果がなく、キュアハートはプロトジコチューの最強のジャネジーを浴びて、プシュケーが闇に染まってしまう。しかしキュアハートの愛の強さが闇を跳ね返し、仲間のプリキュアたちと三種の神器の力を集めたキュアハートは、パルテノンモードに進化。プロトジコチューを圧倒し、1万年前のプリキュアでも倒しきれなかった闇を、愛で包んで完全消滅させる。王女様は亜久里とレジーナの成長により、元に戻ることができず消滅することになった。だが、マナたちは歩み続け、キュアハートたちの活躍も続く。

▲全プリキュアと三種の神器の力を合わせた最強モード誕生！

▲かつてのプリキュアたちでも倒せなかったプロトジコチューが、1万年ぶりに復活！

▲最強のジャネジーを受けたキュアハートのプシュケーが闇に染まり、地に堕ちる

◀ベールはネズミに転生。王様は引退し、人間界とつながったトランプ共和国は、本格的に交流を開始。それぞれが新たな一歩を踏み出し、未来に向かう

▼自分の命の絆はアイちゃんに引き継がれていると語り、真琴に見送られて消えていく王女様

▲トランプ王国に平和が戻ったものの、王女様がもう復活できないと知って真琴は深く悲しむ

【第49話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　円亜久里／釘宮理恵　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　アイちゃん／今井由香　坂東宗吉／石住昭彦　相田健太郎／金光宣明　相田あゆみ／上田晴美　セバスチャン／及川いぞう　二階堂／佐藤拓也　百田／桜井翼　十条／白川周作　八嶋／一木千洋　早乙女純／鈴木千尋　国王／大塚芳忠　ジョー岡田／櫻井孝宏　レジーナ／渡辺久美子　イーラ／田中真弓　マーモ／田中敦子　ベール／山路和弘　ジコチュー／岩崎征実　協力／東映東京撮影所　●STAFF　脚本：山口亮太　原画：和田喜彰　藤井芳徳　田中希果　榎本勝紀　デジタル彩色：阿部千春　伊藤元子　山田喜子　柴崎佳子　高橋千鶴　柳谷有紀　アーク・クリエイション サイゴン　Toei Phils.　色指定：穂積恵梨香　背景レイアウト：鷲崎博　本間薫　背景：猿谷勝己　宮本里香　王明月　Toei Phils.　ネリット・アクーニャ　デジタル撮影：三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　ＣＧデザイナー：日向学　峯沢琢也　米澤真一　小林真理　藤澤菜月　宮澤孝介　小泉正行　梶玲子　編集：麻生芳弘　録音：川崎公敬　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：鎌谷悠　製作進行：山口暁生　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　ＣＧ進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：多田香奈子（ＡＢＣ）　遠山雄大（ＡＢＣ）　美術：斉藤優　作画監督：高橋晃　演出：古賀豪

【第48話】CAST&STAFF

●CAST　相田マナ／生天目仁美　菱川六花／寿美菜子　四葉ありす／渕上舞　剣崎真琴／宮本佳那子　円亜久里／釘宮理恵　シャルル／西原久美子　ラケル／寺崎裕香　ランス／大橋彩香　ダビィ／内山夕実　アイちゃん／今井由香　坂東宗吉／石住昭彦　相田健太郎／金光宣明　相田あゆみ／上田晴美　四葉星児／中村秀利　セバスチャン／及川いぞう　円茉莉／唐沢潤　二階堂／佐藤拓也　百田／桜井翼　十条／白川周作　八嶋／一木千洋　レジーナ／渡辺久美子　ジョー岡田／櫻井孝宏　イーラ／田中真弓　マーモ／田中敦子　ベール／山路和弘　ジコチュー／岩崎征実　キングジコチュー／大塚芳忠　協力／東映東京撮影所　●STAFF　脚本：山口亮太　原画：完甘美也子　星川信芳　丸山匡彦　飯島秀一　田中伸昭　原田節子　荻野美希　摺木沙織　芹田明雄　小松こずえ　美馬健二　板岡錦　福島史士　安田陽子　ひのたかふみ　赤田信人　志田直俊　デジタル彩色：Toei Phils.　かぐら　色指定：板坂泰江　背景：山下千歌　皆川真紀　デザインオフィス・メカマン　鈴木祥太　Toei Phils.　エルウィン・サデーア　デジタル撮影：三晃プロダクション　白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　則友邦仁　清水正道　佐伯英範　吉野和宏　金子直広　石川晴彦　山口博睦　花見早苗　寺崎光喜　夏原弘成　ＣＧデザイナー：日向学　峯沢琢也　宮本浩史　中谷純也　笹岡晃子　宮原洋平　岩本千尋　森山美里　編集：麻生芳弘　録音：林奈緒美　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　製作進行：澤守洸　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　ＣＧ進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：多田香奈子（ＡＢＣ）　遠山雄大（ＡＢＣ）　美術：飯野敏典　作画監督：稲上晃　演出：三塚雅人

Cast Interview 1

マナがまいた愛の種をこれからも育てていってほしい

生天目仁美

キュアハート 相田マナ

強い決意で臨んだオーディション

──生天目さんは、『ふたりはプリキュア』にも中川弓子役で出演していらっしゃいましたね。

『プリキュア』シリーズは、『ふたりはプリキュア』の頃からスタッフも声優も、「みんなで作っていくぞ！」という気持ちが熱く感じられる現場でした。私自身、その空気を今でも覚えていて、いつかまた作品に関わりたいと思っていたんです。その後、『フレッシュプリキュア！』のオーディションを受けたものの、そのときは落ちてしまって。自分でも「『プリキュア』の世界に携わるのは無理かな」と考え始めていたときに、普段から仲よくさせていただいている小清水亜美ちゃん（『スイートプリキュア♪』北条響／キュアメロディ役）や福圓美里ちゃん（『スマイルプリキュア！』星空みゆき／キュアハッピー役）がプリキュアになったのを見て。私ももう一度挑戦したいなと思いました。マネージャーからは「受かっても悪役だよ」って言われたのですが、ちょうどその頃、お芝居ができなくなるかもしれないくらいに体調を崩してしまったんです。そのときに、挑戦せずに後悔したくないと思い、マネージャーにもう一度直談判をしてオーディションを受けられるようにスケジュールを調整してもらいました。

──それだけ思い入れがあると、合格したときの喜びはすごかったのでは？

合格の連絡をもらったとき、ちょうど外にいたのですが、「ハートで受かったよ」と言われて、大号泣しながら帰ったことを覚えています（笑）。最初は私も事務所もキュアソード役が合っているんじゃないかと思っていたところ、キュアハートで受けてくださいと言われて。私の得意なタイプとは違うんじゃないかな～と思っていたこともあって喜びもひとしおでしたね。

──ご自身とはタイプが違うということですが、そんなハート／マナの印象は？

マナはオーディション用の台本にあった「みなぎる愛」を体現しているような子だなと。ブレのない大きな愛を持っている子だなぁという印象で、それは最終回まで変わりませんでした。また、オーディションでハートのセリフを言っているときには、『ふたりはプリキュア』のスタジオに行ったときに、キュアブラックとキュアホワイトに感じた熱さみたいなものを思い出しました。

──クラスメイトの二階堂くんたちが、47話でケガをした人を助ける姿も、マナから大きな愛を受け取ったからなのかと考えると、素敵ですね。

そう！　マナは生徒会長だから近寄りがたいのかなと最初は思っていたのですが、そんなことはなくて。不器用だし、周りを心配させることもたくさんあるけど、まっすぐな愛だけはみんなに伝わったんじゃないかなと思っています。

──演じるにあたって、何か役作りなどは考えられましたか？

マナに関しては、小細工なしでストレートに演じることが一番いいのかなと感じたので、考えながら演じてはいなかったですね。『ドキドキ！プリキュア』って、感動的な話が「感動的でした！」で終わらない面白さがあるんですよね。例えば21話でマナを助けるためにレジーナが自分だけ犠牲になろうと手を離して火口に落ちていきかけるシーンがあるんですが、普通ならカッコよく助けるじゃないですか。それをマナは蟹挟みで止めるという（笑）。直感で行動しているからこそ、不器用だしカッコ悪くもなるし、端から見ていると笑えるような雰囲気にもなるけど、それがマナらしさなのかなと。そう考えると私が作って演技をする必要もないのかなと思っていました。

周囲の人々に支えられた1年間

──マナは「愛をなくした悲しい○○さん」という決めゼリフがありましたが、毎回「さん」付けなのも印象的でした。

律儀なんですよね（笑）。彼女自身は、ジコチューでも話せばわかりあえると思っているし、退治しようとか滅ぼそうなんて思っていない。人類もジコチューもみんな友達という考えなので、あんな丁寧に話しかけちゃうんでしょうね。

そんな大きな愛を持っているので、「相手を責めるのではなく包んでください」と最初に古賀シリーズディレクターに言われました。「プリキュア！　ラブリンク！」というセリフでも、マナだけは笑顔だし。真剣なときももちろんあるんですが、基本的には相手を愛で包む子なんだという前提があるので、口角を上げて演技をすることを心掛けていました。

──その愛のおかげで、周囲の人たちはかなり振り回されていました（笑）。

特に六花がそうですね（笑）。私自身は、六花がいないとマナの愛は成立しないんじゃないかと考えているんです。六花が止めてくれるし心配してくれるから、マナも安心して突っ走れるのかなと。

──若干、六花のマナへの愛が一方通行に思える気も……。

六花はまこぴーやレジーナが出てきたときのジェラシーが衝撃的でしたね。そこまで思っていてくれるんだと。スタジオでもよくマナの「愛してる」と六花の「愛してる」は重さが違うって話が出ていました。マナのはあいさつに近いんだよねって（笑）。

──生天目さん自身はどう思います？

マナの「愛してる」にもちゃんと愛は

込められていますよ！　マナにとって六花はずっと大事な人です。私自身六花にも六花役の美菜ちゃん（寿美菜子さん）にも何度も助けられました。すごく感謝しています。最終回のアフレコでは、それを強く感じました。

――最終回は、気管支炎で収録できず、別録りになったとうかがいました。

そうなんです。すごく大事な回なのに、自分の不注意で声が出なくなったのが悔しくて。それでも、ほかの人にうつるようなものではなかったので、スタジオには行ったんです。一応最初のテストには参加したんですが、やっぱり声が出ないから見学することになって。私は次の週にひとりで最終回を収録することになったんですが、収録が終わってスタッフの方々とご飯を食べに行ったら、そこにシャルル役の西原久美子さんとアイちゃん役の今井由香さんがいらして。西原さんが「なばちゃんは悔しがって泣いているから、来週打ち上げをやろう」って言ってくださったみたいで、その後続々とみんなが集まってくれて。もうみんなの愛をそんな形でもらえただけでも号泣だったんです。その打ち上げの最中に、美菜ちゃんから「最終回の収録で、なば様（生天目さん）が声が出ない中一生懸命やろうとしているのを見て、マナのために頑張らないとって思ったんです」と言われて、大泣きしました。こうやって周りの人たちに心配かけちゃうところは、マナに近かったのかな。

マナの愛が子どもたちに届いていることがうれしい

――色々な出来事があった1年間だったと思いますが、特に印象に残っているエピソードは？

物語の中では29話のシャルルたち妖精が人間になるエピソードです。その話の中でシャルルがマナだったらこうする、だから私もこうしようって、マナをお手本にしてくれたことが本当に幸せで。マナが普段人にしていることがほかの人からどう見えているのかというのがシャルルを通して見えたし、マナの愛情が伝わっているんだというのがわかった回でもあったので泣きました。

私の友達のお子さんから、「ハートみたいになるんだ」と聞いたり、「生徒会長になりたい」というお手紙をいただいたりすると、作品を通してマナの愛が届いていっているんだなと感じられて、うれしかったですね。

――生徒会長といえば、48話で正体をバラしたときにも大貝第一中学生徒会長と名乗りを上げていましたね。

自分が誰であるかを表現するときに、キュアハートではなくて大貝第一中学生徒会長と言うあたりがまたマナらしかったですね（笑）。プリキュアであっても生徒会長であっても、結局マナはマナなんだなと思うと、微笑ましかったです。事前に正体がみんなにバレるよという話は聞いていたんですが、まさか自分でバラすとは思いませんでした（笑）。でも、隠しごとをしないところも、マナらしくていいんじゃないでしょうか。

――スタジオは自由な雰囲気だったそうですね。

結束していないわけではないんですが、休憩中は思い思いに過ごしていることが多かったですね。座長としてしっかりしなきゃという気持ちもあったんですが、ゲストの声優さんがいらしたときに入りにくい雰囲気は作りたくなくて。みんなよく笑っていたので、そういうところは伝わっていたのかなと感じています。

ある日、台本にベール役の山路さんがやられる台詞に『ヤマジ！』とあったんです。それから、イーラ役の田中真弓さんとマーモ役の田中敦子さんがやられるときに『ヤマジ』とどこに入れようかと楽しく考えていらして。そうやってスタジオを楽しくしようと考えてくださったことが、本当にうれしかったです。

『プリキュア』を通しての出会いはすべて大きな財産

――『ドキドキ！プリキュア』は、『プリキュア』シリーズで初めて東京国際映画祭に出展しましたね。

シリーズで初めて出展というのも、グリーンカーペットを歩けるというのも光栄なことだったんですが、あの日は緊張しすぎて記憶がほとんどないんです（笑）。でも、あんな晴れ舞台に出られたのも、『プリキュア』が10年続いてきたからこそなので、歴代のプリキュアの皆さんには感謝してもしきれません。

――『ドキドキ！プリキュア』チームは、昨年公開された『映画プリキュアオールスターズNewStage2 こころのともだち』が、映画初出演でした。

『NewStage2』のときは、アフレコがまだ始まったばかりの状態での参加でした。前作の『スマイルプリキュア！』の先輩たちがすごく息が合っていたので、自分たちもできるのかなって心配になったのはよく覚えています。

――10月には『映画ドキドキ！プリキュア マナ結婚!!? 未来につなぐ希望のドレス！』も公開されました。

『NewStage2』のときにはまだキュアエースが登場していなかったので、5人でできることがうれしかったですね。マナは赤ちゃんから大人まで異なる姿で登場するので、その差をつけるのが難しかったです。特に小学生と中学生の差が。映画を観て、マナにはおばあちゃんから注がれた愛があるんだということがわかったのもうれしかったですね。マナが時々使う「もちのろん！」などの古風な言葉はおばあちゃんの影響だったんだなとわかりましたし。

――そしていよいよ『映画プリキュアオールスターズNewStage3 永遠のともだち』が公開になります。

『ハピネスチャージプリキュア！』のプリキュアたちに先輩らしいところが見せられるのかが心配ですね……（笑）。

――（笑）。改めて最終回まで終わってみての感想を教えてください。

最終回間際に『ハピネスチャージプリキュア！』のCMが入ってきたときには次につなげられたんだというのうれしさもありましたが、やっぱり終わるさびしさというのもあって。でも、『ドキドキ！プリキュア』の世界はずっと続いていくだろうし、1年間でできたキャストやスタッフ陣の絆はこれからも続いていくものだからと思うと、今はさびしくはないですね。

――そんな生天目さんにとって『プリキュア』とは？

心の財産です。マナやキャストのみんなに出会えたこと、作品を通して受け取ったもの、皆さんに伝えられたこと、すべてが財産です。大きな愛に包まれて、心の愛が育った1年になりました。

――では、最後に読者にメッセージをお願いします。

私自身もあきらめない心で臨んだ、そんな1年でした。私くらいの年代になると「これがやりたい！」というだけではできないことも増えてきます。そんな中で、私がキュアハートを演じたことによって、同世代の仲間や友達から「頑張ろうと思った」とか「勇気をもらった」って言っていただけたんですね。それを聞いて、私自身もあきらめずにこれからもやっていこうと思えるようになりました。放送は終わりましたが、『ドキドキ！プリキュア』の世界は終わりません。ぜひマナたちだったらこうするかもしれないと思って、行動してくれたらうれしいです。どうぞ皆さんも、これからも愛の花を咲かせていってください。

生天目さんの思い出のシーンはここ!!

「29話はシャルル役の西原さんたちがずっと言っていた『人間になりたい！』という願いが叶った回だったんです。シャルルたちの行動はもちろん、思いが通じたこともうれしかったですね」

Profile

【なばため・ひとみ】8月4日生まれ。神奈川県出身。主なアニメの出演作品は、『カードファイト!! ヴァンガード』シリーズ（鳴海アサカ役）など。演劇ユニット「なば缶」の主宰を務め、舞台でも活躍中。

Cast Interview 2

プリキュアになった瞬間から人生が変わったなと思いました

寿美菜子

キュアダイヤモンド 菱川六花

マナを支えたいという六花の気持ちに共感

——オーディションを受けたときのことは覚えていらっしゃいますか？

はい。台本の最初に、「声優でも役者でも問いません」といったことが書いてあったのがすごく印象的でした。私が受けた六花は、「マナと声が似ていてもかまいません」とあって、声を出した瞬間に合否が決まるんじゃないかと感じました。実はオーディションでは、私が受けたすぐ後くらいにキュアソード役の宮本佳那子ちゃんが来ていて。後々、これも運命だったんだなぁと思いました。

——合格したときの感想は？

まさか自分がプリキュアになれる日がくるとは思っていなかったので、うれしかったですし、光栄でした。

収録はアニメ本編よりもゲームやおもちゃが先だったのですが、そこでなば様（生天目仁美さん）と一緒になって。なば様からどんな思いでアフレコに臨んでいるのかというのを教えてもらったんです。その決意に思わず泣きそうになってしまったのを覚えています。それ以来、六花がマナのために何とかしてあげたいと思うのと同じような気持ちで、私もなば様のためにできることはやりたいなと思いました。そんなこともあってか、アフレコを重ねるうちに、六花の演技がマナと似てきたような感覚はありましたね。わざと似せているわけではなくて、好きだからつい真似して似ちゃう、みたいな。

——その頃から、もう六花になりきっていたんですね。そんな六花は、見た目からして落ち着いた印象がありました。

私の中で、青いプリキュアはクールでカッコよく、知的なイメージがあったので、六花もそうなのかなと思っていたんです。でも、実際に物語が始まると、六花しかツッコミ役がいなくて（笑）。ツッコんでばかりいたような気がします。でも、あんまりキツく言うとただの怖い人になってしまうので、そこは気をつけてほしいと言われました。自分でも意識はしましたが、声質のせいかあまりキツくならなくてよかったです。

——ツッコミを担当するくらいの常識人なせいか、六花はマナたちに振り回されることも多かったように感じましたが、いかがでしたか？

私個人としてはマナが突っ走りたいなら「そのまま行きなよ！」っていう気持ちなんですけどね（笑）。ただ六花の立場としては止めなければならない。そこは私自身の気持ちとは異なるので、少し心苦しかったです。とはいえ、六花はマナを引き留められないというのはわかっていると思うんですよね。それでも一応引き留めなくちゃ、という思いで引き留めていたのだと思うので、ふたりはいいコンビだったんじゃないかな。

——ご自身と六花に似ているところはありますか？

私も誰か輝こうとしている人がいるなら背中を押したいなと考えるほうなので、六花がマナを支えたいと思う気持ちには、とても共感していました。まこぴーやレジーナが登場してマナと仲よくしている姿を見てやきもちを焼いちゃう気持ちも、すごくよくわかりました。実際六花と気持ちがシンクロすることも多くて、「いま六花のために生きているなぁ」と思うことばかりだったんです。放送が始まる前には、これまでにプリキュアを演じられてきた方から、プリキュアになったら人生観が変わるとか、ミラクルがいっぱい起きると聞いていたんですが、そのシンクロ感を味わって、「あぁ、これがプリキュアになるということなんだなぁ」と感動しました。

イーラに対して恋愛感情はない!?

——そんな六花ですが、イーラとの間にはちょっと特別な空気が漂いました。

『プリキュア』では、あまり恋模様は描かれないようなので、レアだなと思いました（笑）。私としては大先輩でもあるイーラ役の田中真弓さんと、六花を通して会話ができたことが本当にありがたかったです。

——寿さん個人としては、六花からイーラには恋愛感情があったと思いますか？

ふたりの関係をもっと観ていたかったので、あってほしいです！　でも、48話で六花が「あなたならわかってくれるはずよ」とイーラに語りかけているときの思いが、友達のために動くっていうことをわかってくれるよねって言っているように思えて。それはつまり、六花としては“友達の”イーラのためにだって動くよってことなのではないかなと。となると、恋愛感情はないんじゃないかなぁ。

イーラ関連だと、26話でイーラを倒そうとするキュアエースと対峙した回が印象的でした。対峙しながら叱咤されて試されて。本当ならキュアエースに強く言い返したいんだけど、あえて静かに言うというのは演出の方とたくさん相談しながら演じた緊張感のあるシーンでした。

——今の六花は、まだ恋よりマナと一緒にいる時間のほうが楽しそうですよね。

そうなんですよね（笑）。『ドキドキ！プリキュア』は、本番のアフレコ前にみんなでVTRを通して観るのですが、そのときはみんな軽く声をあてるんです。そこで、44話で六花がマナに言った「私も愛してるよ」というセリフをすごく真剣に言ったら、周りから「愛が重い！」って言われました（笑）。

——でも、そんな六花もイーラにラケル

とモテモテでした。

お世話を焼いたりするのも上手なので、プリキュアの中では六花が一番母性がある気はします。そこが好かれたんでしょうか。マナといるときの六花は、なんというか転がされている感じがあるのですが（笑）、ラケルに関しては主導権を握ってちゃんとお姉さんをしているという違いが面白かったです。ただ、ラケルからの好意にまったく気づいていないところが、六花の罪なところですね。

映画を通して子どもたちの思いに触れた

——『プリキュア』と言えば、変身シーンや決め技シーンでの叫びもあります。

変身シーンや決め技を叫ぶシーンはほぼ毎話あって、一番気合いが入る瞬間でした。最初の頃は緊張もありましたが、慣れていくにつれて台本を見なくても言えるようになって。魔法の言葉みたいで、言うと安心できるようにもなりました。

変身シーンや決め技のセリフは、アニメ以外ですとミュージカルショーのためにも収録をするのですが、実際にショーで着ぐるみの動きとピッタリ合っているのを観ると感動しますね。子どもの頃にはショーを観に行くという行動力がなかったので、ショーを観るのはほとんど初めての体験だったんですが、本当に新鮮でした。

——子どもたちは、映画館でも一生懸命プリキュアを応援してくれますよね。

『映画ドキドキ！プリキュア マナ結婚!!? 未来につなぐ希望のドレス！』では、東京国際映画祭にも出させていただいて。あのときには、ファンの方もたくさんいらして、私たちにも声援を送ってくれたんです。変身のかけ声でファンの方のボルテージが上がっていくのを見て、すごくうれしくなりましたし、何より子どもたちが喜んでくれている顔を見られたことが本当に幸せで。改めて、子どもたちにとってプリキュアは憧れの存在なんだなと感じました。

——映画自体は、『映画プリキュアオールスターズＮｅｗＳｔａｇｅ２ こころのともだち』が初出演でした。

あのときの緊張感は忘れられません。キュアブラック役の本名陽子さんが変身して戦っている声を聴いただけで鳥肌が立ったこともよく覚えています。前作の『スマイルプリキュア！』チームも息がピッタリで変身している姿を見たときには、カッコよすぎる……と。自分たちも1年間終わったらああなれるのか、すごく不安でしたね。

——1年経った今、昨年の『スマイルプリキュア！』チームのように、先輩としてカッコよく『映画プリキュアオールスターズＮｅｗＳｔａｇｅ３ 未来のともだち』の収録に臨めそうですか？

立派な『ドキドキ！プリキュア』先輩になれるように頑張ります（笑）。『プリキュアオールスターズ』は、次のプリキュアにバトンを渡す映画でもあるので、バトンを渡す役を担うなば様の背中を押すように加わっていけたらと思っています。気持ちとしては、『ハピネスチャージプリキュア！』の青いプリキュアであるキュアプリンセスにバトンをちゃんと渡せるような、キュアダイヤモンド先輩でいたいなと思います。

——『ハピネスチャージプリキュア！』には、ユニット・スフィアで一緒に活動されている戸松遥さんも参加されていますね。

オーディションを受けるとは聞いたんですが、特に私からできるアドバイスもなかったので、合格したと聞いて「おお！」と。ただ、今回の『ＮｅｗＳｔａｇｅ３』には彼女は参加しないので、いつか一緒に映画の収録ができる日が来たらうれしいですね。

『プリキュア』で人生が変わった

——1年という期間は長かったですか？

もっともっと描いてほしかったシーンもあったので、むしろ短かったです。なば様が最終回のアフレコに参加できなくて、翌週に別録りになったので、その後にみんなで打ち上げをやったんですね。その帰り道でキュアロゼッタ役の渕上舞さんと一緒になって、ふたりで涙が止まらなくなりました。あぁ、終わっちゃったんだなぁ……って。

『ドキドキ！プリキュア』のスタジオは、すごく自由な雰囲気だったんです。アフレコするときはもちろん集中しますが、休憩中は仲がいいからといってずっと一緒にしゃべっていなくてもいい現場で。緊張感はほどよくありつつも、自分のペースで臨めたのがうれしかったです。

——1年間の中では、キャストのお誕生日祝いなどもあったそうですね。

ありましたねー。印象に残っているのは、キュアエース役の釘宮理恵さんのお誕生日です。釘宮さんが参加されるようになったときには、釘宮さんのお誕生日は過ぎてしまっていたんです。でもほかのみんなのお誕生日には参加してくださったのでどうしようって考えて。そうしたらちょうど、亜久里ちゃんのお誕生日回があったんですね。ちょうどそのあたりで、キュアソード役のカナコシ（宮本佳那子さん）のお誕生日もあったので、カナコシのお誕生日とあわせて、サプライズを仕掛けました。なば様とふたりでプレゼントを選びに行ったのも楽しかったなぁ。

私のお誕生日には、カナコシが頑張ってくれて。「私の好みをわかってる！」というカバンとダイヤの形のイヤリングをもらいました。

——楽しい出来事もたくさんあった1年だったんですね。そんな寿さんにとって『プリキュア』とは？

ちょっと大きいかもしれませんが、人生ですね。1年間、六花とキュアダイヤモンドの人生を演じてきて、私のこれからの人生の中に「プリキュアの人」というものが入ってきたんだと思うと、プリキュアになった瞬間から私の人生は変わったんだなと感じます。きっと観ていた子どもたちが大人になったときには、「プリキュア世代だった」と言う日が来るだろうし、そう考えると人の人生にも関わることができる『プリキュア』は、人生というにふさわしいと思います。

——では、最後に読者にメッセージをお願いします。

1年間『ドキドキ！プリキュア』を応援してくださってありがとうございます。『ドキドキ！プリキュア』は愛がテーマだったので、どれだけ皆さんに私たちの愛が届いているか、いつも考えていました。1年を通してたくさんの愛が届いたと思うので、この愛をしっかり受け取りつつ、プリキュアのように強くたくましい人生を歩んでほしいなと思います。

寿さんの思い出のシーンはここ!!

「ラケルの恋のエピソードが描かれた36話です。ラケルの戦いでの活躍はもちろん、六花と同じツッコミ役のラケルが、あんなにふにゃふにゃになったのがかわいくて（笑）、目が離せませんでした」

Profile

【ことぶき・みなこ】
9月17日生まれ。兵庫県出身。主なアニメの出演作品は、『TIGER & BUNNY』（ブルーローズ/カリーナ・ライル役）、『けいおん！』シリーズ（琴吹紬役）など。

自分らしくいられる楽しい1年間でした

渕上舞

キュアロゼッタ　四葉ありす

かわいい外見のありすに大苦戦!?

――オーディションは最初からありす／キュアロゼッタで受けられたのですか？

はい。私がこれまでに演じたり、オーディションで受けたりしたことのあるキャラクターとはタイプが違って、ほんわかとした柔らかい印象だったので、最初は戸惑いがありました。受ける前は、キュアダイヤモンドやキュアソードのほうが自分には合っているのではないかなとも思いました。

オーディションの現場では、「外見的には甘い印象ですが、かわいい声である必要はない」と言われたんですね。でも、ありす／キュアロゼッタは本当にかわいいので、そのギャップに悩みました。

こういった役を演じた経験があまりなかったせいか、オーディションでも自分の思ったような演技ができなかったんですね。帰りの電車では、もっと頑張れたんじゃないかって悔しくて。『ドキドキ！プリキュア』のオーディションに関しては、反省点が多かったのをよく覚えています。でも、私はまだ声優としてのキャリアも浅いし、これは記念受験だと自分を納得させていました。

――では、合格したと連絡が来たときはうれしかったのでは？

合格の連絡はまずマネージャー宛に来たんですが、ちょうど電話に出られなかったらしいんです。留守番電話にメッセージがあったらしく、ちゃんと確認してくれていたのですが、私は連絡をもらったときに「留守番電話に連絡があって……」というところまでしか聞かなかったんです。オーディションでうまくいかなかったことを覚えていたし、合格しないだろうと思っていたので、冗談はやめてくださいって怒ってしまって。その後、ちゃんと確認したよと教えてもらい、やっと本当のことだと理解ができて、自然と涙が出てきました。

――『プリキュア』シリーズは人気の作品ですが、それゆえのプレッシャーはありましたか？

これまでにも名だたる方々が演じてきているのが『プリキュア』シリーズですし、新しいシリーズになれば、次は誰がプリキュア役になるんだろうと期待されているのも知っているので、演じるプレッシャーというよりは、発表されたときに「誰？」と思われるのが怖かったです。それに、私が演じていることでキャラクターが愛してもらえなくなったらどうしようという不安もありました。

――その不安は払拭されましたか？

アニメ本編のアフレコの前に、ゲームやおもちゃの収録があるのですが、そのときはまだ不安でした。なにしろ、オーディションがうまくいかなかったと自分では思っていたので、どうしたらいいんだろうと悩んでしまって。結果、最初の頃はありす／キュアロゼッタの外見に合わせたかわいい演技をしようと思いすぎてしまって、苦労しました。でも、オーディションのときの自然体の私に近かった部分をいいなと思って選んでくださったのだろうと気づき、そこでやっと無理しなくていいんだと思えるようになりました。今では、数あるキャラクターの中で、ありす／キュアロゼッタを演じているときが、一番自然でいられますね。

ありすは強くて芯のある女の子

――先ほど、ありす／キュアロゼッタはかわいいとおっしゃっていましたが、やはり第一印象は"かわいい"でしたか？

そうですね。かわいらしくて、おっとりしているお嬢様だなぁと。でも、性格的には普段はふわふわしているけど、時々きつい言葉も言うんじゃないかなと思っていました（笑）。

――きつい言葉を言う子ではなくてよかったです（笑）。でも、幼い頃に武道を習っているなど、強い部分も垣間見えるキャラクターでしたね。

はい！　ありすは、過去に友達を守るために人を傷つけてしまったことがあったので、当初は前線に出て戦わなかったんですよね。ただ、私はせっかく戦う女の子になれたのだから、前に出て戦いたかった（笑）。アフレコ後にスタッフの皆さんとご飯を食べているときにも、戦いたいんだってずっと訴えていたんです。ですから、少しずつ前に出て戦えるようになったときは本当にうれしかったです。やさしいふわふわした女の子なだけではなく、強い女の子という印象も与えられたと思うので。

――外見からすると、怒ると何をするかわからないというのは意外でしたね。

改めてそういう過去があるんだよということを知って、だからかわいい声である必要はないのかなとも感じました。かわいさや柔らかさ以外に、芯のあるところがありすには求められていたのかなと思いました。

――ご自身とありす／キュアロゼッタに似ているところはありますか？

私自身はマナのようにクラスの中心になるのも苦手ですし、六花のようにサポートがうまいというわけでもないです。でも、別にみんなと一緒にいたくないとか、友達がいらないというわけではなくて、楽しい雰囲気は見ているのが好き、という面ではありすに近いのかな。

そういう意味では、『ドキドキ！プリキュア』のアフレコ現場はとても過ごしやすかったです。必ず話題に参加しなければいけないという空気感ではなくてひとりでいてもいいし、でも興味がある話

題にはするっと入っていける。その自由さが、心地よかったです。

――お誕生日の人にプレゼントを贈る、温かい現場だったとうかがいました。渕上さんのお誕生日はいかがでしたか?

私はお誕生日のときのアフレコで、体調を崩してぐったりしていたんです。そこへプロデューサーがスタジオに入ってきて、「本人は具合悪くてそれどころじゃないと思うんですけど、お誕生日なので」って言われてケーキを出してもらって。そこで初めて自分のことなんだと気づきました(笑)。ロールケーキを積み重ねたタワーのようなケーキで、さらにプレートに「ハッピーバースデー キュアロゼッタさん」って書かれていて、ロゼッタの髪飾りのモチーフの絵まで描いてあったんです。しかも、翌週にはプリキュア役のみんながプレゼントまで渡してくれて。ありすをイメージしたカゴのバッグとクローバーモチーフのアクセサリーをいただいて。みんな忙しいのにわざわざ時間を使って探してくれたんだなって、本当にうれしかったです。

渕上さんの思い出のシーンはここ!!

「33話でロゼッタが、ふたつに割れたロゼッタリフレクションをブーメランのように使いながらカッコよく戦うシーンが印象的でした。防御系だった技が攻撃系に変わり、戦いに参加できたこともうれしかったです」

ありすとランスは似た者同士!?

――ありす/キュアロゼッタが財力でキュアハートやキュアダイヤモンドの正体を知るところも衝撃的でした(笑)。

お金の力である程度なんとかなるよという描き方がされたことは、あまりないですよね(笑)。これが、子どもと一緒に観ているお父さんやお母さんに向けて、くすりと笑える要素になってくれていればうれしいです。

ありすはお金持ちですから、セバスチャンという執事がいましたが、彼とありすのコンビもバランスがよくて、とてもいい組み合わせだったと思います。

――妖精三姉弟の中では末っ子のランスも、いろいろと活躍してくれました。

ちょっと頼りない部分もあるけど、ランスはしゃべり方や存在で癒やしを与えてくれていたように思います。ランスに限らず、『ドキドキ!プリキュア』のプリキュアと妖精ってどこか似ているんですよね。しかも、ありすとランスの場合、演じている私とランス役の大橋彩香ちゃんも似ているんですよ。好きな洋服やよく行くお店が一緒で、たまに洋服がお揃いになることもあって(笑)。キャラクターとしても演じている者同士でも、いい関係が築けてうれしかったですね。

――そんないい関係が築けた1年間でしたが、振り返ってみていかがでしたか?

早かったです。1年かけて作品に携わるのは初めてだったんですが、1クール(3か月)のアニメが4回もあると思うと、長いなという印象だったんです。でも、気がついたらもう最終回が間近で。

ご飯に行こうと誘われても、まだ1年あるからいいかなと思ったり、体調を崩しても1年あるから取り戻せるよとか思ったりしていたんですね。でも、本当に早くて。1話1話をいまよりももっと大切にすればよかったなぁと思います。

いま改めて最初の頃の放送を観ると、どこかぎこちない部分もあります。自分としては納得できていなくても、なかなかもう一度やらせてくださいと言えなかったんです。いまにして思うと、やらせてほしいって言えばよかったなぁ。反省点は、言い出したらキリがないくらいたくさんありますね。

でも、最終的には自分の居場所ができて、自然でいられて楽しくやれる時間を過ごせた1年間だったなぁと感じます。『プリキュア』に関わっていなければ、一緒にお仕事をさせていただいたり食事をしたりすることもなかったような大先輩もたくさんいらっしゃるので、そういう皆さんと素敵な絆ができたことに、ただただ感謝です。

『プリキュア』で自分の居場所を見つけられた

――『ドキドキ!プリキュア』チームは、『映画プリキュアオールスターズNewStage2 こころのともだち』が初めての映画出演でしたね。

実は、『NewStage2』のアフレコをした段階では、TVでありすの変身シーンを録っていなくて、『NewStage2』のアフレコで初めて変身や決め技を叫んだんです。しかも、スタッフの方から「映画で変身するからね」ってプレッシャーを与えられて。大先輩の前に立ってひとりでしゃべるという緊張感は、イベントやライブとはまた違った緊張感がありました。

――秋には単独の映画『映画ドキドキ!プリキュア マナ結婚!!? 未来につなぐ希望のドレス!』も公開されました。

すごくしっとりとした話だったなと思います。映画全体の色使いや、絵の使い方がミステリアスな印象でした。子どもの頃のありすと14歳のありすが交差するシーンがすごく切なくて印象的だったので、そこを観てほしいですね。

映画は思い出というものが楽しいだけではないことも伝えつつ、でもそれを乗り越えて人生頑張っていくということを描いていて、深いお話だなぁと感じていました。私の周囲には、『プリキュア』を観る年齢のお子さんのいる方がいないのですが、今回『プリキュア』に関わらせていただけたことで、子どもたちがミュージカルショーや映画で一生懸命声援を送っている姿を見て、自分の中に新しい感情を取り入れるという意味でも勉強させてもらいました。

――そして、『映画プリキュアオールスターズNewStage3 永遠のともだち』では、先輩になりますね。

私は役者歴が短いので、まだ先輩だぞ、とは言えないですね(笑)。でも、別の現場で新しいプリキュアのキャストさんたちに会って話をすると、「頑張ってね」と思う一方で、「終わったんだな」というさびしさも感じます。もちろん、新しい『プリキュア』が始まり、シリーズが続くということはうれしいんですが。きっと、こんな気持ちをこれまでのプリキュアの皆さんも感じてきたんだろうなぁと思うと、『プリキュア』って学校みたいだなぁと思います。

――そんな渕上さんにとって『プリキュア』とは?

自分の居場所の見つけ方……かな。『プリキュア』を通して、自分はこうでいいんだというものを見つけられた気がするんです。最初の頃は頑張ってうまくやらなきゃという気持ちが強すぎて、頑張ることを頑張っていた部分があったんです。でも、だんだんと回を重ねていくごとに、自分の思うように、自由にしていていいんだって思えるようになりました。

――では、最後にファンにメッセージをお願いします!

1年間応援してくださって、どうもありがとうございました。『ドキドキ!プリキュア』から初めて『プリキュア』を観てくれた方にも、少しでも夢を与えられていたらうれしいです。私自身にとっても、素敵なターニングポイントになった作品なので、皆さんにとっても人生の中でひとつの思い出になっていたらうれしいです。お金で買えないものはたくさんありますよ(笑)。

Profile

【ふちがみ・まい】
5月28日生まれ。福岡県出身。主なアニメの出演作品は、『蒼き鋼のアルペジオ - アルス・ノヴァ -』(イオナ役)、『ガールズ&パンツァー』(西住みほ役)など。

Cast Interview 4

『プリキュア』はみんなの笑顔に出会わせてくれた「愛の結晶」です！

宮本佳那子

キュアソード　剣崎真琴

試行錯誤の連続だったキュアソード役

——真琴／キュアソードは、最初から変身した状態で現れたり、アイドル歌手だったりと、ほかのプリキュアとはまた違った個性がありました。真琴／キュアソードを見たときの第一印象は？

資料に笑っている顔があまりなかったので、明るい子じゃないのかなと思っていました。実は、オーディションはキュアソードのほかに、キュアハートでも受けていたんです。これまで元気な女の子を演じることのほうが多かったので、キュアソードは受からなさそうかなと。ですから、キュアソードで受かったよと聞いたときは、「受かったんですか！……え？　え？　キュアソード？」って確認するぐらいに驚きました（笑）。

——でも、『ドキドキ！プリキュア』の1話の第一声はキュアソードでしたね。

収録のときは、半べそどころかべそをかいていました！（笑）。1話ですから、スタッフの方もたくさんいらしていて、そんな大人数の注視の中で、最初に私とジコチュー役の岩崎征実さんのふたりだけでマイクの前に立つわけで、緊張がすごかったです。戦いのシーンだったのですが、たとえばどのくらいアドリブで声を入れたらいいのかなども、1話の最初ですから、まだわからない部分が多いですし。結局、多めに入れたら、「キュアソードは強いから、そんなにアドリブはいらない」ということでしたが、とにかく必死でもう泣きそうでした（笑）。

——宮本さんは『プリキュア』シリーズでは、『Yes！プリキュア5』のEDを歌っていましたが、改めて声優として『プリキュア』シリーズに関われたことはうれしかったですか？

もちろんです！　不安もありましたが、また『プリキュア』に参加できるという喜びはありました。ただ、元々歌い手側だったので、ほかの歌い手のみんなになんて言おうかな、とは思いましたが。歌い手側って、どのシリーズを歌っていたかに関係なく、すごく仲がいいんですね。だから、「声優になったなら、もう仲よくしない！」とか言われたらどうしようかなって思って（笑）、不安だったんですよ！　でも、「私プリキュアになるんです」って言ってみたら、私の心配とは違ってすんなりと「頑張ってね！」という感じでした。

表情豊かになっていくまこぴーがかわいい

——真琴／キュアソードは、明るくない子なのかと思ったとおっしゃいましたが、演じる上で気をつけられたことは？

最初の頃、スタッフの方から「いまは心を閉ざして戦っているけど、本当は普通の明るい女の子なんだよ」って言われていたので、暗くなりすぎないようには気をつけました。それから、淡々としていても怒っているわけではない、というところも特に気をつけましたね。

しかも、『映画プリキュアオールスターズNewStage2 こころのともだち』のアフレコは、TVシリーズでまこぴーが仲間になる前だったんですよ！映画の時点では、もうみんなの仲間で仲よくなっているから、その間にどんなことがあったんだろうと、私の中で想像しながら演じていました。

——でも、仲間になってからは、どんどん表情が豊かになって。

まさか、あそこまで変化が見られるとは思いませんでした（笑）。アイちゃんに赤ちゃん言葉で「しゅごーい」って言ったり、かわいいものが好きだったり、歯医者が嫌いで逃げちゃったり……。いろんな表情が観られたのがうれしかったです。

——宮本さんはご自身も歌手活動をしていらっしゃいますが、アイドル役としての真琴の役作りはどのように？

まこぴーは、いわゆるキュートさを前面に出したアイドルとは違うので、彼女なりのアイドル感が出ればとは思っていました。実は、1話のアフレコより前に、5話で披露した挿入歌「～SONG BIRD～」はレコーディングが終わっていたんです。なので、アイドルであるまこぴーに関しては、この歌から逆算して考えたところもあります。「～SONG BIRD～」のような歌を歌うんだったら、普段から凛とした部分を持っているのではないかと。

——真琴／キュアソードは、レジーナとの関係も難しかったと思います。

そうですね。自分の国を滅ぼした側を許せるかと言えば、普通は許せないですよね。ましてやまこぴーは責任感がとても強いので、その娘であるレジーナを受け入れるまでには相当葛藤があったと思います。

——真琴の性格を考えると、マナに説得されたからと言って、「はい、許します」とは言えないでしょうし……。

悩みながらも受け入れたのは、マナへの愛があったからだと思います。クールに見えたかもしれませんが、あれでもまこぴーとしては、マナに対して精一杯べたべたしたつもりだったんですよ！（笑）。まこぴーは、「好き！」という気持ちが表に出づらい子なんですよね。マナはもちろん、六花やありす、亜久里だって大好きですよ！

——（笑）。真琴はマナからも、六花にやきもちを焼かれるくらい愛を注がれていましたしね。

そうですね（笑）。マナは本当に愛にあふれている子でしたし、もし身近にあんな子がいたら、絶対好きになります。私、ほかの方はもちろんですが、マナを演じられていた生天目（仁美）さんが本

当に大好きで。生天目さんもみんなを愛してくださっていたし、みんなも生天目さんを信頼していましたね。

安心感たっぷりのアフレコ現場

——生天目さんご自身は、1年間ちゃんとやれたのか不安だったみたいです。

そういうことを言っちゃうところが、また愛される理由なんですよね。最終回のとき、生天目さんだけは翌週に別録りすることになっていたのですが、スタジオにはいらしてくださって。見守られている感じがすごくあって、安心してアフレコに臨めました。

——宮本さんは、六花／キュアダイヤモンド役の寿美菜子さんとは、一緒にラジオをやっていらっしゃいましたよね。

はい。『プリキュア』のオーディション会場でも会って、奇遇だねって話をしていて。オーディションのあとにラジオの収録があったので、一緒に移動したことを覚えています。その移動中にたくさん話ができて、そこからミナコシ（寿さん）とはグッと仲よくなれた気がします。友情を深めるきっかけが『プリキュア』だと思うと、運命的なものを感じますね。

宮本さんの 思い出のシーンはここ!!

「キュアソードもキュアロゼッタみたいにキラキラしたらうれしいなぁなんてお話をしたことがあったのですが、40話はそれが叶ったという意味でもうれしかったです。実はこのシーンの原画をいただいたんです。私の宝物です！」

——ほかの声優さんとの思い出は？

ありす／キュアロゼッタ役の（渕上）舞さんとはアフレコの席が隣で。のどにいいというスプレーを使っていらしたので、「それいいの？」って聞いたら「使ってみる？」と言って、スプレーのボタンを押してくれたんです。でも、スプレーの先が外を向いていて全部台本にかかってしまって大惨事に（笑）。そんな中でも笑っている舞さんがもう素敵で（笑）。

亜久里／キュアエース役の釘宮（理恵）さんは、亜久里とキュアエースの演技の差にビックリ！　人が変わったようで、感動しました。私は釘宮さんと同じマイクに入ることも多かったのですが、とてもやさしくしていただきました。

——お誕生日のときも、サプライズがあったんですよね？

ありましたねー。ミナコシが率先して連絡をしてくれました。私は、ミナコシの誕生日にプレゼントを選ぶことになったのですが、そのときにミナコシがどれだけ一生懸命、私たちやキャラクターのイメージに合うものを探してくれたのかがわかって。それだけ色々な人のことを見てくれているんだって、尊敬しました。

——真琴／キュアソードは妖精のダビィとの関係も興味深かったですね。ダビィだけほかの妖精と違って、大人の女性に変身した姿としても登場していましたし。

ダビィは、キュアソードのお姉さんみたいな存在でした。トランプ王国にいた頃から一緒だったし、車も運転できるし、すごく有能で。それでいて、妖精姿になると、シャルルと張り合っちゃうところがかわいくて好きでした。しかも、恋について語ったりもして！　いったいどんな恋をしてきたのか気になります!!（笑）。

ダビィといえば、最初の頃はまこぴーがマナと別れるとき、車に乗って行っちゃうので、どこに帰っているのか不思議だったんです。もしかして、車で泊まっているんじゃないかとか（笑）。でも、40話でマンションが映って、ちゃんとした場所で暮らしているんだってホッとしました。

キュアソードの「騎士道」に感動！

——先ほど1話の第一声がキュアソードだったというお話も出ましたが、『プリキュア』といえば、変身シーンのかけ声や決め技での叫びが印象的ですよね。実際に叫んでみるとスカッとしますか？

スカッとする以前に、すごく緊張します！　変身を待っている間は特に、「今日は声が出るかな」って心配になります。変身シーンは、基本的には毎回ちゃんと録っているんですね。私は4番目に変身することが多いので、だんだん収録が進むにつれて、聞くだけでみんなの声の調子がわかるようになりました（笑）。

最終回まで終わって、改めて最初の頃を観直してみると、緊張のせいか声が硬くて恥ずかしくなることもあって。全話数の変身シーンを抜き出して聞いてみると、結構変化があって面白いと思います。

アフレコのときはとにかく気合いを入れたくて、毎回足をクロスさせてソードと同じスタイルで立っていたのですが、周りの皆さんからは「何してるんだろう？」って思われていたかも（笑）。

——1年間あると、印象的なエピソードもたくさんあったのでは？

24話と40話は特に思い入れが強かったです。24話はまこぴーが引退すると言う回で。まこぴーがアイドルを続けるかどうか悩む姿に、人間らしさみたいなものを感じて、ますますまこぴーが好きになりました。40話は、「こころをこめて」という歌が初めて流れた回です。レジーナに向けて歌いながら歩いて変身する姿には、彼女のまっすぐな気持ちが出ていて。本当に素敵だなぁと感じました。

私は、まこぴーに二言はないと思っているんです。だから、レジーナに対しても、一度信じると決めたら疑わない。それを行動で表したような気がしていて。王女様がそばにいなくても、彼女は「騎士」で、「騎士道」を持つ子なんだなと。

——王女様とは、『映画ドキドキ！プリキュア マナ結婚!!? 未来につなぐ希望のドレス！』で、会話シーンもありました。

敵の策略で行った過去の世界とはいえ、久しぶりにトランプ王国に帰れたので、それはそれでうれしかったです。王女様と話ができた！　と思って。それから、キュアエースとがっつり組んで戦ったのも印象に残っています。「エース姉さん！」という雰囲気があって、すごく好きでした（笑）。

——最終回のキュアソードの姿は、涙なしでは観られませんでした。

レジーナやキュアエースの正体がわかってくると、どんどん辛くなりましたが、最終回ではキュアソードの気持ちをきちんと描いていただけたし、王女様とも話ができたのがうれしかったです。

キュアソードには親がいないので、王女様は彼女の親のような存在だったと思うんです。レジーナやキュアエース、アイちゃんがいるとはいっても、王女様はもう戻ってこない。その悲しい現実を、辛くても受け入れた彼女は偉い！

——今は支えてくれるマナたちもいますしね。

そう！　ずっとひとりだったキュアソードが、マナたちと出会ってひとりじゃなくなったんです。一緒に泣いてくれる友達ができたから、もう大丈夫。これからは前に進んでいけると思います。

——そんな宮本さんにとって『プリキュア』とはなんですか？

そうですね……。『プリキュア』は『Yes！プリキュア5』のミュージカルショーのとき、自分の歌に合わせて子どもたちが笑顔で踊ってくれるのを見てすごく感動しました。たくさんの愛が込められている作品だから、みんなが笑顔になれるんだと思います。『プリキュア』は、そんなみんなの笑顔に出会わせてくれた「愛の結晶」です！

——では最後に、読者に向けてメッセージをお願いします！

『ドキドキ！プリキュア』の、TVで放送されるお話は終わりましたが、キャラクターたちはこれからも生きていくと思います。皆さんの心の中に、ずっと彼女たちが生き続けてくれたらうれしいです。見守ってくれた皆さん、本当にどうもありがとうございました！

Profile

【みやもと・かなこ】
11月4日生まれ。茨城県出身。主なアニメの出演作品は、『探検ドリランド』（ミコト役）、『エウレカセブン AO』（アラタ・ナル役）、『まんがーる！』（佐々山はな役）など。

Cast Interview 5

キュアエースを演じて宝物をもらった気分です

釘宮理恵

キュアエース 円亜久里

戦士として参加できることが本当にうれしかった

——釘宮さんは、最初のオーディションには参加されたのですか?

オーディションは受けたのですが、残念ながら決まりませんでした。でもしばらくして、5人目のプリキュアが登場するということで、再度オーディションに呼んでいただき、キュアエース役をやらせていただけることになりました。

——亜久里／キュアエースの第一印象を教えてください。

プリキュアにはイメージカラーがありますよね。キュアエースは何色なのかなと思っていたら、上半身が赤でスカートが白という色合いだったんです。ちょうどオーディションのとき私も赤いカーディガンを着て白いスカートをはいていて。色合いが似ていたので、それだけでうれしくなってしまいました(笑)。

私自身は『映画Yes!プリキュア5鏡の国のミラクル大冒険!』(2007年公開)に、ダークレモネード役で出演させていただいているのですが、まさか数年後に真のプリキュア戦士になれるとは思ってもいなかったので、とてもとてもうれしくて。シリーズの途中から参加ということもあってプレッシャーや緊張もあったんですが、スタジオに行ってみたら「待っていたよ」という感じで皆さん温かく迎え入れてくださったんです。すごく輪の中に入りやすい雰囲気でした。

——亜久里／キュアエースは、ほかの4人に対して厳しいところもありました。

キュアエースは登場するやいなや、プリキュアたちにスポ根のノリよろしく、厳しい言葉をバンバンぶつけていたのが印象的でした。戦士役をやらせてもらうのはうれしかったんですけど、TVを観ている子どもたちが泣いてしまったり、この人怖いから嫌いって思われたりしたらどうしようという不安がありました。

私が思い描いていたプリキュアは、仲間を大切にし、協力し合って敵に立ち向かっていくのだろうというものでした。時には仲間に厳しく接するプリキュアがいてもそれはそれで新鮮ですし、仲間だからこそ、そういうことがあるものだと、いい意味でキラキラしてばかりではないんだなと思ったので、戸惑うことなく演じることができました。

——キラキラした雰囲気は苦手ですか?

苦手ではないのですが、愛を真っ正面から言うことに、少し気恥ずかしさがあるんです。でも、キュアエースは最初から厳しい性格のキャラクターだったので、それが彼女の特徴なんだなと思って演じていました。

亜久里は普通の子どもとは言葉使いも違いますし、何より変身前と変身後が変わり過ぎで、「そこまで!?」と思って不思議で不思議で(笑)。亜久里が、世界を守るためにもっと強くならなくてはならないという思いで大人になっているんだと知るまで、ずっと疑問でした。

生真面目でありながら空回りする亜久里がかわいい

——亜久里とキュアエースの演じ分けで気をつけられたことはありますか?

亜久里の日常には生真面目さゆえの硬さみたいなものがあって、それがスイーツを前にしたときはふにゃふにゃになるんですが、すべて映像で表現されていたので、それに合わせることを意識しました。スイーツ好きという設定を聞いたときはホッとしました。「スイーツ?虫歯になりますよ」みたいなことを言うキャラクターだったら嫌われちゃうんじゃないかなと(笑)。

亜久里の言葉使いは、生粋のお嬢様のありすとは違い、大人っぽくありたい亜久里が考え抜いた結果の表れだと思うのですが、やはりどこか違和感があるんですよね。だから、森本エルちゃんという友達ができてよかったですよ〜。普段からあの言葉使いであの態度だと、同級生から敬遠される可能性も高そうでしたから(笑)。

——それでいて、45話でエターナルゴールデンクラウンを手にしたときは、「丁重に扱ってください」と言いながらも、ちょっと乱暴に扱っていましたよね。

そうなんです!(笑)。亜久里はキュアエースと比べると、時々「大丈夫かな?」と思うような行動をするんですよ。亜久里自身はキュアエースと同じように一生懸命でめいっぱい頑張っているのですが、空回りしちゃうところに面白みがあってかわいいですね。

——キュアエースは、決め技のかけ声も印象的でした。

キュアエースは、セリフひとつを取っても際だってカッコいいですよね。決めゼリフのようなものをバンバン使うので、それだけで「キュアエース先輩、カッコいい!」みたいになっていて。変身のときの名乗りも含めて、昂ぶるものがありましたね。「うわ、今のワタシ、イケてる!」みたいな(笑)。

変身の名乗りや決め技のかけ声は、同じ言葉ですが、毎回相手によって違った思いを込めて発していました。当初は「ばきゅーん♥」も大真面目に言っていたんですけど、冷静になって考えてみると面白いですよね。擬音じゃん、て(笑)。でも、生真面目さゆえに面白くなっちゃうのがキュアエース先輩だとみんなに言われていたので、よしとします(笑)。

——とても和気あいあいとした雰囲気のあるアフレコ現場だったんですね。

なばちゃん(生天目仁美さん)が座長でいてくれるということで、すごく温かみ

のあるスタジオでした。収録中はかなり大人数になるんですが、ファミリーみたいな感覚があったし、柴田宏明プロデューサーも積極的に監督とキャストの間をつなぎあわせてくれたので、一丸となっている感じがありました。なばちゃんはずっと「不安」って言っていましたけど（笑）。

——釘宮さんが参加されたときには、すでに釘宮さんのお誕生日が過ぎてしまっていたとうかがいました。

そうでした。でも、亜久里が誕生日を祝ってもらった回に、私もプレゼントをいただいたんですよ！

そのプレゼントが、赤い折りたたみ傘と赤い口紅で。口紅にはキュアエースの「A」って彫ってあったんです。しかも、スタッフさんから私に、口紅を構えて「ばきゅーん♥してください」ってリクエストがあったので……やりました（笑）。すごくうれしかったですね。

映画の亜久里は役得でした

——キュアエースは、『映画ドキドキ！プリキュア　マナ結婚!!?　未来につなぐ希望のドレス！』が映画初参加でした。

私は親子試写会のときに観させていただいたんですが、子どもたちが試写会場にプリキュアの洋服を着て来たり、おめかしをして来たりしているのがうれしかったですね。本編はマナたちの幼い頃のエピソードが描かれていてとても素敵でしたし、ゲストでいらした谷原章介さんも素晴らしかったです。

亜久里は子どもたちにライトを振ってプリキュアを応援してほしいとお願いするシーンがあったので、これは役得だなと（笑）。東京国際映画祭でグリーンカーペットを歩いたことも、プリキュアの着ぐるみの皆さんに出会えたことも幸せでした。

——ミュージカルショーのような、ご自身が声をあてられている役に別の演じ手さんがいるのも、『プリキュア』ならではですね。

ミュージカルショーは大阪公演と和歌山公演を観に行ったのですが、和歌山公演は最終公演ということもあって、内容が進化していて、音声を録り直したバージョンを観ました。その頃には、着ぐるみの方々の動きはもちろん、しゃべっていないときのたたずまいや雰囲気まで、完璧にキャラクターの動きそのものに仕上がっていたことに感動しました。

『プリキュア』では、ほかの作品ではできない経験をたくさんさせていただきました。過去のプリキュア出演者に別の現場でお会いしたとき、みんながプリキュアのことを特別に思っているなと感じてはいたのですが、不思議な連帯感があるんですよね。もちろん、シリーズごとの『プリキュア』の絆というのはありますが、『プリキュア』全体での絆のようなものがあって。なんでなんだろう？　と思っていたのですが、『プリキュア』に参加してみて、イベントを始めさまざまな出来事を共有しているからなんだと実感しました。

キュアエース役に決まったとき、私はそのことを誰にも内緒にしていたのですが、『プリキュア』ＯＧの皆さんはなぜか私がキュアエースをやることを知っていて。どうやらたまたま過去のプリキュアを演じた方々が集まっている現場があったようで、そこでスタッフの方が教えたのだそうです。番組が終わっても絆は続くんだなぁと感じました。

半年間演じてきて『プリキュア』の絆を知った

——半年間を振り返っての感想を教えてください。

登場まもない頃は、キュアエースは厳しい性格なので、子どもたちに嫌われるんじゃないかと心配していましたが、応援のお手紙をいただくようになって、好きになってくれてよかった、本当によかった……とホッとしました。

アフレコでは最終回が近づいてくると、ほかの４人のテンションが落ちてきちゃっていたんですね。そんな中で、私は４人より年齢もキャリアもちょっとお姉さん的な立ち位置というのもあって、私は泣き虫だけど、私が先に泣いちゃったらほかの４人がしらけちゃうかもしれないからって思って、最終回の収録が終わっても泣かないように我慢していたんです。でも、結局皆さんハートが強かったです。キュアハートだけに……（笑）。

『ドキドキ！プリキュア』に出演することが決まってから、ある現場で美里（『スマイルプリキュア！』星空みゆき／キュアハッピー役の福圓美里さん）と話したときに、「『プリキュア』の現場は、みんなが仲よくなるんだよ」って言われていたんですね。それを最終回を終えてひしひしと感じていて、『ドキドキ！プリキュア』も本当にいい番組だったんだなと思っています。

——亜久里／キュアエースはレジーナとの関係もあって、特に注目されましたね。

亜久里／キュアエースとレジーナは、アン王女から派生した人物でしたから、キュアエースとしては戦わずにはいられなかった。でも、私から見たら、元は同じ人なのだから、ぶつかり合う以外に、もっといい解決方法はないのかなと思っていました。レジーナに対しては思い入れが強くて、この子はこの先どうなっていくのだろうと、いつもハラハラしながら見守っていた気がします。くーさん（渡辺久美子さん）のレジーナが素晴らしすぎて、出てくるたびにキュンとしていました。

——釘宮さんご自身は、最初から亜久里／キュアエースとレジーナが元は同一人物だとご存知だったのですか？

亜久里とレジーナは髪形もほぼ一緒なので、なんとなく元は同じなのだろうなとは思っていました。でも、レジーナがキングジコチューの（大塚）芳忠さんに「パパ」って言っているのに、私は芳忠さんを亜久里のパパだとは思っていなかったんです（笑）。最終的にはお父さんだとわかってうれしかったですね。

最初の頃は、キュアエースとレジーナが最後にどうなるかまではっきりと決まっていなかったようなんです。ただ、やはり子どもが観るものですから、誰かがいなくなるようにはしたくないとスタッフの方が話していらしたのはよく覚えています。

——そんな釘宮さんにとって『プリキュア』とは？

友達かな。ファミリー感のある現場でしたし、そのぐらい身近に感じるものでもありました。特別なんだけど、すぐそばにいるようなものですね。

——では、最後に読者にメッセージをお願いします。

１年間、『ドキドキ！プリキュア』を応援してくれた皆様、本当にありがとうございました。たくさんドキドキしていただけましたでしょうか。亜久里／キュアエースは途中からの参加でしたが、心を揺らしてドキドキしながら、でも精一杯演じてまいりました。貴重な経験もさせていただきましたし、思い出深い作品になりました。これからもずっと『ドキドキ！プリキュア』を、皆さんの心の隅っこにでも置いていただければ本当に幸せです。

釘宮さんの思い出のシーンはここ!!

「31話で、初めて５人で『ドキドキ！プリキュア』と言えたときに感動しました。やっと自分も『プリキュア』チームの一員になれたんだなと実感したシーンでもありました」

Profile

【くぎみや・りえ】
５月30日生まれ。熊本県出身。主なアニメの出演作品は、『たまごっち!』シリーズ（まめっち役）、『FAIRY TAIL』シリーズ（ハッピー役）など。

Cast Interview 6

プリキュアから新しいものをたくさんもらいました

渡辺久美子

レジーナ

Profile
【わたなべ・くみこ】10月7日生まれ。千葉県出身。主なアニメの出演作品は、『ケロロ』シリーズ（ケロロ軍曹役）、『犬夜叉』シリーズ（七宝役）など。

わがままだけどけなげなレジーナ

——レジーナの第一印象について教えてください。

私はこれまで妖精のような、〝人間ではない〟役が多かったので、今回はかわいい女の子だと知って、私が演じるので大丈夫かな？　と思いました（笑）。

レジーナが途中から悪役になるというのは聞いていたので、どうせなら子どもたちが嫌がるくらいに怖くしようと思ったら、絵や動きがかわいいこともあって、どうしてもそうはなりませんでしたね。

私としては、途中から参加するので観ている方にインパクトを与えないといけないと思っていて、『プリキュア』の伝説に残るくらい悪い子になるのはどうだろうと思っていたのですが（笑）。

——（笑）。レジーナはわがままではありましたが、どこか憎めない子でしたよね。

『ドキドキ！プリキュア』は、優等生が多かったのですが、その中ではレジーナは劣等生ですよね。しかも、独占欲がとても強い。でも、誰よりも一番に愛してもらいたいという感情は誰しも持っていると思うんです。そこは、観ている子どもたちにも身近に思ってもらえたのではないかなと思います。

——演じていくうちに、レジーナの印象は変わりましたか？

20話でマナと一緒にいたいのをやせ我慢して、パパの元へと行くシーンなどを観ていると、けなげな子だなぁと感じるようになりました。わがままな部分が表面に出ているのでそこが注目されがちですけど、彼女なりにけなげに頑張っているところも多いんですよね。それを知ってからは、彼女が頑張るたびに涙が出そうになりました。

——レジーナはアン王女の闇のプシュケーから生まれた子ですが、それについてはいつ知りましたか？

収録の前の週に、台本を渡されるまではっきりとは知りませんでした。ラストで彼女がどうなるかというのは教えてもらっていなかったので、最後までずっと悪いままでいるか、もしかしたら亜久里と融合して消えちゃうんじゃないかとは思っていました。『映画プリキュアオールスターズNewStage3 永遠のともだち』にキュアエースが登場するので、消えるならレジーナだろうなと（笑）。

ですから、最終回でレジーナが消えずに残っていてくれたことは、心の底からうれしかったです。最終回というのはどうしても少しさびしいものになりがちですが、『ドキドキ！プリキュア』は、地球とトランプ王国が一緒になって、みんなも笑顔で過ごせるという、とても幸せな終わり方をしてくれたなと思っています。

最終回のセリフで仲間になれた気がする

——レジーナは、キングジコチューの娘ということで、ほかのプリキュアとはなかなか仲よくなれませんでした。

六花や真琴からはものすごく敬遠されていましたね。トランプ王国を滅ぼしたキングジコチューの娘ですから当然ですが、それでもレジーナがいない間もマナが彼女を気にかけてくれていたので、幸せな子でもあるなぁと感じていました。

——最終回を終えての感想を教えてください。

物語のキーになる役をやらせていただけたことがまずうれしかったですし、かわいい女の子という新しい引き出しを見つけていただけて感謝でいっぱいです。最終回のラストに、「響け！　愛の鼓動　ドキドキ！プリキュア」というセリフがあるのですが、ちゃっかりレジーナも入っているんですよね。「私も言っていいんですか？」と確認したら、いいと言っていただけたので、仲間として認められたような気がして、とても幸せでした。

——渡辺さんにとって『プリキュア』とはなんでしょうか？

新しいジャンルです。レジーナは、これまで演じてきたキャラの中でも、特に代表にしたいくらいにお気に入りです。私の中には女の子の〝萌え〟という要素がなかったので（笑）、プリキュアキャストの皆さんから萌えを学んだ作品でもありました。新境地を勉強させていただけたと思っています。

——では、最後に読者にメッセージをお願いします！

色使いのかわいい作品に出させていただき、また歌も歌わせてもらったという、貴重な経験をたくさんさせていただきました。設定としてはプリキュアたちは優等生でしたが、ちょっと崩れた顔もするような、ただかわいいだけではない魅力がたくさんあったと思います。プリキュア目線ではなく、ジコチューや妖精の視点でも楽しめる作品だと思いますので、観返す際にはぜひプリキュア以外にも注目してみてください。

渡辺さんの思い出のシーンはここ!!

「19話でプリキュアとクリスタルをかけて対決したエピソードです。ジコチュートリオとレジーナがユニフォームに着替えているのが微笑ましかったですね。またみんなでボウリングをしてほしいです」

Special Message

プリキュアの妖精&ジコチュートリオを
演じた声優陣からのメッセージをご紹介♡

妖精の皆さんへのQ

1プリキュアに出演すると決定したときの感想 2キャラクターの印象 3役作りで気をつけたこと 4妖精として、いま、プリキュア5人に声をかけるとしたら？ 5印象的だったセリフやエピソード 6最終回まで終わっての感想 7『ドキドキ！プリキュア』のファンへのメッセージ

ランス 大橋彩香

1 びっっっっくりしました!!（笑）歴史ある『プリキュア』シリーズに妖精として携われるなんて、本当にうれしかったです!!!!
2 オーディションで資料をいただいたとき、最初女の子かと思いました!!!!　それくらいかわいいんです。いまでは、おっとりのんびりしている中に、芯の通った部分がちゃんとある子なんだなぁと思います。そして、よくアクシデントに巻き込まれるというか、ちょっと不憫なところが、またかわいいなぁと（笑）
3 とにかくのんびりと、マイペースで末っ子な感じがでるように気をつけました!!!!　ゆったりと話す役はあまりやったことがなかったので、新たな挑戦でした。スタッフさんからは、「そのままの大橋さんで！」と（笑）。なんというか、いつも話している素の感じがランスに近いみたいです。でもいざ役で素の感じを出すのは難しく、初めはすごく悩みました。
4 L・O・V・E！　で変身したあと、いつも何も手助けできなくてごめんなさいでランス〜〜。
5 やっぱり、ジコチュートリオのみなさんの「ヤマジ」が印象的です。最初は台本に、間違いだったのかはわからないのですが、ベールのセリフで「ヤマジ」と書いてあったことから始まりました（笑）。収録の合間に、アドリブで「ヤマジ」を入れようと相談していたのが印象的です!!!!　そして、ランスちゃんといったら、ラストのほうで、巨大化してキングジコチュー様と戦わせていただいたことです。ロゼッタバルーンのランスちゃんですが、やっぱりランスちゃんはランスちゃんだった（笑）。このときの妖精みんなの実況も面白かったです。
6 1年間、ほんとにあっという間でした!!!!　アフレコが始まったときは高校生だったのに、いまでは社会人です。この作品からは、たくさんの愛とドキドキをいただきました!!!!　そして、アフレコを通して勉強もたくさんさせていただきました。ランスちゃんと共に、皆様へ愛とドキドキをお届けできてたらうれしいなぁと思います!!!!
7 1年間、『ドキドキ！プリキュア』を応援してくださり、ありがとうございました。アニメの放送は終わってしまいましたが、まだまだマナちゃんたちの物語は終わりません!!!!　これからもずーっと、『ドキドキ！プリキュア』を応援していきましょうね♪♪

シャルル 西原久美子

1 私がプリキュアの妖精になることは、もうないだろうと思っていただけに、驚きと喜びでとびあがりました！
2 第一印象は"かわいい〜"♡　回が進むにつれて、"超、超かわいい♡　愛おしい♡"
3 マナのパートナーなので、マナに似ているところを作るよう意識しました。
4 みんな大好き♡　これからもよろしくシャル〜♡
5 当初予定になかったのに、シャルルたちを人間に変身させてくださったこと。「シャルルにおまかせ♡」
6 お別れではなく、このままずっと続いていくだろう最終回でうれしかったです。きっと今日もシャルルはマナと一緒♡
7 1年間応援してくださり、ありがとうございました。『ドキドキ！プリキュア』忘れないでね♡

ラケル 寺崎裕香

1 ドキドキワクワクしました！　しかし、ラケルのような妖精を演じたことがなかったので、新しい役への挑戦に身が引き締まったのを覚えています。
2 最初見たときはラケルは女の子だと思いました！　かわいい！というのが最初の印象です。しっかり者の長男と聞いていたのですが、演じていくにつれ、恋して暴走したり、ダビィに教えてもらったことを人に自慢げに教えたり、しっかり者という印象は最後にはあまりなかったですね（笑）
3 妖精が4匹いたので、個性や役割をつかむまでが大変でした。作ってきたものや挑戦をすごく受け入れてくださるスタッフの皆さんだったので、もっともっと出すべきだったなぁという反省もあります。でも、そのときの自分の精一杯で体当たりで演じてきたので反省はあっても悔いはないです！　ラケルと歩んできた1年とても幸せでした。
4 本当にお疲れ様!!　トランプ王国を取り戻してくれてありがとう！　そしてこれからもよろしくケルーー!!!
5 「ヤマジ!!!」というイーラ・マーモ・ベールがダメージ受けるときに放つセリフです。ある日の台本（確かアイちゃんがいやいや期に入るあたりです！）に、演じているご本人の名前がベールのセリフになってる！　と現場で爆笑したのがきっかけで、どこにどう「ヤマジ」を入れこむかを話し合っているお三方がとても印象的でした！　3人のやり取りが毎回楽しくて先輩たちの遊び心もとても魅力のひとつになってる愛すべき敵キャラたちです！　ぜひ、「ヤマジ」を探してみてください♪
6 終わったとき、本当に本当にさみしかったんです。それは、1年間本当に楽しかった証拠で。『プリキュア』という作品の素晴らしさを、終わってみて改めて実感しました。キャストだけではなく、スタッフの皆様全員がプリキュアという作品を愛していて、それが10年も続いてきた理由なんですよね。その一員になれたこと。とても誇りに思います!!!
7 1年間応援ありがとうございました。『ドキドキ！プリキュア』は、家族の温かさ、家族の存在の大きさ、血のつながりも関係ない、共に生きる人との絆や愛の大きさを改めて感じる作品になっていると思います。『プリキュア』シリーズは続いていきますが、皆様の中に本作もどこかで生き続けているとうれしいな♪　1年間たくさんの愛をありがとうございました!!!

ダビィ 内山夕実

1 自分が学生の頃から観ていた、誰もが知っている『プリキュア』に出演することができるなんて夢のようで、決定の連絡をいただいたときは、狂喜乱舞しました！
2 本当、親バカですが……（笑）、とにかく、なんてかわいいんだー!!と思いました！　でも収録が進むにつれて、真琴を心から想っている姿に心を打たれました。
3 ダビィは、まこぴーのアイドルとしての活動を支えるために、DBというマネージャーの姿になるんですが、姿かたちは変わっても、真琴を想うダビィとしては変わらないので、切り替えながらも大切に演じました。
4 1年間本当にお疲れ様だビィ！　あなたたちに出逢えてたくさんの愛に触れることができて、本当に幸せだったビィ♡　これからも、みんなで仲よく愛にあふれた日々を送るビィ♡　大、大、大好きだビィ♡
5 さまざまなエピソードで、家族や友達の大切さをとっても感じました。そして、最後のほうのキングジコチューがマナたちの世界へ襲いに来てしまったときも、みんながジコチューになりかけながらも、ひとりひとりが助け合っている姿に胸を打たれました。アフレコ現場では、毎月バースデーを迎えられる方のためにお祝いをしたり、常に愛にあふれていました。
6 素直に言うと……とーってもさびしいです……。でも、それ以上に、こんなに愛にあふれた作品に、ダビィとして存在することができて、心から幸せに感じています。一生忘れることのできない幸せな経験をさせていただけてすべての人に感謝です。
7 『ドキドキ！プリキュア』には、出演させていただいた私も、本当にたくさんの元気や勇気をもらいましたし、人として忘れかけていたものを、また思い出させてもらったように感じています。どんなに些細なことでも、当たり前なんてことはない、たくさんの人の助けがあって今の自分がある……。1日1日を本当に大切に過ごしていこうと前向きになることができました。これからも、そんな素敵なプリキュアを末永く愛してくださるとうれしいです。1年間……本当に本当に……ありがとうございました。

アイちゃん 今井由香

1 これまで、『プリキュア』シリーズに出演させていただいてきましたが、今回はずっと演じてみたかった妖精役！　事務所から、合格との連絡をいただいたときは本当にうれしくて……そのとき、家にいたのですけど、思いっきり「やったー！」と、喜んでいました！
2 初めて、スタジオでキャラ表を見たとき、「かわいい！」の一言でした。この子を演じることができるんだ、と。もう、やっぱりうれしくて。感無量で、毎回の収録も私なりに楽しく演じていました。この、楽しい雰囲気が観ている方々にも伝わっていますように……と。アイちゃんは、マナたちと触れ合うことでいろんなことを覚えていきます。それは、赤ちゃんとしてもそうですが、私が演じていて一番感じたのは、マナたちからの愛情です。ドキドキな毎日を送っていました！
3 アイちゃんは、赤ちゃんだけれどあまりそれだけを意識せずに演じていました。マナたちからたくさんの愛をもらって、成長してゆくアイちゃんを、素直に演じることだけに努めていました！
4 「みんな、大好ききゅぴ！」と、言いたい！ 本当に、本当に大好きです！
5 変身シーンは、何度見ても飽きませんでした！　毎回、マナたちも、シャルルたちも……楽しそうに、幸せそうに変身セリフを言っていたので！　「きゅぴらっぱー！」と、亜久里の変身シーンに携われたこと、光栄に思います。本番中も、休憩中も、とても雰囲気がよくて。それぞれが、本当に楽しそうで……お互いに刺激を分け合えた。本当に、ドキドキな現場だったと思います！　もう、ほかにもたくさんの思い出があり過ぎて……ここでは伝えきれません（笑）。
6 最終回、それぞれの価値観は違うかもしれませんが……私は、『ドキドキ！プリキュア』らしかったと思います！　個性豊かな共演者の方々と、共に最後までやり抜けたこと。本当に幸せだったと思っています。あっという間の1年だった。そして、私を選んでくださった方、『ドキドキ！プリキュア』を生み出してくださった方々、そのドキドキを子どもたちに伝えてくださった方々、私たち演者に的確な演出をしてくださった方々に、感謝の気持ちで一杯です。
7 応援してくださったプリキュアファンの皆様！　本当にありがとうございました！　『ドキドキ』していただけたことと思います！　このドキドキを、いつまでも忘れないでくださいね！　アイちゃんを愛してくださって、『ドキドキ！プリキュア』を応援してくださって、ありがとう！

ジコチュートリオの皆さんへのQ

1プリキュアに出演すると決定したときの感想 2キャラクターの印象 3役作りで気をつけたこと 4印象的だったセリフやエピソード 5最終回まで終わっての感想 6『ドキドキ！プリキュア』のファンへのメッセージ

マーモ 田中敦子

1 スケジュールキープをいただいたまま、直前まで決定しなかったのでなかばあきらめかけていたため、とてもうれしかったです。
2 マーモは「美魔女」という設定だとうかがい、ちょっぴり照れましたが、美しいキャラクターにときめきました。回をかさねるごとに、美しいだけでなくお茶目な要素もたくさん盛り込まれるようになり、とても楽しく演じさせていただきました。
3 ベールの魔中年、イーラの美少年との3人トリオでしたので、常にバランスや関係性に気をつけていましたが、スタッフの方々も私たちのアドリブを受け入れてくださったので、のびのびと演じられたことを感謝しています。
4 一番印象的だったのは、何と言ってもキューティマダムとしてプリキュアに変身できたエピソードです。中学校に声優の職業講話の授業でうかがったとき、子どもたちから「マーモの声で日焼けどめ、日焼けどめ！　って言ってください!!」とせがまれ、感動しました。
5 1年間、国民的番組『ドキドキ！プリキュア』に参加できたことは本当に誇らしく、楽しかったです。あのキャストやスタッフさんと会えなくなってプシュケーが奪われたようにさびしいです（涙）。
6 プリキュアたちだけでなく、ジコチュートリオも愛してくださって、本当にありがとうございました。『ドキドキ！プリキュア』の思い出は一生忘れません。1万年後に、また必ずお会いしましょうね♡

イーラ 田中真弓

1 呼ばれてもいないのに、オーディションに乱入し、スタッフの皆さんのひんしゅくを買い、反省し、ちょっぴり落ち込んでいたので、お呼びがかかったときは、色々な意味でうれしかったです。
2 3 キャラクターを見たら、かなりの美少年で悪役だったので、あまり声をはらずに二枚目で演りたいなァと思っていたら、演出さんからは「イライラしてぶち切れる役なのではっちゃけてください」といわれ、とまどいました。が、だんだんと、二枚目っぽく演ることを許していただけたような気がします。
4 雷にうたれ記憶をなくし、自分の立場も名前も忘れて六花の家に世話になった回。
5 わかりやすい親子の愛・友達への愛……"ベタだな〜"と思いながら、幾度か涙しました。これが『プリキュア』の魅力なんですね〜!!
6 長い声優生活ですが、ほとんど少年アニメで、少女アニメに参加していませんでした。ふだんと同じ少年役ではありますが、悪役もはじめてで貴重な経験をさせていただきました。応援ありがとうございました。

ベール 山路和弘

1 『プリキュア』というものが還暦前の普通のオジさんにわかるわけもなく、ただただ「????」だった。
2 キャラクターの絵を見たとき、なぜスタッフは私の顔を知っているのか、と不審に思った。その頃私は白髪・長髪・サングラス好きのオヤジだった。その後、ベールは案外まぬけなキャラなのだとまた共通項を発見。
3 どんなまぬけなキャラのときも声はカッコつけて……と。
4 もう1回携帯電話やりたかったなぁ……。W田中女史が台詞で「ヤマジ」というのがとても恥ずかしかったが、最後には慣れてしまった……。おそろしい。あのふたりがいて幸せでした。♡です（女子のようです）。レジーナのセリフでオジさんはいつもスタジオのすみで涙してました。告白します。恥ずかしかった。やはり♡です（現場ニテ）。
5 終わりたくないぞー！「チュー」から戻してくれー！
6 オジさんも泣ける『ドキドキ！プリキュア』。これからもよろしく！ ヤマジーでした。

MOVIE GUIDE

ドキドキ！プリキュアは映画でも大活躍!!

『ドキドキ！プリキュア』はTVを飛び出して、映画のスクリーンでも輝いた！ 初出演作から最新作まで3作品を紹介！

『ドキドキ！プリキュア』の銀幕デビューは、2013年3月16日に公開された本作。妖精たちの集まる妖精学校のある世界を舞台に、第一作『ふたりはプリキュア』から『ドキドキ！プリキュア』のキュアエースを除く4人まで、全部で32人のプリキュアたちが揃った、豪華な映画だ！

物語は、妖精学校での講義から始まる。講義に登場するプリキュアに妖精みんなが憧れる中、生徒のひとり・グレルだけはその活躍をねたんでいた。その後、自分の心の影を映す「影水晶」から現れた〝影〟と行動するようになったグレルは、〝影〟にそそのかされて「プリキュアパーティ」の招待状を送ってプリキュアを呼び出す。妖精学校の教科書でプリキュアたちの技を知りつくしていた〝影〟は、プリキュアたちから変身アイテムを奪い、次々と彼女たちを水晶化させてしまう……。到着が遅れて水晶にならずにすんだ『ドキドキ！プリキュア』の4人は、〝影〟の暴走に怯えたグレルとその友達のエンエンから真実を聞き、プリキュアたちを救うため、〝影〟に立ち向かう！

プリキュアになったばかりの『ドキドキ！プリキュア』たちは、〝影〟との肉弾戦にもためらうことなくぶつかっていく！ そして、『スマイルプリキュア！』の5人や歴代プリキュアを救い出した彼女たちが、初々しくも凛々しく戦い、一生懸命頑張る姿から、勇気をもらった人もたくさんいたはず。現在は、Blu-rayとDVDが発売中なので、『ドキドキ！プリキュア』が初めて登場した映画の活躍を、改めてチェックしてみよう！

▲32人のプリキュアたちが力を合わせて放った決め技の威力は、どんな敵も倒しちゃうのだ！

▶キュアハートと『スマイルプリキュア！』のキュアハッピーは、妖精の国で会いたいと約束をかわす

PLAYBACK!!

http://www.toei-anim.co.jp/movie/2013_precure_allstars/

●2013年3月16日公開

●Blu-ray&DVD発売中。Blu-ray特装版:7,600円、DVD特装版:5,700円、DVD通常版:4,700円（各税別）
発売元:マーベラスAQL、販売元:TCエンタテインメント

■STAFF　監督／小川孝治　脚本／成田良美　オリジナルキャラクターデザイン／稲上晃、香川久、馬越嘉彦、川村敏江、高橋晃　キャラクターデザイン・総作画監督／青山充　美術監督／渡辺佳人　色彩設計／澤田豊二　製作担当／大町義則　アニメーション制作／東映アニメーション　主題歌／工藤真由＆黒沢ともよ＆吉田仁美「プリキュア～永遠のともだち～(2013Version)」テーマソング／黒沢ともよ＆吉田仁美「みんなともだち」

■CAST　相田マナ（キュアハート）／生天目仁美　菱川六花（キュアダイヤモンド）／寿美菜子　四葉ありす（キュアロゼッタ）／渕上舞　剣崎真琴（キュアソード）／宮本佳那子　星空みゆき（キュアハッピー）／福圓美里　日野あかね（キュアサニー）／田野アサミ　黄瀬やよい（キュアピース）／金元寿子　緑川なお（キュアマーチ）／井上麻里奈　青木れいか（キュアビューティ）／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　ほか

▲本編では、マナたちには招待状が届かず、結果としてそれがプリキュアたちを救った

▼プリキュアたちばかりがみんなから尊敬されていることが、グレルには気に入らない

▼「影水晶」から現れた"影"は、グレルが正しいと言い、プリキュアを退治しようと誘う

▲『スマイルプリキュア！』のキュアサニーとキュアピースも"影"を倒そうと全力で戦った

▶グレルたちが"影"の力に怯えだした頃には、"影"は自分勝手な行動をするように

◀助け出されたプリキュアたちは、全力で巨大な"影"に挑む！

▶キュアハートたちの技は、まだ教科書には載っていなかった！

▶グレル（中央左）は自分の行動を謝り、"影"に立ち向かった勇気をほめられる

PLAYBACK!!

●2013年10月26日公開
●Blu-ray&DVDは2014年3月19日発売。発売元:マーベラスAQL、販売元:TCエンタテインメント
Blu-ray特装版:7,600円、DVD特装版:5,700円、DVD通常版:4,700円（各税別）

http://precure-movie.com/
http://www.toei-anim.co.jp/movie/2013_precure/

■STAFF　監督／伊藤尚往　脚本／山口亮太　キャラクターデザイン／高橋晃、上野ケン　作画監督／上野ケン　美術設定／増田竜太郎　美術監督／倉橋隆　色彩設定／小日置知子　製作担当／額賀康彦　アニメーション制作／東映アニメーション　テーマソング／相田マナ・菱川六花・四葉ありす「たからもの」

▲プリキュアたちは未来の世界にも向かう。そこでマナの結婚式を見る!?

▲ウエディングドレスをもらったマナは大喜び！　でもまだ恋には興味がないみたい

みんなの未来はプリキュアが守る！

▲キュアソードは、平和なトランプ王国で王女様と過ごした穏やかな時間の思い出に浸る

▲幼なじみだったはずの六花とありすも、過去の世界ではまったく知らない者同士に……

▲おばあちゃんやマロといるのが楽しくて、マナは元の世界に戻りたがらない

『ドキドキ！プリキュア』単独の映画であり、キュアエースの銀幕デビューとなったのが本作。

おばあちゃんとママが着たウエディングドレスをもらったマナは、大はしゃぎ。ところが突然、オモイデの国の王・マシューが、人々から捨てられたモノの怒りや悲しみを思い知らせようと、マナたちの住む街を襲ってくる。マナたちはプリキュアに変身したものの、その攻撃はマシューには通じず、本当の過去とは少し違う過去の世界へと吸い込まれてしまう。小学４年生の世界で、亡くなったおばあちゃんや愛犬のマロとの毎日を楽しむマナ。そこには幼なじみの六花やありすの姿はなかったが、それでもマナは、幸せな思い出の中で過ごしたいと願い……。

キュアハートがひとりで敵に立ち向かい、キュアダイヤモンドとキュアロゼッタ、キュアソードとキュアエースがコンビを組んで戦う姿は、ＴＶシリーズとは違ったわくわく感を与えてくれる。過去の思い出と、その先にある未来の大切さを描いた本作。Ｂｌｕ-ｒａｙ&ＤＶＤで再確認しよう！

大人になった5人

ドレスを着ておめかしした5人。マナの結婚式の相手は、一体誰だったの!?

マナ

亜久里

真琴

ありす

六花

ベベル

(声／杉山佳寿子)

シャルルたちの前に現れた妖精。マシューのことを知っているみたいだが……。

坂東いすず

(声／杉山佳寿子)

マナのおばあちゃん。マナが小学生の頃に亡くなった。その声は誰かに似ている？

マロ

マナが小学生の頃に飼っていたペットの犬。マシュマロのように白くてふわふわしている。

▼過去の世界から抜け出したキュアハートたちは、マシューを止めるために戦う！

▲マナのことを知っているらしいマシューは、マナが自分を覚えていないことに激怒！

◀キュアハートたちは、ミラクルブーケライトとみんなの応援で未来に向かった

▼マロのブシュケーをもらって、パワーアップしたキュアハート。弓矢を使って、敵を撃ち抜く！

キュアハート
エンゲージモード！

プリキュアを襲う敵たち

マシューは、人々から捨てられ、忘れられていたモノに命を与えてプリキュアたちと戦った。

クジラ

マシューたちの乗り物。ボディーについたカメラで撮影して、人々を次々に吸い込む。

マシュー

(声／谷原章介)

マネキンカーマイン

(声／浅野まゆみ)

シルバークロック

(声／稲葉実)

パープルバギー

(声／江川央生)

映画(えいが)プリキュアオールスターズ New Stage(ニューステージ) 3 永遠(えいえん)のともだち

2014年3月15日公開!!

『NewStage』シリーズ3部作は本作で完結。総勢36人のプリキュアが大スクリーンに登場!

プリキュアオールスターズNewStageシリーズフィナーレ!!

　『映画プリキュアオールスターズNewStage』シリーズのフィナーレを飾る『映画プリキュアオールスターズNewStage3 永遠のともだち』は、2014年3月15日より全国ロードショー。『ふたりはプリキュア』から最新作『ハピネスチャージプリキュア!』のプリキュアたち、総勢36人が大集合する。さらに今回は、前々作『NewStage みらいのともだち』に登場したキュアエコー（坂上あゆみ）や、前作『NewStage2 こころのともだち』に登場した妖精のグレルやエンエンも再登場。『NewStage』シリーズの最後にふさわしく、出演キャラクターも豪華！

　物語は、妖精学校の教科書に記すために、新しくプリキュアになっためぐみとひめについてグレルとエンエンが調べに来るところから始まる。グレルとエンエンはまずマナたちの元を訪れ、めぐみとひめの妖精・リボンに連絡を取ってもらおうとする。めぐみとひめには簡単に会えると思ったら、突然子どもたちが眠り続ける事件が！

　しかも、その中にめぐみがいたから大変!! ひめとマナたちはめぐみを助けるために、夢の世界へと入っていく。

　ところが、夢の世界にグレルの友達で妖精のユメタと、ユメタのお母さんのマアムが現れて、キュアハートたちとめぐみ、ひめを夢の世界から追い出してしまう。困ったマナたちは、力を貸してもらおうとプリキュア全員に連絡を取り、子どもたちを助けるために、知恵を借りようとするのだが……。

　プリキュアたちは、無事に子どもたちを助けることができるのか。『ドキドキ！プリキュア』最後の勇姿を、劇場で見届けよう！

http://www.precure-allstars.com/

●2014年3月15日公開

■STAFF　原作／東堂いづみ　監督／小川孝治　脚本／成田良美　音楽／高梨康治　オリジナルキャラクターデザイン／稲上晃、香川久、馬越嘉彦、川村敏江、高橋晃、佐藤雅将　キャラクターデザイン・作画監督／青山充　美術監督／渡辺佳人　色彩設計／澤田豊二　製作担当／藤岡和実　アニメーション制作／東映アニメーション　OP主題歌／工藤真由、キュアハート（生天目仁美）、キュアラブリー（中島愛）「プリキュア～永遠のともだち～（2014Version）」　ED主題歌／キュアブラック（本名陽子）、キュアブルーム（樹元オリエ）、キュアドリーム（三瓶由布子）、キュアピーチ（沖佳苗）、キュアブロッサム（水樹奈々）、キュアメロディ（小清水亜美）、キュアハッピー（福圓美里）、キュアハート（生天目仁美）、キュアラブリー（中島愛）「プリキュア・メモリ（NewStage3 Version）」

■CAST　愛乃めぐみ（キュアラブリー）／中島愛　白雪ひめ（キュアプリンセス）／潘めぐみ　相田マナ（キュアハート）／生天目仁美　菱川六花（キュアダイヤモンド）／寿美菜子　四葉ありす（キュアロゼッタ）／渕上舞　剣崎真琴（キュアソード）／宮本佳那子　円亜久里（キュアエース）／釘宮理恵　ほか

▶困っている人を見ると放っておけないマナは、『New Stage3』でも大活躍！

◀プリキュアたちも普通の女の子。みんな将来叶えたい夢がたくさんある

妖精グレル&エンエン 坂上あゆみ(キュアエコー)も登場!!

▶グレルとエンエンもプリキュアの妖精に!? ユメタも自分の夢のために頑張る！

▼プリキュアたちはみんなで力を合わせて、強大な敵に立ち向かう！

ドキドキ！プリキュアの活躍は!?

ユメタがグレルとエンエンの友達であると知り、やっつけるのではなくて事情を知りたいとマナは申し出る。懐の広さを映画でも見せてくれるぞ！

永富大地プロデューサー INTERVIEW

『NewStage3 永遠のともだち』の見どころを、永富プロデューサーに教えてもらいました!

プリキュアたちが持つ夢を叶えるためにどうやって行動していくのかを子どもたちに見てほしい

――『NewStage』シリーズは今回でフィナーレということですが、本作のテーマを教えてください。

今回のテーマは「夢」と「ともだち」です。夢というのは寝ていて見る夢と、将来叶えたい夢の2種類がありますが、その両方を描いていきます。妖精・ユメタは、妖精学校を中退して、自分の夢を叶えようとしたのにうまくいかずに挫折してしまったキャラクターなんです。そんなユメタをお母さんのマアムは過保護なまでに守ろうとしてしまう。そんなマアムとプリキュアが激突して、ユメタがその間で揺れ動くことになります。

プリキュアたちも、たとえばマナなら総理大臣になりたいといったように、ちゃんと将来の夢を持っているんです。この映画では、その夢に彼女たちがどう向き合っているのかというのも見どころのひとつですね。観に来る子どもたちには、夢というのは、プリキュアたちのように努力して勝ち取るものなのだというメッセージも伝えたいですし、一緒に観に来てくれるお父さんやお母さんにも、幼い頃の夢を思い出してもらえたらうれしいと思っています。

――「ともだち」というのは『NewStage』シリーズのサブタイトルにもついてきた言葉ですね。

プリキュアにおいて「ともだち」というのは、こちらも2種類あるんです。まず、敵も「ともだち」であると思っているということ。プリキュアたちは、敵を倒して終わりというわけではなく、手をさしのべようとするんです。これはTVシリーズでも根底に流れているテーマですが、映画ではTVシリーズ以上に強くはっきりと描いていかなくてはいけないと思っています。そして、観に来る子どもたちにとってもプリキュアが「ともだち」であるということ。その気持ちが感じられる、そんな映画にしようと思って製作しました。

――『NewStage』の坂上あゆみ／キュアエコーを登場させることが決まったのはなぜですか？

彼女の登場は、前作、前々作のプロデューサーである梅澤（淳稔）が考えていたことです。とはいっても、彼女を出すだけではただの思い出話になってしまうし……と考えて、前作に登場してまだパートナーのいない妖精のグレル、エンエンとコンビを組ませることを、梅澤と共に考えました。『NewStage3』は、『NewStage』シリーズの集大成でもありますから、キュアエコーやグレル、エンエンの成長も描いていきたかったのです。

――今回もEDではCGのプリキュアたちがダンスを踊るのですか？

もちろんです。さらに、今回EDの歌を合唱にしていて、初代のキュアブラックと、各チームのピンクカラーのプリキュアに合唱してもらいました。『ハピネスチャージプリキュア！』の「プリキュア・メモリ」をEDとして採用しましたが、途中の歌詞を少し変えて、「マックスハート！」とか「スプラッシュスター！」といったかけ声も入っています。10周年にふさわしい、にぎやかで楽しい楽曲になっているので、ぜひ一緒に歌ってほしいです。

――今回は〝プリキュアを探せ!!　ポスタークイズ！〟という試みもありますね。

これも、観に来てくれた子どもたちに楽しんでほしいと思って始めました。実は映画館に貼られているポスターにだけ、あるプリキュアがふたり描かれているんです。上のチラシで使用されているイラストと見比べることで、映画を観る前から楽しんでもらえればと。

――『プリキュア』も今年で10周年となり、長いシリーズになってきました。

将来、母親になるであろう子どもたちが、この映画を観て何かしら感じてくれて、それを大人になっても持ち続けていてくれたら、と思って今回の映画は製作しています。スタッフが全身全霊を込めて最終章を飾るべく奮闘しました。その思いは劇場のスクリーンからも伝わると思いますので、大画面で36人の活躍を隅から隅までチェックしていただけたらと思います。

シリーズディレクター 古賀豪

女の子たちが憧れるようなプリキュア像を作っていきたかった

主人公はとにかく「器の大きな人間」に

――『ドキドキ!プリキュア』のシリーズディレクター（以下SD）を担当することになった経緯を教えてください。

柴田（宏明）プロデューサー（以下柴田P）に声をかけていただいたのがきっかけです。僕は女児ものはやらないと公言していたんですが、声がかかりました。その前に『ワンピース』で一緒に仕事をしていたので、そのご縁かなと。

――『ドキドキ!プリキュア』のテーマは「愛」だということですが、そのテーマはいつ決まっていたのでしょうか?

それはお話をいただいた時点で、柴田Pの中で決まっていたみたいです。柴田Pは「主人公を器の大きな人間にしたい」とおっしゃっていて、それなら女児ものがあまり得意ではない僕でも作れるかなと。これは僕の勝手な偏見なのですが、女児ものに登場するキャラクターたちは、些細なことでケンカをしてしまう印象があったんですね。僕自身は女児ものでも、大きな志を持った人間を描きたいと思っていたんです。話を聞くと、「敵は〝ジコチュー〟なんだ」ということで。それを聞いて、ジコチューと博愛の対比ができあがっていった感じですね。

――これまでのプリキュアは苦手なものもある、等身大の子というイメージがありましたが、『ドキドキ!プリキュア』はマナが生徒会長だったり、ありすがお金持ちのお嬢さまだったりと、飛び抜けたところがあったことに驚きました。これも「器の大きな人間」というところから発想されたのでしょうか?

そうですね。あと、『プリキュア』シリーズが低年齢層の子どもにシフトしすぎているのではないかというのが気になっていたんです。小学生になったら『プリキュア』は卒業しなくちゃ、と思われている気がして。僕としては、興味があれば小学生になっても、『プリキュア』を観られるようにしたかった。そこで、ターゲットにしている子たちが憧れるような女の子を主人公にしたんです。

これは、正直なところ賭けだったかなとも思っていました。でも、結果的に女の子には、キュアハートだけでなく、ありす／キュアロゼッタやキュアエースのような、お姫様然としたキャラクターも人気が出たので、結果オーライかなと。

――キュアエースは変身のときにお化粧をしますから、そこが大人っぽくて憧れたのかもしれませんね。

キュアエースに関しては、キュアハートたちよりもお姉さんなプリキュアですから、お姉さんが小さな子に色々教えてくれるというところを素敵だなぁと思ってくれたのかな。最初は、あとから出てきたのに「プリキュア5つの誓い!」とか偉そうに言い出すから、嫌われないかなと心配もしていたんですよ(笑)。でも、どうやら女の子は、言っているキュアエースの気持ちになってくれているようで。キュアエースごっこをしている子もいると聞いて、安心しました。

――それでいて、決して優等生とはいえないレジーナの人気が高かったというのも興味深いです。

レジーナは正義でもなければいい子でもない。でも、自分のやりたいことに素直に生きている。そこで、片割れのキュアエースとすみわけはできたと思っています。女の子に限らず、誰しもわがままにやってみたいじゃないですか（笑）。そこが受けたのでしょうね。

――確かに、わがままを言い続けても許される立場になってみたいですね（笑）。今回、ストーリーでは『プリキュア』らしさのようなものにこだわることなく製作されたのでしょうか。

いつも4人とか5人が一緒にわいわいやっているよりは、それぞれが自立したほうがいいと思っていましたので、当初は毎回全員出てこなくてもいいかなと考えていました。たとえば、マナとありすだけしか登場しないとか。冒頭はその影響もあって、3話と4話には真琴が出てこないし、ありすも1話だけ出てちょっと出てこなかったりしたんです。ありすだけ学校を別にしたのも、常に群れているわけではないという雰囲気を出したかったからなんです。

でも、実際にやってみると、やはり全員出てこないとさびしいんですよね。それに、もしもキュアソードが何回か続け

Profile

【こが・ごう】
11月20日生まれ。福岡県出身。アニメ演出家、監督。『劇場版ゲゲゲの鬼太郎 日本爆裂!!』の監督や、『祝！（ハピ☆ラキ）ビックリマン』のシリーズディレクターなどを務める。

て登場しなかったら、キュアソードを好きな子の期待を裏切ってしまうかなとも思ったので、できるだけ全員を出すようにと方向性を変更しました。

——ほかにSDとしてこだわられたところを教えてください。

相手の悪事をあげつらって責めてやっつける、といった主人公にはしないように気をつけました。それは、「器が大きい人間」というところにもつながるのだと思いますが、ずっと男児向けの作品をやってきたので、女児向けであまりバイオレンスなものはよくないだろうという意識が強かったんです。

それもあって、キュアハートは憎しみを持たないプリキュアとして描いています。彼女は変身シーンでも笑うし、決め技を放つときも笑顔なんですね。それは、敵を倒したいのではなく、助けたいと感じているから。各話の演出さんにも、戦いの際にキュアハートが敵を憎しみの目でにらむような子にはしないでくださいとお願いしましたし、浄化したあとで、プシュケーが消えてしまうのではなく、ちゃんと綺麗になって元の持ち主に戻るというところもしっかりと描くことに気を遣いました。キュアハートの決めゼリフが「取り戻してみせる」なのもそのためなんです。

マナの性格が物語を作り上げた

——『プリキュア』シリーズのプリキュア役は、毎回オーディションで選ばれているとうかがいました。『ドキドキ！プリキュア』のオーディションではどのような点を重視されましたか？

それぞれが自立、独立しているんだけど、仲が悪いわけではないという感じはほしいと思っていました。マナは、何よりもまず「包容力」のある声。六花はそんなマナに対して、「愛情のあるツッコミ」ができる人を。ありすは、見た目の印象からきゃぴきゃぴした子を連想しがちですが、彼女は彼女でマナ以上に「包容力」を持っているのではないかというイメージなので、少し落ち着いたところがある声で。そして、ソードには、突っ張ってはいるけれど「守ってあげたくなる」という雰囲気がほしいと。

これはすべてのキャラクターに言えることですが、表面に出ている部分だけでなく、その裏の柔らかさが出る声優の方を選んだつもりです。

——まず、マナの声優が最初に決まったのでしょうか？

そうです。マナは押しの強いキャラクターですから、一歩間違えると嫌みに聞こえてしまうんですね。それを抑えられる人であってほしいとは思っていました。セリフでも、彼女はジコチューを「〇〇さん」とさん付けで呼びますからね。そこからも、彼女がジコチューを憎むべき敵だと思っていないのを感じてもらえるように工夫しました。

とはいっても、行動的な主人公というのは、やはり欠点も色々あるわけです。それを表現したのが4話の回想です。あそこでは、マナはクラスメイトからうっとうしいと思われている。決して、すべての人がマナを好意的に受け入れているわけではない。それでもわかっていて行動するのがマナなんです、というところを描きたかったんです。

ちょっと大きな話になりますが、僕としては、いまの日本は行動する人の批判ばかりしているから元気がなくなってしまったと思っているんですね。でも、次の世代には頑張ってほしい。そういう思いもマナというキャラクターには込めたつもりです。

——六花はそんなマナの緩衝材的な役割を果たしていたように思います。

六花は、最初から視聴者と同じ目線に立っているキャラクターとして描きました。マナが非常識と思えるような行動を取っても、六花がツッコミを入れることで、視聴者との橋渡しをしてくれる。一番感情移入をしやすいということもあって、六花はかなり人気のキャラクターになったみたいです。

——六花が、マナと真琴が仲よくしている姿を見てもやもやしているところにも、等身大の中学生っぽさが現れていると感じました。

あれは、僕を含め男性スタッフにはわからない感情だったのですが、10話の脚本を担当した高橋ナツコさんが、「仲のいい女の子同士だと、あとからやってきた子と仲よくしている姿を見てもやもやするというのはあるわ！」と教えてくださって（笑）。

あそこでマナが六花のジェラシーに気づいて行動するという案もあったのですが、それをやるとマナの器が小さくなるような気がしたんですよね。だから、あえてマナは六花のもやもやした気持ちには気づかないままなんです。

——マナと六花の間に、レジーナが加わることによって、三角関係の様相も呈してきましたが。

三角関係にしようと思っていたわけではありませんが、マナは誰からも愛される人気者だというのは表現したいと思っていました。彼女が起こした行動によっていい結果が生まれて、ゆえに彼女はみんなに好かれるんだと。レジーナや真琴もそうですが、メインキャラクターだけに限らず、同級生や後輩からも慕われていることからも、マナの愛されっぷりはわかるようにしたつもりです。

『ドキドキ！プリキュア』というのは、マナがひとりで頑張りました、というお話ではないんです。リーダーではあるけれど、彼女がいい影響を与えたことで、みんなが頑張るようになるんだよ、という姿を描いていきたかったんです。

——また、プリキュアの正体が、どんどんバレていくというのが衝撃的でした。

意図的にバラすプリキュアを作ろうとしたわけではなく、マナの性格を考えたらああなってしまったというか。

最初は、これまでのシリーズを踏襲して、バレないようにしようというお話も考えていたんです。でも、マナだったら昔からの大切な幼なじみに隠しごとはしないだろうなと思い至って、2話で六花に「私、プリキュアになったの」って言ってしまったんです（笑）。48話で、キュアハートの姿なのに、「大貝第一中学生徒会長、相田マナよ！」と叫んでしまうところにも、その"隠さない精神"が現れている感じですね。

妖精も敵も愛されるキャラクターに

——キュアエースが途中で参加するというのは、製作段階の最初の時点でもう決まっていたのでしょうか？

5人目を出してほしいという要望は、最初からありましたね。設定に関してはその当時ははっきりと決まってはいませんでしたが。

——キュアエースは、小学生の亜久里が

マナの影響があって みんなが頑張れるように

変身して大人になるということに驚きました。

キュアエースが登場する時点で、プリキュアが4人、妖精が4人、そしてアイちゃんもいるわけですから、普通に登場するだけでは埋没してしまうんですよね。ですから、まずはしっかりとキャラクターを立たせたいということもありました。

――決め技での「ばきゅーん♥」もかなりインパクトがあって。

あれは、シリーズ構成の山口（亮太）さんが作ってきてくれた技名の中にあったんです。見た瞬間から、「ばきゅーん♥」を生かした決め技にしましょうということで決定しました（笑）。

――キュアエースに関しては、変身シーンもほかの4人とは違って大人っぽさが感じられましたね。

小さな子どもから大きな大人になるのを、どう見せるかというのは考えて。情熱的に指導する先輩ですから、ここは熱血の炎で表そうということになりました。バラが散り、火の粉が花びらに変わっていくシーンは、カッコいいですよね。

――ほかの4人の変身シーンではどのようなことにこだわられたのですか？

女児ものなので、可憐にかわいらしくというのは意識しました。キュアハートとキュアダイヤモンドは、どこかにストライプを入れたいと思っていたので、変身シーンの途中で登場するリボンがストライプになっています。

――歴代のプリキュアは途中でパワーアップするとコスチュームや髪形が変わることも多かったのですが、『ドキドキ！プリキュア』では、そこまで大きな変化はありませんでしたね。

僕としては、変身後のコスチュームはデザインとして完成していると思ったので、変化させる必要性がないと感じましたし、それでほかのスタッフの承諾も取れたので、エンジェルモードで羽根が生えるというところに留まりました。

――今回は、プリキュアひとりに妖精がひとりずつついていましたが、どの子も幼い印象がありました。

これは、プリキュアたちを子どもたちが憧れられる優等生にした結果ですね。妖精をプリキュアの「導き手」にするということは、プリキュアよりも大人っぽくするということです。そこまでくるともう子どもたちが興味を持てる範囲を超えてしまうのではないかと考えました。だから、妖精たちは子どもたちに近い目線で、プリキュアと一緒に頑張っているという感じがいいかなと。

――ダビィだけが大人っぽいキャラクターだったのは？

当初、真琴／キュアソードの仲間入りは放送が始まってから半年後くらいを考えていたんです。それまでは、謎のヒーローとしてダビィとコンビを組んで活躍していると。そうすると、ほかの妖精のように子どもっぽくてはつとまらないので、大人のスタイルを取らせていました。ただ、放送開始後、1か月ほどで公開される『映画プリキュアオールスターズNewStage2 こころのともだち』までには、キュアハートたちに合流していてほしいという要望がありまして（笑）、設定は生かしたままになったんです。

――敵キャラクターも魅力的でした。

敵側も愛敬のあるキャラクターにしたかったんですよね。ジコチューではあるんですが、わがままなだけでどこか憎めない。最初にお話しした通り、マナは憎しみでジコチューたちと対峙はしないので、ものすごく憎まなくてはならなくなるようなキャラクターにはしたくなかったんです。

実際に作ってみてわかったのですが、キングジコチューにしてもプロトジコチューにしても、自分の思いどおりにしたいだけなので、基本的には「せこい」んですよ（笑）。ベールだけが「元に戻せ！」とは思っていると思いますが、イーラやマーモも、最終的には「ちえっ」って思っているくらいなんじゃないかな。そういう、根に持ったりしないところが愛されるキャラクターにつながったのかなとも思います。

――キングジコチューの娘であるレジーナも、結局はマナを独り占めにしたい！という独占欲が前に出ていました。

当初はそうでしたね。でも、彼女の生い立ちを知ったら、マナは放っておけなくなるだろうなと思ってはいました。その結果、周囲から愛されているマナが、レジーナを追いかけていくような展開になったのです。

学校が木造なのは マナが下町っ子だから!?

――美術に関してもおうかがいしたいのですが、マナたちが通う大貝第一中学校は校舎が木造でしたよね。マナの家である「ぶたのしっぽ」もクラシカルな雰囲気で、あえて近代的ではないようにしているのかなと感じたのですが。

全体的に、ちょっとレトロっぽい感じになっていますね。そこにもまず、マナという女の子が、あんな風に育つにはどういう環境だったんだろうと考えたんです。そこで思いついたのが、下町っ子なんじゃないかということで。町中のみんなから「おかえりー」とか「おはようマナちゃん！」みたいに話しかけられていたのではないかと。でも、ふと女児は下町が舞台で喜ぶんだろうかと考えてしまって（笑）。レトロな雰囲気と人間味を感じる雰囲気を残すために木造にして、外観などはおしゃれにしました。

ジョーの店が「アンティークのお店」になったのも、その流れですね。

――それでいて古いだけではなく、クローバータワーのような建物もあって。

クローバータワーは新しい建物ですが、僕は定規で線を引いたような、かっちりとした建物が好きではないので、あえて柔らかい感じを残しました。四葉財閥のお屋敷は、ヨーロピアンな雰囲気でレトロさも感じられる、いい建物になったのではないかと思います。

どんなピンチでも マナは切り抜けていく

――製作されていく中で、印象的だったエピソードを教えてください。

そうですね……どれももちろん印象には残っているのですが、最初の頃だと7話でピンチになったときにマナが笑い出したところでしょうか。あの頃は、まだマナはどうするだろうと試行錯誤をしていた時期だったのですが、マナは普通の人が思うような行動はしないだろう。じゃあどうするか……と考えて「笑うんじゃないか！」と（笑）。このあたりから、製作陣もマナのキャラクターをしっかりとつかめるようになってきましたね。21話でレジーナを助けようとしていた

ところで「私を誰だと思ってるの！」と名乗りを上げるのも、その流れです。一瞬にして空気を変えられる、それがマナのすごさなんです。ピンチになると視野が狭くなってしまうところを、マナは常にいつもと同じ広い視野で見て、思いもよらぬ解決法を導き出すという。そういう面白さが出るといいかなと。

――そう考えてみると、マナは常に「やるったらやる」、「できるったらできる」といった自信があった感じがします。

それが顕著なのが、21話ですね。マナを助けるために、自ら火口に落ちていこうとするレジーナを「蟹挟み」で止めるという（笑）。いざとなったらなりふりかまわず必死になるあたりも、マナらしいところです。

そんな自信があったから、最終回があいう終わり方をしたんですよ（笑）。最初は、まこぴーがお別れコンサートを開いて、妖精とまこぴーはトランプ王国に戻っていくというプランもあったんです。もう地球に戻ることもできなくて、まこぴーが「さようなら」と言いながら光の中へ消えていき、みんながそれを涙で見送る、みたいな。でも、それはマナっぽくない。マナなら、新しい世界を作り上げちゃうんじゃないか!? きっと笑顔で終わるだろう！ と。

レジーナと亜久里が合体して、どちらかが消滅するというのも、もちろん考えていた案でした。でも、それはマナが許すはずがないだろうと。それで結局ふたりとも残りました。この先はアイちゃんを含め、普通に成長していくと思いますよ。

――本当であれば、王女様も救いたかったのではないでしょうか?

そう思います。ただ、王女様を救うとアイちゃんもレジーナも、亜久里も消えてしまう可能性が高いですからね。

――振り返って考えると、マナは自分の思いを貫き通すという意味で、かなりのジコチューですね（笑）。

そうですね。僕としては、ジコチューであることを否定するつもりはないんです。マナが誰かのために親切にしたいという思いだって、人によってはジコチューととらえられますからね。

日常のお話をスピンオフで描きたい

――今回のシリーズではできなかったけれど、これはやってみたかったということはありますか?

季節の行事のエピソードを作って、彼女たちがどういうリアクションをするのかというのは描いてみたかったですね。今回は、ストーリー性を重視したかったこともあって、あまり1話完結の話を作ってこなかったんです。ですから、可能ならスピンオフで、戦いのない彼女たちの日常を描いてみたかった。「ありすの1日」だけでも1本作れそうですし。「レジーナの学校での1日」というのも面白そうですよね。レジーナは果たしてどうやって学校に通っているのか。授業はちゃんと受けられるのか。彼女の性格だと10時にはお弁当を食べていそうですし、マナとクラスが別れれば用もないのに乱入してきそうですし（笑）。

あとは、マナの恋の話ですかね。あのマナが好きになる男ってどんな男だろうという疑問があったので。後輩の早乙女純との恋愛話も考えたのですが、彼にマナが惚れるかなぁと考えたら、いやないだろうと（笑）。実はありすにはお兄さんがいるという設定があって、マナが彼を好きになるという案もありました。ありすの兄はマナもかなわないような元生徒会長で優秀なんだけど、四葉家を継ぐのも嫌で、今は出て行ってしまっている無頼派な感じで（笑）。ただ、誰かひとりに恋をするエピソードを描いてしまうと、マナの「博愛」というキャラクターにブレが出ちゃう気がして、エピソードごとバッサリカットしてしまいましたが（笑）。

――それは見てみたかった……。ほかのキャラクターで恋の話の案は出なかったのですか?

ありすだと相手をどこかの国の王様ぐらいにしないと落ち着かないし、まこぴーは恋している場合じゃないし（笑）。結果、六花だったのかなという感じですね。六花とイーラの関係は、4話でのイーラとマーモの「ふわっとしてキラキラしてやがって」「あら、惚れたの?」というやりとりがきっかけです。

――最終回の六花を見ていると、イーラとはまたひょっこり会えるくらいに思っていそうな雰囲気がありました。

おそらく、六花はそう思っているでしょうね。六花にはイーラに対する恋愛感情はないと思うんですが、もうちょっと進展させるという案もあるにはありましたよ。でも、それは『プリキュア』としてやりすぎだろうと（笑）。

――真琴は、「王女様を助ける」という目的は達成できずに終わってしまいましたが、本人は納得しているのでしょうか。

お別れしていたところでは、相当ショックを受けていたと思いますが、マナがずっと一緒にいてくれたので、その後のコンサートシーンでは立ち直っています。

王女が守ろうとしたトランプ王国も復活したし、王様にしろ、レジーナにしろ、亜久里にしろ、王女への思いを胸に抱きつつ生きていくわけですから、真琴もきっとみんなと一緒に王女の思い出を胸に秘めつつ、生きていくんじゃないかと。

――最終回でもマナたちがプリキュアを辞めずに活動していましたね。

これもマナならではですね。彼女であれば、プリキュアとして活動し続けますって言っちゃうだろうと。無理に普通の女の子に戻す必要性がないので、戻さなかっただけなんです。

プロトジコチューを倒したマナたちが、その後どうするのかと考えたら、ありすは四葉財閥の活動をやり、六花は医者になるために勉強し、まこぴーは歌手を続けるでしょう。で、そのときマナは何をめざすか!? といったら、世の中の人々を笑顔にする、という意味で、あれぐらいでいいのかなと。

――その流れでいくと、亜久里とレジーナは将来何になるんですか?

亜久里はパティシエになる、という案がありましたね。レジーナは……未知数ですね。ずっとマナを追いかけるのか、それとも卒業して、なにかとんでもないことをやらかそうとするのか。最終回の後は、王様と一緒に住んでいると思うんですけど、とりあえずは王様を困らせる毎日を過ごしているのではないでしょうか（笑）。

――ちなみに、アイちゃんはこの先普通の赤ちゃんと同じように成長していくのでしょうか?

劇中でも言葉を話すようになりましたから、成長しますよ。王女の赤ちゃん時代とアイちゃんでは、顔立ちが大分違いますから将来的に王女様そっくりにはならないと思いますが、もしかしたらジョーは彼女が王女様のようになることを期待しているかもしれませんね（笑）。

先ほどお話しした「ありすの1日」や「レジーナの学校での1日」などを含め、とにかくキャラクターは立っていますから、スピンオフ作品を作りたいですね。

――期待しています（笑）。では、最後に読者にメッセージをお願いします!

最近は、1年かけてアニメを作るということもあまりなくなってしまいましたが、改めてこうして製作に携わることができて、とても楽しかったです。ありがとうございました。

世界中の人を笑顔にするためにプリキュアたちは戦い続けます

敵とですらリンクでき、わかりあえるというテーマを描けたことがうれしい

シリーズ構成 山口亮太

Profile

【やまぐち・りょうた】
3月2日生まれ。東京都出身。脚本家。サンライズの設定制作を経て、脚本家デビュー。主なアニメの担当作品は、『デジモンセイバーズ』、『青の祓魔師（エクソシスト）』（ともにシリーズ構成）など。

「愛」が広がっていく世界を描けたら

——今回、『ドキドキ！プリキュア』のシリーズ構成を担当することになった経緯を教えてください。

柴田宏明プロデューサー（以下柴田P）とは、以前『デジモンセイバーズ』でご一緒させていただいたことがあって、そのご縁で声をかけていただきました。

その段階で、テーマを「愛」でいきたいということと、今回は敵をジコチューにしたいということは決まっていました。でも、「愛」というのはすごく大きなものなので、どんな「愛」を描いていくのかを、スタッフで打ち合わせをして決めていきました。マナたちの変身時のかけ声「ラブリンク」というのが、結果として作品のキーワードにもなったと思います。マナの「愛」が輪になって世界に広がっていくイメージです。

——マナという名前は、漢字だと「愛」と書くことができますね。

そうです。今回、プリキュア5人の本名に関しては、僕に一任されていまして。元々は「相田愛」と漢字で書くつもりだったのですが、子どもたちには読みづらいかもしれない、という意見もあり、カタカナになりました。

——歴代のシリーズでは、実際には漢字で書くけれど、表記はひらがなになっていることがあったのですが、『ドキドキ！プリキュア』では六花や真琴と、漢字のままの表記が多かったですね。

特に歴代のシリーズを意識して漢字表記にしたわけではありません。真琴に関しては漢字の持つ印象が気にいっていたんです。彼女はアイドルということもあって、音楽に関係のある「琴」という字を残しておきたかった。

六花は、元々はキュアダイヤモンドという名前からダイヤモンドダストを連想しまして。「雪の結晶」という意味を持つ六花を採用したんです。

亜久里は、レジーナのアナグラムです。「REGINA」の順番を入れ替えて、「ENAGRI」＝「円亜久里」になる。レジーナはラテン語で「女王」を意味する言葉なので、早くからふたりの関係に気づいた人はいるんじゃないかな？

——ありすも由来があるのでしょうか？

『ドキドキ！プリキュア』は、マナの『幸せの王子』や、亜久里が竹やぶで見つかるところに『かぐや姫』を思わせるエピソードを盛り込むなど、童話をイメージさせる描写を多く盛り込みました。また本作はトランプがモチーフということもあって、ありすは『不思議の国のアリス』から名前をもらいました。

——そんな彼女たちは、生徒会長であったり、お嬢様であったりと、優等生的な子でした。

確か、高橋（晃）さんのイラストとほぼ同時にキャラクターの設定も進行していたはずなのですが、高橋さんのイラストを見たときに、おっちょこちょいとか泣き虫とか、そういうイメージがまったく浮かばなかったんです。むしろそういう子は敵として出てきたほうが面白いんじゃないかという話はしていました。もちろん、そういう子を主人公にして視聴者が応援したくなるという作劇方法もありますが、今回は小さい女の子が観て憧れる存在として描きたかったのです。

マナが生徒会長になったのはありすの兄の影響!?

——2話でさっそくマナが、自分がプリキュアであることをバラしてしまうという展開には意表を突かれました。

そもそも、なぜヒーローの正体がバレたらいけないのかという部分をこの作品の中で定義しておきたかったからです。「リアルに突き詰めた時にいろいろ面倒くさいから」隠すことが多いんだけど（笑）、家族や友人を戦いに巻き込むことになるから、と言われれば少なくとも自分は納得できるかなと。どうせラストバトルは地球規模の戦いになるだろうし（笑）、そうなれば、巻き込む云々言っていられなくなりますから。

——48話で「大貝第一中学生徒会長、相

田マナよ！」と名乗ることも織り込み済みだったのですね。ところで、マナはなぜ、生徒会長になったのでしょう？

ありすの兄・ヒロミチに、生徒会長になることを薦められたからです。

——えっ、ありすのお兄さん!?

年がら年中旅に出ているような放蕩息子です。４話を見ていただければわかると思いますが、昔のマナは人の役に立ちたいという気持ちが強すぎてちょっと空回り気味でした。そんなマナを見かねて、元大貝第一中学校の生徒会長だったヒロミチがアドバイスをしたのです。大っぴらに人助けをしたいなら肩書きが必要だよってね。マナがプリキュアになった理由もその延長線上ですね。自分のせいでピンチに陥ったキュアソードを助けるための「力」が必要だったからです。

——そんな裏話があったなんて驚きです。ちなみに、ありすママの名前は？

四葉祥子です。

——マナ、六花、ありすの幼なじみ３人の関係性も素敵でした。

マナは文武両道の優等生ですが、しっかり手綱を握ってくれる常識人の六花がそばにいないとダメなんです。ありすは、そんなふたりが大好きで温かく見守っているイメージです。

——そんなマナたちには、ひとりにひとり妖精がついていました。

それぞれ個性が出せて楽しかったです。特にシャルルたちが人間になる29話は、弟や妹が増えたような感じで収録現場も盛り上がっていたようです。

——ランスは毒舌家でしたね（笑）。

最初の構想では、ありすは「パンがなければケーキを食べればいいじゃない」って言っちゃうような天然のお嬢様だったのですが、その毒の部分をランスが見事に引き継いでくれました。幼いがゆえににじみ出る言葉の暴力ですね、あれは。

——ラケルには、恋の話もありましたし、妖精たちの活躍も目立ちましたよね。

元々36話の話がやりたくて構成していたのですが、柴田Pから「妖精の話、面白いからもっとやろう」と言われまして（笑）、１本増やしたくらいですからね。

——六花は六花で、イーラとちょっといい雰囲気になったりして。

４話でフラグを立てたのに、ふたりの仲がちっとも進展しなかったので、26話で思い切ってふたりにスポットを当てたのです。そうしたら今度は思った以上に反響が大きくて（笑）。レジーナとの対比の意味も含めて、最初は、イーラが六花をかばって死ぬぐらいのことまで考えていたんです。でも、その一瞬は盛り上がるかも知れないけど、観ている人は誰も喜ばないんじゃないかと。悲劇として心に残るかもしれないけど、キャラクターを愛してくれた人に対して不誠実なのではないかと思い直して、最終回のようなふたりの別離になりました。

——妖精の話に戻りますが、ダビィはシャルルたちほかの妖精と比べるとしっかり者ですよね。

ここまで頼りになる、大人な妖精もなかなかいないのではないでしょうか。彼女は人間の姿のときには、ちゃんと真琴のマネージャーを務めていますからね。『映画ドキドキ！プリキュア マナ結婚!!?未来につなぐ希望のドレス！』では、人間の姿のままで戦闘シーンもありましたし。それでいて、妖精の姿のときはシャルルと張り合っちゃう子どもっぽさもある。真琴が正体を明かした6話でDBから妖精の姿になるんですが、真琴の正体よりもDBの正体に驚いている人の方が多かったみたいで、そこだけはちょっと失敗だったかなと反省しています。

——先ほど六花の恋の話についてうかがいましたが、当初はジョー岡田とマナがいい雰囲気になるのかと思いました。

ジョーの名前は、「ジョーカー」をイメージさせるように考えました。ちょっと謎めいた雰囲気も出ますし、物語のキーパーソンとしてもいいかなと。彼に関しては、11話でマナをかばってケガをするんですが、そこでマナとの恋も描こうと思っていたんですよ。でも、女性のプロデューサーから「ない」って言われてしまって（笑）。でも、それでよかったんだと思います。彼の独特の雰囲気がなければ、後半のテーマはもっと重苦しいものになっていたでしょうから。

決め技の叫びはコンパクトながらキャッチーに

——『プリキュア』と言えば、変身の名乗りや決め技にも特徴がありますよね。今回は名乗りの部分がギュッと凝縮していた印象があります。

今までのシリーズで、名乗りの部分はだんだん長くなってきていた印象があったので、一度リセットしようということになりまして。子どもにもわかりやすい言葉で言いやすいものであることを念頭に置いて考えました。

——それは決め技に関しても？

そうですね。『映画プリキュアオールスターズ』シリーズを観ていただくとよくわかるんですが、プリキュアがそれぞれ決め技を叫ぶと、それだけでかなり時間がかかっているんですよ（笑）。ですからなるべくコンパクトに、でもキャッチーなものにしようと意識しました。

——中でも特にキュアエースの「ばきゅーん♥」はインパクトが大きかったです。

意外に思うかも知れませんが、元ネタは南海キャンディーズのしずちゃんです。「バーン♥」と銃を撃つあのポーズを、キュアエースのような、ものすごく真面目な子が言ったら面白いんじゃないかと。釘宮（理恵）さんならではのキュートな演技とマッチしていて、とても愛らしく仕上がったと感じています。

登場していない敵とプリキュアがいる!?

——レジーナとジコチュートリオという敵も、みんな個性的でしたね。

レジーナに関しては、敵の女の子で、ちょっと意地悪な子を出したいという話がスタッフ内でありまして。一方で、５人目のプリキュアを出してくださいという要望もあり。レジーナがプリキュアになれば問題は解決するのですが、そのパターンは過去のシリーズでやったので、今回は違う形にしましょうということであのような形になりました。

最初はレジーナの描き方自体、非常に悩みました。敵の女の子がプリキュアにちょっかいを出してくるだけならまだいいのですが、今回は直接の被害者である

次に引き継ぐ作品にできたことが本当によかったなぁと思います

キュアソードが仲間にいる。言いかえれば「凶悪犯罪者の娘を許せるか否か」みたいな難しいテーマに踏み込まなくてはいけなくなるわけです。違う、そうじゃないんだ。これはアン王女とトランプ王国の王様の愛と葛藤のドラマなんだと気づいたときは正直ホッとしました。

——レジーナも、子どもたちに人気があったんですよね。

自由奔放でわがまま放題、本音もズバッと言うけど、憎めない。憧れる子がいるのも当然ですよね。

——自分のやりたいことに素直すぎて、レジーナがマナに近づいたときは、六花がもやもやしていましたが。

子どもたちが友達を取り合うノリですね。

——マナが簡単に「愛してる」とか言っちゃうから誤解を招くんですね。

誤解ってなんだ、誤解って（汗）。そもそも、マナの「愛してる」というのは、新日本プロレスの棚橋弘至選手が、リング上で「愛してま〜す」というのと同じノリだからね？　もっとグローバルな博愛の精神だから!!

——わかりました（笑）。一方、ジコチュートリオの組み合わせも面白いですね。

敵の幹部を『タイムボカン』シリーズの悪玉トリオのような憎めないキャラクターにしてほしいと古賀（豪）シリーズディレクターから言われていまして。最初は『CSI：マイアミ』のホレイショ・ケイン、『24』のジャック・バウアー、そして『相棒』の杉下右京みたいな中年3人組にしようかと思っていたのですが、それでは子どもは喜ばないと言われ（笑）、魔少年、美魔女、魔中年のトリオになったんです。

——リーヴァとグーラはどういった流れで生まれたのでしょうか？

キュアエースが登場するタイミングで敵もパワーアップしないと、ということで急遽、登場しました（笑）。ジコチューは七つの大罪をモチーフにしているので、実は残りふたりいるんですよ。46話にシルエットだけ登場しています。憤怒がイーラ、強欲がマーモ、怠惰がベール、嫉妬がリーヴァ、暴食がグーラ。登場しなかったふたりは、色欲のルストに、傲慢のゴーマです。

——ゴーマだけ日本語なんですが……。

何か、問題でも？

——右京さんぽく言うのやめてください。それで、ルストとゴーマはどこに行ったのでしょうか？

トランプ王国攻略の折に、王国を守護するプリキュアたち……キュアソードの先輩ですね。彼女たちと戦って刺し違えたという設定になっています。

——かなりハードなんですね。

真琴がキュアソードに任命されたのが王国崩壊から1か月ぐらい前のスパンです。真琴と先輩プリキュアたちとの間に面識はほとんどない状態だったので割愛しました。

——1万年前のプリキュアたちは？

彼女たちの名前はタロットカードをモチーフにしています。鏡使いがキュアエンプレス、槍使いがキュアマジシャン、王冠使いがキュアプリーステスです

声優陣とプリキュアのリンク率が高い！

——最終回では、アン王女は戻ってこなかったわけですが、真琴としてはどんな思いだったのでしょうか？

王女自身の願いとして、王国の混乱を収めたいという思いは強くあったはずです。最終的にその思いは叶えているので、真琴自身も何かしらの達成感はあると思います。悲しくないはずはありませんが、少しずつ折り合いをつけていくと思いますよ。なにより、王女様と別れた頃と違い、いまはマナや六花、ありすや亜久里という素敵な仲間がいますから。

——真琴は最後の「こっちの世界の人たちって、どうして一緒に歌おうとするんだろう」というセリフも印象的でしたね。

あれは元々オーディションの段階から用意していたセリフなんです。すべてが終わって、真琴がこの1年を振り返ったときに絶対言うだろうと思って。あのセリフを一番自然に言えたのが宮本（佳那子）さんだったんだと思います。

——オーディションには立ち会ったのですか？

立ち会いました。今回の声優陣は、バランス重視で選ばれた印象がありますね。センターのマナ役に生天目（仁美）さんを据えたときに、ほかの皆さんのバランスがすごくよかった。キャラクターとのマッチングが素晴らしかったと思います。

——誕生日のエピソードもありましたね。

『プリキュア』シリーズは、同じ誕生日の子はうれしいけれど、違う子は楽しくないという理由で、あまり誕生日を積極的に決めていなかったらしいんです。でも、今回はお話の都合上、どうしても決めなくてはならなくなって。マナはリーダーっぽいしみんなを引っ張っていってくれそうだからしし座だろうと思って誕生日を調べたら、なんと生天目さんがしし座で。まこぴーは、見た目はクールだけど情熱を秘めてるからさそり座だろうと思っていたら宮本さんがさそり座で。なんなんだ、このリンク率は、と（笑）。

——それで、六花とありすの誕生日も寿さん、渕上さんと一緒なんですね。

そうです。ここまで声優陣とキャラクターが一致するのは本当に珍しい。

——改めて、1年という長いスパンの物語を作られてきて、終わってみての感想を教えてください。

やはり、10年続いているシリーズですから、次につなぐことができたのが本当に喜ばしいことだと思っています。

作品としては、とにかくマナに引っ張ってもらいました。彼女たちに、ありがとうとお疲れさまを言いたいです。

前作『スマイルプリキュア！』の最終回が涙涙の盛り上がりだったので、そうではない終わり方も提示しましょうと。じゃあどうしようと考えた結果、トランプ王国との輪が途切れずに続いていくという形になりました。

作品を通して、最初に考えていた「愛の輪」は描けたと思います。友達や家族はもちろん、敵とですらリンクでき、わかりあえるというテーマを描けたことがうれしかったです。

Staff Interview 3

キャラクターデザイン

高橋晃

とがったところのない、丸っこい雰囲気のキャラクターにしたかった

女の子たちのぷにぷにした感じを出したい

——高橋さんは、『スイートプリキュア♪』（2011年〜2012年放送）でもキャラクターデザインを担当されていましたが、今回2回目ということで『スイートプリキュア♪』とはどう変えようと考えられましたか？

『スイートプリキュア♪』は、シャープというか線が細かったりキラキラしたりしたイメージで描いたので、今回はちょっと丸っこい雰囲気を出したいなと思いました。女の子たちのぷにぷにした感じといいますか（笑）。たとえば、ほっぺたを押したら戻ってくるような、そんな弾力のあるイメージです。髪の丸い部分も、とんがった部分を作らないようにという気持ちが強く出ています。

　個人的には、『スイート』のようにシャープなほうが描きやすくはあります。でも、やはり一度やっていて二度同じものは出せませんし、「また高橋かよ」と思われるのも嫌で（笑）。最初にメインビジュアルが発表されたときに、誰が描いているのかわからないくらいに違うものにしたいと思いましたね。

——各キャラクターの性格などは、高橋さんがラフを考える段階でだいたい決まっていたのでしょうか。

　ほぼ同時進行だったとは思いますが、マナは生徒会長で、包容力のある感じというところまでは決まっていたと思います。「あんたなんかダメ！」と言わない感じのリーダーなのだと。それを意識しているので、マナは目元がやさしい感じになりました。

　マナを基準に、全員同じ目では面白くないからと考えていきました。ありすが一番丸っこくて、マナ、真琴、六花の順でつり目になっていきます。体形的には、ありすが少しもぶくれのイメージで（笑）、一番スレンダーなのは真琴になりますね。

——ありすのぽっちゃりした雰囲気からも、お嬢さまっぽさが感じられますね（笑）。変身後には髪の色も大きく変わりますが、色はどのように決まったのでしょうか？

　髪の色が変わるのは、柴田Pの意向でした。ちなみに、変身前のマナの髪は、柴田Pも古賀SDも、元々は茶色いイメージだったみたいなんですね。でも、色指定の方に指定していただいた結果、ピンクになってきて。それがバッチリあっていたんですよね。それから、変身後、差し色としてメインカラー以外の色が入っているのも柴田Pの意見でした。

——変身後のコスチュームが、左右非対称だったのも印象的でした。

　正直、アニメーターとしては、左右非対称というのは面倒なのですが（笑）、異世界のものは地球のものとは違うとひと目でわかるようにしたいなと思いまして。

　それから、『ドキドキ！プリキュア』はトランプがモチーフということで、どこかにトランプっぽさは残しておきたいと考えていました。よく見ると、キュアハートの髪形の一部にはハートの形が入っていますし、キュアソードの後頭部を見るとスペードっぽい感じになるようにしたつもりです。

私服はキャラクターの持つイメージから

——私服に関してはどのように決められたのですか？

　これはもう、キャラクターの持つイ

◆ キュアハートのラフ

◀初期のキュアハート。全身の設定はP14をチェック！

◆ キュアソードのラフ

▶キュアダイヤモンドにもどこか似た雰囲気のある初期のキュアソード。全身の設定はP26へ

Profile

【たかはし・あきら】
10月25日生まれ。千葉県出身。アニメーター、キャラクターデザイナー。スタジオダブ東京スタジオ所属。『プリキュア』シリーズでは、『スイートプリキュア♪』のキャラクターデザインを担当。そのほか、『怪談レストラン』でもキャラクターデザインを務める。

◆**制服のラフ**
決定稿ではワンピースだったが、当初は上下がわかれたタイプだった

◆**キュアソードのラフ**
決定稿よりも、若干ショートカットなソード

◆**キュアハートのラフ**
髪の結び目部分がハート型っぽくなかったバージョンも

メージ優先です。六花は頭がいいから、落ち着いたワンピース。ありすはロリータ系ですね。マナは活発さを保ちつつ、当初考えていたふわっとしたイメージが残っています。だから、私服の袖口がすごく広いんです。スカートが短いのも彼女の活発な部分を表したかったから。

真琴に関しては、スカートをはくイメージがないし、といって男の子っぽくなりすぎないようにもしたかったので、結構悩みました。デザインを考えていた当時は、丈の長いベストが流行っていたので、それを着せてなんとかおさまったという感じですね。個人的には、夏服のほうが、真琴らしさがより強く出ているのではないかと思います。

――六花は家の机にカエルのマットを敷いていたり、目覚まし時計がカエルだったりしましたが、カエル好きという案は高橋さんが考えられたのですか？

いえ、それは美術デザインの増田竜太郎さんが考えたのが最初じゃなかったかな。増田さんは、六花の青い部屋に緑のものをワンポイントで入れたかったみたいなんです。それが、まずデスクマットになり、それを観た各話の作画監督がカエルのアイテムをどんどん増やしていったと（笑）。

――六花はメガネをかけているときとかけないときがありましたね。

元々は、ずっとメガネをかけていて、時々はずすという設定でした。でも、メガネのキャラクターって、子どもたちからあんまり好かれないらしいんですよ。ですから、時々はずす、から時々かけるになったんです（笑）。

当初は、メガネをかけていると普通の女の子だけど、メガネをはずすと美少女、なんていう王道路線も考えていたのですが、かけていてもかけていなくても美少女になりましたね。

レジーナはプリキュアと同じ

――キュアエースとレジーナは元が同じ人物ということで、共通点は考えられて製作されたのでしょうか？

キュアエースの設定は、レジーナが本編に登場する頃にはできていたと思います。レジーナの設定は、当然その前にはできていました。

レジーナは敵キャラなんだけど、キングジコチューの娘だし、キングジコチューは元々がトランプ王国の王様ですから、かなり複雑な設定を抱えている子なんです。しかもキュアエースとセットのキャラクターになるし……とまとめながら描いた覚えはあります。よく見ると、キュアエースのコスチュームと似ているところもあるんですよ。襟とか袖とか。彼女はプリキュアにはなりませんでしたが、僕の中ではプリキュアと同じです。

――キュアエースは、ほかのプリキュアと比べると大人っぽいイメージでした。

自分としては、17歳くらいのつもりで描いていましたね。なかなか、年齢は絵に出しにくいですが、ほかの4人よりは3～4歳年上のイメージです。

――ジコチューについてですが、原型となるモチーフはあったのでしょうか？

いや、彼らに関しては何もありません。パッと見て悪役だとわかるように、耳の後ろにこうもりの羽根をつけましたが。

ですから、各話に登場するジコチューに関しては、各話の作画監督さんにお任せしているんです。ベースはもちろん考えますが、羽根をつけるというお約束だけ守ってもらえれば、後は自由にお願いしますと。でも、気がついたらそのお約束がないこともあって。面白ければいいかなと（笑）。

スピンオフを作って私服をもっと出したい!?

――妖精や家族など、プリキュアを取り巻くキャラクターたちについては、どのように考えられましたか？

妖精は、おもちゃにする関係があるので、元々のイメージは別にあって、そこからアニメ用に考えていきました。アイちゃんも、発売されるおもちゃのベースがありました。

――マナたちを導くことになるジョーについてはいかがですか？

彼は、実は僕がデザインした段階では、どんな人かが細かく決まっていなかったんです。ただ、「イケメンだけど怪しい人」というのだけがあって（笑）。怪しい人ってひと目でわかるスタイルってどういうものだろうと考えた結果、チューリップ帽を被ることにしたんです。

――最近は被っている人もほとんど見かけませんからね……。

顔はイケメンなので、カッコよくなりすぎないようにと考えていたら、チェックのシャツにループタイをつけることになっていました（笑）。

――家族の中でも、ありすのお父さんと、執事のセバスチャンはインパクトがありました。

家族は基本的に子どもたちをベースに、彼女たちが生まれそうな父親、母親を考えました。ありすに関してだけは、お父さんはすごくお金持ちで世界を飛び回っているんだから豪傑だろうと。そして、セバスチャンは、小さなありすに大きな執事という構図を生かしたかったので、かなりいかつくなりましたね。僕の中では、セバスチャンはありすの父親代わりのイメージです。もしかしたら、元傭兵とかなのかもしれません（笑）。

――1年間振り返ってみて、一番お気に入りのデザインは？

マナの夏服です。彼女の夏服はピンクのTシャツの下に黒いシャツを着ているんですが、首の後ろで紐を結ぶんですね。あの紐の部分がアクセントになって、いいものができたなと思いました。冬のコートも、ちょっと軍服っぽさがあって好きだったのですが、少ししか登場させられなかったので、スピンオフがあればぜひ登場させたいですね。

プロデューサー

柴田宏明

スタッフ&キャストのみんながノッて作ってくれたことが最高の喜びです!

「愛」というテーマをどストライクに!

——前担当作の『ワンピース』から、がらっと異なる女児向け作品を担当。どんな意気込みで臨まれましたか。

以前『おジャ魔女どれみ』にAPでついたことがあるので、女児ものへの戸惑いはなかったです。やると決まって一番最初に浮かんだのは、その『どれみ』のときの思いでした。関弘美プロデューサーや五十嵐卓哉シリーズディレクター(SD)、シリーズ構成の山田隆司さん始めスタッフの方の仕事ぶりを見て「いつか自分も女児向けの作品を担当したい」と強く思っていましたから、「ああ、ついに帰ってきたか」と念願叶った喜びのほうが大きかったです。

僕にとって記念すべき『プリキュア』第1作ですから、どストレートなものをやりたいと思い、テーマは「愛」にしました。ある意味「愛」というテーマはどの『プリキュア』でも描いているのですが、その『プリキュア』という枠も飛び越えて、自分が女児ものを作るならこうだ、という直球を投げてみたかったんです。

——柴田さんにとっても挑戦だったわけですね。女児もの初という古賀豪SDの起用も挑戦だったかと思います。

『ワンピース』で各話演出の古賀さんと仕事をした時期がありました。面白かったんですよ、古賀さんの作るものは。自分の世界を持っている方だなと思って。仕事の実力のほかに、お人柄が好きだったということも大きかったです。自分が『ワンピース』を担当していた頃に、古賀さんにあることで怒られたことがあるのですが、その出来事がきっかけで逆に古賀さんの人間性や作品作りに対しての姿勢を理解することができて、一緒に仕事をしてみたいなと思ったんです。怒られてよかったですね(笑)。古賀さんの作る明るいギャグは、面白いテイストの作品を作りたいという僕の思惑にも合致していると思いましたから、わりと迷いなくオファーしましたね。古賀さんが受けてくれるかどうか、内心ビクビクしてましたけど(笑)。

——シリーズ構成の山口亮太さんは?

やっぱり『デジモンセイバーズ』で、ご一緒したことがあります。山口さんはアイデアマンだし、自分の意見を持っていて、こだわるところはこだわるんだけど、それにとらわれすぎることがない。いろんな意見も取り入れてくれて、もっと面白くするにはどうしたらいいかという積み重ねにつきあってくれる。そしてしっかりまとめてくれる方なので、機会があれば、という気持ちがありました。

——キャラクターデザインの高橋晃さんは『スイートプリキュア♪』も担当されていたので、選ばれたのですか。

いえ、キャラクターデザインについてはオーディションでした。いろんな方にラフを描いてもらって、それをスタッフみんなで検討して。高橋さんにはキュアハートとキュアソードを描いてもらったのかな。最終的に決定稿になったものとはちょっと違いますが、『スイートプリキュア♪』とも違うかわいらしさがあって、さすがだなと思いましたね。

感動の「蟹挟み」はこうして生まれた!

——スタッフも決まり、どんな話にしようかというとき、こだわられた点は?

観てくれる女の子たちが憧れる作品にしたいですから、そのためにもまず主人公をたたせたい。その主人公を中心に、明るく、強く「まとまったチームの話」をやりたい、という話を古賀SDや山口さんとしました。エピソード的にはなんでもありだったんですけど、こだわったといえばキャラクターの気持ちの流れです。話の展開のたびに、その都合でキャラクターの気持ちをねじ曲げるようなことだけはしたくなかった。

古賀SDも語られているようですが、21話のレジーナとマナのピンチに、マナがどういう行動をとるかというので議論になったんです。ふたりがマグマに落ちそうになったとき、最初の案ではレジーナが糸を放して落ち、マナも糸を放してしまう、すると奇跡が起きて……! みたいなことを考えていた。でも「違う、そうじゃない」と古賀SDが言いだして。そこで結構、白熱した議論を交わしたのですが(笑)、最終的には「マナはあきらめたりしない」「ダメモトでやる子じゃないんだ」という古賀SDの熱弁に感動したんです。このこだわりにちゃんと応えなきゃと、みんなでウンウン唸って、考えて考えて……。

——それで「足で」捕まえた!?

そう、蟹挟み(笑)。スマートじゃないところがいいですよね。そういうドロくさい解決をやってしまうところが『ドキドキ!プリキュア』なんだと思います。光を発して「奇跡が起こった!」とハデにやればいいものを、あえてそういう方向に持って行くのが面白かったです(笑)。

——そういう物語ができあがっていく過程は面白いですね!

◀▲21話、ジコチューの城がくずれ、レジーナとキュアハートは1本の糸につかまった。底はマグマの海。レジーナは自分を犠牲にして、キュアハートを救おうと!

Profile

【しばたひろあき】8月4日生まれ。富山県出身。1997年東映アニメーション入社。『おジャ魔女どれみ』シリーズなどのアシスタントプロデューサー(AP)を経て『怪～ayakashi～』よりプロデューサー。これまで『ワンピース』のTVアニメや劇場版のプロデューサーを担当。

▼信号機ジコチューを相手に苦戦するキュアハートを、六花が救う。六花は信号のお尻の歩行者用ボタンを、ぽちっとな！

▲ボタンを押された信号は赤から青にかわり、キュアハートは解放された。信号機の機能を失っていなかった、真面目なジコチューさん……

▲プリキュアの正体を明かす覚悟を決めたマナは六花の目の前で変身！　最初は「あり得ない」と驚く六花だったが……

16話でレジーナがマナに猛アタックをかける回も難問でしたね。まこぴーがいなければ、わがままな女の子がプリキュアチームを引っかき回すだけの明るい話になったと思うんですけど、まこぴーがいるから簡単にはまとめられない。まこぴーが歌をやめようとする24話も、議論に議論を重ねました。そもそもまこぴーが歌うようになったきっかけは何だったんだ？と。最初、鏡の上に映った王女様は多くを語らないという設定にしていたんです。でもそうすると、どうもうまくキュアソードの気持ちが回っていかないんですね。そこで、アン王女にもっとはっきり語らせようということになりました。２本とも成田良美さんのシナリオでした。成田さんは扱うテーマが難物で大変なシナリオに当たる率が高く（笑）、でも、見事にまとめてくださいました。

亜久里がスパルタになったワケ

――試行錯誤があるんですね。

ありますね。ちょっと視点を変えると話がうまく転がりだして、いい形でまとまったりする。それがシナリオを作っていて面白いところなんだけれど、その視点を見つけるまでが難しい。

あとはキュアエースの扱いですね。登場間もない20話代は、明かすことのできない設定があり、でもキャラの魅力は強く出したいというところで、ライターさんたちは大変だったと思います。

――キュアエースは当初、後半以降に出てくる予定だったとか。

そうです。最初はシリーズが半分過ぎた秋口にひとり仲間が増えるつもりで考えていたんですが、いろんな事情で、22話から出すことになったんです。みんなでものすごく議論をしましたよ。「どんな追加戦士が面白いのだろう？」と。

シリーズ後半で登場と考えていた頃は僕らの中では「レジーナ的な子が仲間になる」みたいに思っていました。でももっと早い登場になると、マナたちはまだそんなに成長していない。そこに同じような5人目を出しても……ということで、マナたちの成長をうながすスパルタキャラになったんです。

――ただのスパルタではなく、ギャップがあるところが亜久里はいいですね。

演出の池田洋子さんが、亜久里のスイーツ好きなところをやりすぎなぐらいかわいらしくギャグ調でやってくれて（笑）。あれがまた亜久里のキャラを際立たせることにもなりましたし、作品全体のギャグのノリが、あれでまた一段変わったようなところもあるかもしれない。キャラクターは大切ですね。どんな話を書いてもそれを転がしていくキャラに魅力がないと、面白くならないですから。

――1年を振り返って、一番印象に残るエピソードをあげていただくと？

「一番」ですか……全部好きなんですけど（笑）。あえてあげれば、２話かな。『ドキドキ！プリキュア』の方向性を決定づけたような気がするんです。

２話のスタッフ試写のとき、六花が信号機ジコチューのボタンを押してマナを助けるシーンで、ふだんはみんな仕事として見ているのでギャグをやってもそんなに笑わないんですけど、あそこは珍しく笑いが起きて「よし、これでいこう！」と思いましたからね。ジコチュー役の岩崎征実さんが、なぜかナマリのある言い方で演じて、ジコチューはこれだという感じで吹っ切れたようでもありましたし（笑）。

――ジコチューというアイデアを出されたのは、柴田さんなんですか？

そうです。でも考えたのは１話の「カニ」だけですけど（笑）。あとはライターの皆さんががんばってくれました。「こいつは横入りしたい気持ちから生まれるから、横に移動すると強いんです！　だけど、前には進めないんです！」というジコチューのひな形を出して、「あとはみんなで考えてね」と（笑）。

バカバカしくて面白いかなぐらいに思っていたんですけど、ジコチューとがってくれたと思います。

「愛」がうまく作品のテーマとしてつながってくれたと思います。

――２話ではマナが六花にプリキュアの正体をバラしたことも。

「マナなら言っちゃうんじゃないの」と言ったのは、古賀ＳＤでした。序盤にそういうことをズバッと指摘できるのは、実はすごく大切なことなんです。

スタッフの頭の中にあるキャラクター像って、最初から全員のイメージが完全にシンクロしているわけではないんですね。だから、製作段階の序盤の頃にキャラクターの方向性が定まらないこともときには起こるのですが、本作ではそこを古賀ＳＤがビシッと「マナって、こうなんじゃないの」という指摘をしてくれたのはさすがでした。そこからブレてないですから。最後はマナもプシュケーを抜かれるけれど、プシュケーのままバタバタして（笑）。プシュケーになってもマナはマナなんだと、最後までブレないキャラでいてくれました。

ベテランキャストノリノリ♪

――マナ役の生天目仁美さんが『プリキュア』にかけた熱い思いも今回うかがっていますが、キャスティングも絶妙でしたね。

おせっかいな子って、描き方によってはきつかったり、ちょっとうざったい子に見えてしまう危険性もあると思うんです。でも、生天目さんの演じるマナは「清々しさ」だけを感じさせてくれるおせっかい。この人しかいないな、と思いました。キュアエース役の釘宮理恵さんも小学生と成長した姿の両方を演じるという難しい役を完璧にこなしてくださいましたし、六花、ありす、真琴もみな複雑な感情を内心に秘めている子たちでしたが、キャストの方々がそれを魅力的に演じてくださった。本当にみんながいてくれてよかったです（笑）。

それに僕がうれしかったのは、ベテランの方がノッてやってくれたことです。アニメの仕事は多くない方ですが非常にマッチしました。イーラ役の田中真弓さんは美少年っぽい役をやらせるとめちゃくちゃカッコいいので、最初からお願いしようと思っていました。マーモ役の田中敦子さんもすごく愛着をもってやってくれて。レジーナ役の渡辺久美子さんはキャスティングマネージャーからの提案だったんですが、その名前が出たとき「その手があったか！」と。渡辺さんが演じるかわいいレジーナのイメージがすぐに湧いてきて「いける！」と確信しましたね。

――スタッフもキャストも、見事なチームワークだったんですね。

はい。終盤なんて、毎週のように集まって飲んでました（笑）。

――この作品は柴田さんにとって、どんな位置づけなんでしょうか。

１年もののオリジナル作品で、こんなに自分のやりたいことを実現させてもらえることは、滅多にありません。本作を１年間やりきることができてものすごく幸せですね。でも、自分だけでなく全スタッフが作品作りにノってくれているなと実感できるのがうれしかったです。コンテを読んだだけで、演出の方の熱さが伝わってきましたし、作画の方もすごく頑張ってくれました。キャストの方もそれを感じてさらにいいテンションで芝居をしてくれる。それを目の当たりにできるのはプロデューサーとして最高の喜びでしたね。自分の作品について、こんなことをいうのも情けない話ですけど、終盤のダビング作業では毎回感動して泣いてました（笑）。

――最後にファンのみなさんにひと言を。

お時間があれば、もう１回頭から全部観ていただけると、実はすべての話数が密接にからみあっていて、その中で新しい発見や、僕たちが本作に込めた思いをさらに感じていただけるのではないかと思います。１年間、ご覧いただき本当にありがとうございました。

設定資料集
マナのクラスメイトや
各話のゲストキャラクター、
その他のアイテムを一挙にご紹介!
大貝第一中学校 先生&生徒
マナたちのクラスメイト。二階堂はマナに気がある様子!?
◆百田
◆三村
◆二階堂
◆城戸先生
マナたちの担任の先生。
◆早乙女純
1年生。マナに助けられたことがきっかけで、弟子入りを志願する。
◆八嶋
36話でラケルに想いを寄せられる、マナのクラスメイト。
マナのクラスメイト
◆サッカー部キャプテン
◆野球部キャプテン
◆男子夏服
◆男子コート
ソフトボール部員
◆京田
◆千葉
◆万座
◆喫茶スタイル
32話の文化祭で、マナのクラスは喫茶店を開く。そのときのスタイル。
OTHER COLLECTION
◆機関車
18話でジョーに旅行に誘われた際、マナたちが乗った。白いボディの機関車は、トランプ王国でアン王女が乗ったもの。
◆ありすの飛行機
41話で木ジコチューの現れた成層圏に向かうため、ありすが搭乗。
◆ポンポン
大貝第一中学校で飼われているうさぎ。
◆スワンボート
36話でラケルが八嶋さんと乗ったボート。ジコチューにされてしまった。
◆麗奈の飛行機
41話で麗奈がキュアハートたちを乗せて、成層圏まで飛ばした。

◆ジコチューになった男女（1話）
◆美智子とお母さん（1話）
◆他校の不良生徒（1話）
◆バスガイド（1話）
◆クオレ
ジョーの使い魔。ジョーはクオレを通じてプリキュアたちの活躍を見守っていたらしい。
◆撮影スタッフ（6話）
●照明
●カメラアシスタント
●カメラマン&ディレクター
●プロデューサー
◆ヨツバテレビ警備員（5話）
◆双子の兄（4話）
◆双子のいじめっ子（4話）
◆女の子（3話）
◆ヤギジコチューになった男（3話）
◆映画スタッフ（15話）
●カメラマン
●監督
●助監督
◆販売のおばちゃん（12話）
◆土手の小学生（12話）
◆まこぴー応援団長郷田（10話）
◆カメラマン（10話）
◆お疲れサラリーマン（8話）
◆おばあさん（29話）
◆親子（29話）
◆バーベキューをする男女（27話）
◆山小屋の主人（20話）
◆ジコチューになった登山客（20話）
◆彫刻家・人見先生（17話）
◆高倉裕次郎（15話）
◆ラジコン少年（41話）
◆角野秋（37話）
◆ジコチューになる子ども（37話）
◆歯科助手（35話）
◆歯科医（35話）
◆歯医者の受付（35話）
◆他校の男子生徒（32話）
◆他校のバレー部員（29話）

個性的すぎる!?
ジコチューカタログ
ジコチュートリオやレジーナが作り出した
ジコチューたちを一挙紹介!
かわいいジコチューもいっぱい!?
◆ 機関車ジコチュー(18話)
◆ 羊ジコチュー(8話)
◆ ゴールジコチュー(19話)
◆ サッカージコチュー(9話)
◆ ヤギジコチュー(3話)
◆ イカジコチュー(1話)
◆ ピンジコチュー(19話)
◆ 野球ジコチュー(9話)
◆ ケータイ音楽プレイヤー&ヘッドホンジコチュー(4話)
◆ ハゲタカジコチュー(1話)
◆ 財布ジコチュー(19話)
◆ 雪だるまジコチュー(20話)
◆ 応援団ジコチュー(10話)
◆ ラジカセジコチュー(4話)
◆ ゴリラジコチュー(1話)
◆ クモジコチュー(21話)
◆ 鏡ジコチュー(15話)
◆ スタージコチュー(5話)
◆ カニ1号ジコチュー(1話)
◆ 色紙ジコチュー(23話)
◆ 差し入れ缶ジコチュー(16話)
◆ ブタジコチュー(6話)
◆ カニ2号ジコチュー(1話)
◆ カエルジコチュー(7話)
◆ サインペンジコチュー(23話)
◆ 彫刻ジコチュー(17話)
◆ ゴリラジコチュー羽あり(7話)
◆ 信号機ジコチュー(2話)

◆ 木ジコチュー
(41話)

◆ 虫歯ジコチュー(35話)

◆ サーブマシンジコチュー
(29話)

◆ マイク
ジコチュー
(24話)

◆ アリジコチュー
(42話)

◆ スワンオマル
ジコチュー
(36話)

◆ ジコチュー植物
(31話)

◆ CAジコチュー
(25話)

◆ 長グツジコチュー(43話)

◆ お菓子の家
ジコチュー
第1形態
(37話)

◆ コーヒーカップジコチュー
(32話)

◆ 試食ジコチュー
(25話)

◆ お菓子の家
ジコチュー
第2形態
(37話)

◆ 消しゴムジコチュー(43話)

◆ お菓子の家
ジコチュー
第3形態
(37話)

◆ ヘリコプタージコチュー
(33話)

◆ 自転車ジコチュー(27話)

◆ クリスマスジコチュー(44話)

◆ タコジコチュー(39話)

◆ ゴミ箱ジコチュー(34話)

◆ バーベキュージコチュー
(27話)

◆ ジコチュー細胞
(小)(48話)

◆ ジコチュー細胞
(大)(48話)

◆ CDジコチュー(40話)

◆ バイクジコチュー(34話)

◆ 祭りジコチュー(28話)

Gakken Mook

ドキドキ！プリキュア オフィシャルコンプリートブック

DOKIDOKI! PRECURE

2014年3月29日　第１刷発行

発行人	三木浩也
編集人	松村広行
(企画編集)	吉岡勇
発行所	株式会社　学研パブリッシング 〒141-8412 東京都品川区西五反田 2-11-8
発売元	株式会社　学研マーケティング 〒141-8415 東京都品川区西五反田 2-11-8
印刷所	凸版印刷株式会社

編集	水野二千翔
編集・執筆	野下奈生（アイプランニング） 宮村妙子（アイプランニング） 草刈勤 設楽英一
デザイン	根本綾子、佐々木麗奈 木村百恵、アトリエゼロ
カバー&表紙イラスト	原画／高橋晃
撮影	江藤はんな (SHERPA, INC.)
ヘア&メイク	addmix B.G co.,ltd.
製作協力	東映アニメーション株式会社 東映株式会社

●STAFF
プロデューサー：土肥繁葉樹 (ABC)、高橋知子 (ADK)、柴田宏明　**シリーズディレクター：**古賀豪　**シリーズ構成：**山口亮太　**音楽：**高木洋　**製作担当：**額賀康彦　**美術デザイン：**増田竜太郎　**色彩設計：**佐久間ヨシ子　**キャラクターデザイン：**高橋晃　**製作：**東映アニメーション

●CAST
キュアハート／相田マナ：生天目仁美　キュアダイヤモンド／菱川六花：寿美菜子　キュアロゼッタ／四葉ありす：渕上舞　キュアソード／剣崎真琴：宮本佳那子　キュアエース／円亜久里：釘宮理恵　シャルル：西原久美子　ラケル：寺崎裕香　ランス：大橋彩香　ダビィ：内山夕実　アイちゃん：今井由香　ほか

ありがとう!

Gakken Mook
ドキドキ！プリキュア
オフィシャルコンプリートブック　電子版

2023年5月　version1.0発行

発行人　村田剛
編集人　村田剛
企画編集　馬渕悠

発行　株式会社 Gakken
〒141-8416　東京都品川区西五反田2-11-8

【お問い合わせ】https://ebook.gakken.jp/contact/（電子出版専用）

学研グループの書籍・雑誌についての新刊情報・詳細情報は、下記をご覧ください。
学研出版サイト https://hon.gakken.jp/

※本商品に記載している情報は、紙版の発売当時のものです。
※キャストページなど、一部のページで紙版と異なる写真を使用しています。